

桜情報

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月02日

旗の台

桜はあちこちで開花したままで暖くなる日を待っているようでした。

写真は、旗の台5丁目、景德学園と中学校の桜です。

景德学園（3月26日）



荏原第五中学校（3月27日）



戸越公園



西口近くの子供広場では、かなり開花していました。



東にある新能が行われる広場でも、サクランボに変わり、隣の桜がかなりの見頃で、お花見も開かれています。まだ、残りの桜が待ち構えています。

平成21年3月28日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年04月02日

心に残したい品川 戸越

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月02日

品川には、江戸時代から残る旧東海道の街並みや、荏原の中心であった筍等農耕の村が鉄道等により急速に発展した昭和の町並みがあります。昭和の町並みは進化を続け、いつしか新しい街並みに変わります。心に残しておきたい街並みの様子です。

3月21日に桜開花宣言が出てから、気温の低い日が続き、桜は足踏み状態ですが、路地では色んな花々が、桜同様例年より早く開花しています。



戸越八幡神社鳥居近くの足下に、今年も白い小さな花が咲いています。シキミによく似た花でミヤマシキミです。赤い実はつくとセンリョウと見間違われるそうです。



戸越八幡神社傍の八幡坂では、今年もミツマタが開花していました。紙の材料として、観賞用としての花木も路地では珍しい花です。



戸越から南へ、歩道の生垣には今年もありました。春の目覚め、土筆です。杉菜の胞子茎で、日が経つと、表面が割れて、胞子の粉が現れます。緑の葉の部分が杉並木のように並んでいて、栄養茎と呼ばれていて、杉菜と呼んでいる部分です。土筆探しの目印です。

生垣作りで運ばれた土に杉菜の胞子があったものだと思いますが、生垣の手入れで引越するかも知れません。毎年、今年は会えるのかなと覗いています。

平成21年3月28日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年04月02日

しながわ区民公園の桜をご紹介します

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月09日

4月に入りお花見シーズン到来！

しながわ区民公園内には400本の桜の木があります。

「桜の広場」のソメイヨシノが花冷え後の暖かさで一気に満開になりました。

皆さんそれぞれに好みの花見頃があるかと思います。



桜の広場



朝もやの

見晴台

- ◆待ちに待った開花宣言！ まだまだ蕾が硬いです。
- ◆3分咲き！ ころそろそろ、天気が気になります。
- ◆5分咲き～7分咲き！ 満開！ お弁当を持って桜の下・・・
「花よりだんご」日本人に生まれて良かったと思う瞬間です。
- ◆葉桜！ 二週間もたつといろいろな表情を見せてくれます。
花の残り香の合間から見せる新緑がとても可愛い！
ピンクのシャワーを浴びている気分から、
風に舞い散る花びらが奏でる情景まで
散った花びらが吹き溜まりとなりピンクの絨毯、
川沿いの桜は水面一面に再び花を咲かせます。



開花宣言から二週間あまりの短い期間を精一杯楽しみたいと思います。

平成21年4月3日

●撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月09日

中原街道に植えられた「トキワマンサク」の苗木

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月09日

3月末に中原街道の銀杏並木の間に「トキワマンサク」の赤花と白花の苗木が植えられました。東京都による植栽とのこと。

両側の歩道に1.5m間隔の赤花、白花が咲くのが楽しみです。

中原街道を含め4つの街道での植栽本数は12万本とのことでした。



平成21年4月6日

●撮影：志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月09日

近所の桜、満開です

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月13日

各地で桜満開の便りが届いています。我が家の近くにある満開の桜をご紹介します。

平塚二町目町会内にある京陽公園の桜です。

皆さんの近くにも花見が楽しめる場所があると思います。



(左) 星薬科大学の桜並木から中原街道方面を写しました。新学期を迎え大学生や中学生、小学生がたくさん通る信号のある道です。

(右) この門から桜並木が続きます。



そして林試の森公園の桜です。

(下) 河津桜の黄緑色の若葉に映える山桜

(その下2枚) 冒険広場前にある満開のソメイヨシノ





平成21年4月5日

●撮影：志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月13日

京浜運河の春風情 三題

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月13日

京浜運河の春はつくしから。
毎年3月中旬頃になると場所は限定的になりますが、何箇所か運河沿いに写真の様にたくさんのつくしが見られます。少し摘み取って毎年食べて春が来たのを感じています。



3/29 撮影

つくしが終わる頃、今度は桜の花が咲きます。通常桜の花は目線より上ですが、若潮橋近くの桜の木は写真の様に枝が地上近くまで出ていますので、木全体で花が咲いている感じになります。ただ柵の中なので人間は入る事は出来ません。



4/4日撮影

次に咲きだすのがモノレール大井競馬場駅前の運河の橋を渡った所のユキヤナギです。

白い小さな花ですがたくさん植えられていますので、一斉に咲きだすととてもきれいです。

写真ではまだ咲き始めですが満開になるとすごくきれいです。



4/4日 撮影

平成21年4月9日

●撮影：青野 良平（記者NO.070103）

カテゴリ : 平成21年度

投稿日 : 2009年04月13日

品川区の桜

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年04月17日

私の住まいの近くにある公園や通りの桜が満開になっています。
散歩を楽しみながら撮影した写真をご紹介します。



目黒川



花房山



かむろ坂



御殿山



東五反田公園



五反田大橋

にある旅館



西五反田2丁目通り



林試の森

公園

撮影日 平成21年4月3日
覚張政子 (記者No 060103)

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年04月17日

品川の花便り（清明前）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月01日

品川の街並の桜

旗の台地区は昭和に開発された街並、当時の古木も少なくなりました。



旗の台1丁目、延山通りにある防災公園に古木がありました。敷地いっぱいに広がっています。



延山通りを上り詰めた所に、民家の古木と向かい合って、幼稚園の柳の保存樹の新緑が不思議な組み合わせでした。

満開の桜と柳の新緑、同じ時期なので春満開の景色です。

なお、この辺りは、荏原7丁目、小山7丁目で大正時代に田園都市計画で開発された地域です。



北品川、御殿山は歴史的な桜の名所。ただ、地形の変更が多い所で、幾度も植え替えられたものと思います。



JR大井町駅北側の土手は、桜並木です。土手のフェンス越しに楽しむ事も出来ませんが、短い時間であれば、車窓から楽しむ事も出来ます。

立会道路の桜



品川の川、立会川は、昭和40年代に一部を除いて蓋が架けられ、道路、公園として整備され、一部には桜並木も出現しました。昭和生まれの新しい街並です。西小山駅付近から中原街道付近まで桜並木が続きます。



短い並木道が荏原町にあります。三間通りから直の中延5丁目です。



西大井広場公園の東側には、一寸した桜並木があります。昔の川沿いには住宅が並んでいますが、此处だけは桜が並んでいます。



立会道路は月見橋から昔の川筋に戻り、見晴らし通りの延長に架かる桜橋の袂に、古木があります。橋は工事中でした。

品川の坂と桜

品川は丘と谷の入り混じった所、その為坂道が多くあり、代表的な所には名前が付いています。坂道に咲く桜を訪ねてみました。

さいかち坂（旗の台）



中原街道にある坂道で、桜は清水台小学校の桜が歩道に覆い被さっています。

禿坂（西五反田）



昭和に拡張された坂道で、歩道脇は桜並木になりました。

中通坂（大崎）



居木神社と芳水小学校の間で、芳水小学校の桜が坂道を飾っています。

ヘルマン坂（東大井）



見晴らし通りを南下すると坂道を下ります。坂の途中のある大福生寺の大きな桜が、坂道に覆い被さっています。

平成21年4月9日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月01日

目黒川沿いの桜&桜と菜の花のお花見

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月01日

目黒川沿いの桜

目黒川沿いの桜の特徴は、川に覆い被さるように咲いていることです。桜は障害の無い方向に枝を伸ばすと聞いています。道路の輻射熱、車の熱から、川の上を吹く涼しい風を求めているのかもしれませんが。あるいは、道路側の建物による日陰から、川に反射する光を求めているのかもしれませんが。一列に並んだ桜は、暗にそのように語っているようです。



五反田駅前通り大崎橋の東に架かる端で、端に覆い被さるように咲いていました。池上線の電車が桜の向こうに見えます。



川沿いの細い歩道は桜のトンネルです。



荏原神社の前、鎮守橋の欄干付近で、歩道の桜のトンネルは最後です。

桜と菜の花のお花見（しながわ花海道）



しながわ花海道は地図では勝島運河、現実には、運河の南側が埋め立てられ、立会川の延長、河口になっています。しかし、地理形状は新しい河口が湾で、立会川が入江のようになっています。最近整備された鮫洲船着場付近の広場は鮫洲入江広場と名付けられています。なお、漁業権は無くなりましたが、遊漁船、遊覧船が船着場を設けています。レジャー用の浮きドックも設置されました。

昭和に作られた立会川河口として、東大井護岸には桜が植えられ、桜の名所になりました。6年ほど前から、地元の人たちの花いっぱい運動で、菜の花やコスモスのお花畑が出現しました。

今年は菜の花が満開で、桜と共にお花見が出来ます。

種類は多くが大島桜でソメイヨシノは所々で見られます。また、昨年、勝島側にも植樹されました。



若木が花開く中、対岸の桜を見ながらのお花見も開かれていました。



花海道を一往復して戻ったところ、浜川ポンプ所付近には、お昼時とあって大勢の家族連れが訪れていました。

平成21年 4月 9日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月01日

品川の寺社と桜

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月04日

桜満開の情報が出ましたが、品川の桜は遅れ気味、品川には、神社やお寺が多く、一味違った桜を楽しむ事が出来ます。

法蓮寺と旗岡八幡神社（旗の台3丁目）



荏原の中心、東急大井町線荏原町駅前にある法蓮寺と旗岡八幡神社、法蓮寺では山門脇に枝垂桜が咲き始めていました。旗岡八幡神社入口でも、境内の桜が迎えてくれます。



本殿前の桜は、幹周りが2m以上もある古木です。年々背が伸びるというより、横に広がっています。

木が大きくなり、狛犬もすっかり隠れるようになってしまいました。

小山八幡神社と摩耶寺（荏原7丁目）



品川の南西端は小山の台地、森に囲まれた小山八幡神社と摩耶寺があります。桜は、境内ではなく、社務所の庭に背の高い古木があります。ソメイヨシノよりやや早く咲き、緑の葉に混じって、咲いています。

上神明天祖神社（二葉4丁目）



上蛇窪村の鎮守で、荏原七福神弁天様と反対側、境内の南端にひっそりと咲いています。本殿でお参りしても、見落としそうです。

居木神社（大崎3丁目）



目黒川沿いから現在の高台に移った神社で、付近一帯は貝塚になっているとのこと。本殿前に大きな桜が咲いています。

品川神社（北品川3丁目）



花木の多い神社で、桜は、第一京浜国道沿いの急階段を昇りきった品川富士の裾に、背の高い木があります。周りに木々が多い所為か、花はあまり目立ちません。



本殿前では、彼岸桜が未だ残っていました。例年、彼岸の頃満開になるので、以外でした。参拝の人たちも、珍しそうにカメラに収めていました。結婚式も行われていて、彼岸桜を後に記念撮影でした。

荏原神社（南品川1丁目）



以前、目黒川は、神社の後でしたが、治水対策で川筋が変わり、神社の前になりました。

した。川沿いには、桜並木が出来、神社鳥居付近は、2月には寒緋桜、4月にはソメイヨシノと2度のお花見が出来ます。

寒緋桜の緑が桜の中に映えています。石造の恵比寿様も、2度目のお花見で笑顔満開です。

天妙国寺（南品川2丁目）



本堂前に古木が咲き誇っていました。

来福寺（東大井3丁目）



京浜急行立会川駅より西、第一京浜国道の路地に入ると緩やかな斜面に位置します。桜の美しい庭園です。

天祖諏訪神社（南大井1丁目）



旧東海道で立会川に架かる橋が涙橋、その直傍にある神社で、立会川を挟んだ天祖神社と諏訪神社が昭和に一緒になった神社です。

浜川神社（南大井2）



旧東海道、鈴ヶ森にあり、ビルの2階にあるため、見過ごしてしまいます。桜は歩道沿いと同敷地の幼稚園側に咲いています。

平成21年4月9日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月04日

公園の桜

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月04日

戸越公園の桜



戸越公園は江戸から残る品川の大名庭園、桜は、色々な場所で、楽しむ事が出来ます。薬医門を潜ると、舞台のある広場では、お花見の家族連れ、グループです。



池の前の広場も静かなお花見の最中でした。満開で重たいのか枝がしなっていました。



池に流れ込むせせらぎ付近からは静かな水面に東屋と桜が映っています。池を一回りすると、池前広場の桜の大きさを改めて感じます。

池田山公園



池田山公園は江戸から残る品川の大名庭園、桜の古木が東側、坂下の入口近くにあります。



ヒヨドリも飛んできました。

しながわ区民公園



しながわ区民公園は勝島運河を埋め立てて作られた昭和の公園、四季折々の花々、花木だけでなく、野球場、テニスコート、プール等のスポーツ施設、キャンプ場、水族館等々多彩な公園です。桜は、広場、遊歩道とあちこちに植えてあります。正面奥が桜の広場、お花見広場です。



子供たちはお花見というより遊びが一番です。



トンネルを抜けると勝島の海、勝島運河の思いを残す海水の池とせせらぎがあります。

東側の丘の一角が高砂の丘、桜、ハナモモ、箒モモが満開です。



広場を下ると、公園の南端、水族館脇から西側の遊歩道になります。その遊歩道は、海水の池「勝島の海」を見下ろす松並木になっていて、対岸の桜の様子が見渡せます。レストランや休憩所もあります。

しながわ中央公園



しながわ中央公園は品川区役所前に整備された公園で、運動場、テニスコートの設備の他、ボランティアによる季節の花々で彩られる花壇があり、桜は、譲り受けた古木の他、北側芝生、南側生垣にあります。

桜の古木は運動場の東、高台にあり、一際目立つ存在です。



東の噴水付近からは、古木と並んで見えます。

東品川海上公園



東品川海上公園は目黒川の河口で品川浦に向かう芝浦運河に繋がっていて、東品川のポンプ所があります。長期に亘り整備された所で、広い範囲に桜が植えてあります。天王洲公園と繋がっています。ポンプ所の屋上には四季折々の花木の他ボランティア花壇があります。中央の桜並木はお花見の人で賑わっていました。公園の様子は、ポンプ所の屋上に通じる階段から見る事が出来ます。



アイル橋を渡ると、桜並木の下、浮きデッキに遊覧船が停まりました。この日は舟遊びが催されたそうです。

平成21年4月9日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月04日

カルガモの雛誕生

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月04日

品川区の西の台地、田園都市小山の住宅街の端にある小山巖島神社の弁天池の辺りで、この春もカルガモの雛が誕生しました。今年は1月には飛来し、3月末から巣籠っていました。ただ、数年前、卵の行方不明事件があって、カルガモの代も入れ替わり、少々警戒心があるようで、今年は、人目につかない池に架かる橋の下に陣取りました。例年、世話をしている方も、容易に姿が確認できず、苦労続きのようでした。



18日夕刻一羽生まれたとの情報、19日は朝から観察です。橋の下という悪条件なので、止むを得ず、二人だけカメラと双眼鏡持参で、通常は立入禁止の池の辺で確認です。母鳥は卵を温めていましたが、10時頃、動き始め雛の姿が見え始めました、7羽生まれているのが確認できました。



ところが、母鳥は急に巣を離れて池へ入り、雛たちを水の中に誘い、雛たちは初泳ぎです。池の辺りでは咲き始めたツツジが、雛たちを見守っています。残り6個の卵は、電球で温めることになりました。



雛たちは母親鳥にすがりつくように泳いでいます。池の中央に架かる橋から皆が見守る中、橋から遠く池の縁を泳いでいます。母鳥にやはり警戒心があるようです。30分ほど日向ぼっこした後、母鳥は水に入り、雛たちを水に誘うのですが、なかなか水に入りません。やっと餌場に辿り着き、母鳥は、餌を食べ、水を飲む手本を示しますが、雛たちは母鳥に寄り添うだけで食事をしません。元の岩場に戻って、また、日向ぼっこです。凸凹の岩場の変わりに平たな板を用意してあるのですが、今年は近寄りません。



日向ぼっこ中は、なかなか動かず、雛の姿を一目見ようと集まった人たちも早く泳いで近くに来てくれないかと祈る気持ちです。

お昼を過ぎて、母鳥が水に入り食事に誘いますが、雛たちはなかなか岩場を離れません。母鳥が何度も岩場の周りを泳ぎ岩場を離れた頃、やっと、雛たちは水に入りました。

母鳥に辿り着いた雛たちは、餌場上がり、生まれて初めての食事です。でもあまり食欲はないようです。早々と食事を止めて、元の岩場に戻りました。

長年、カルガモの世話をしている方も、食事の量が少なく、お茶目な姿も見られず、大人しい雛たちの姿は、今までにないとのことでした。

この日は、雛たちの誕生日、明日から忙しい日が待っているかもしれません。住宅地の小さな池に毎年明日の明るい話題を提供してくれるカルガモ親子です。カルガモの池は、地域の人たちの交流の場になっています。なお、境内の藤が見頃を迎えていました。

平成21年4月19日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月04日

桐の花

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月09日

桐の木は、ゴマノハグサ科の落葉高木で、日本の木工製品桐箆笥の材料として知られています。他、下駄、琴、家具等に利用されていますが、火に強く燃え難いという特徴もあります。開花時期は、本来は5月、藤の花が見頃になった頃、薄紫の朝顔を細くしたような花を多数付けます。開花の頃は殆どの木々が新緑の緑に包まれるのに、桐だけは緑の葉がありません。開花し終わった頃、新緑に包まれます。葉が無い高木は桐だと思っても間違いないのですが、見つけた木は僅か、昔は多数あったかもしれませんが、今は貴重な存在のようです。



品川区内では、珍しい木になっていて、西五反田、中延の古木が姿を消し、民家では、中延5丁目、6丁目に一本ずつ残っています。中延のものは旧立会川近くであり、川沿いでは、京急立会川駅下の立会川の土手に一本見つけました。公園では、ねむの木庭と池田山公園、ただ、池田山公園は、剪定されたばかりで、今年には花を付けませんでした。今年も異常気象で、5月の花・藤が、4月中旬に見頃を迎え、桐の花も開花しました。

中延5丁目の民家は、日当たりほぼ良好の所ですが、時期があまりに早く、直に新緑が付き始め、他にも、カイドウやハナズオウの咲き具合も今年は異常とのことでした。花の色は良いのですが、開花しない蕾も残っているようです。



中延6丁目では、西側が空地で駐車場のため、日当たりが極めてよく、伸び伸びと成長しています。例年、大きな蜂が多数飛び交うのですが、今年は静かです。



京急立会川駅の下「ボラちゃん橋」の袂にありますが、日当たりには恵まれず、例年花数の少ない所です。



ねむの木の庭では、若木が成長中です。庭園の中では、他の木に少々隠れていますが、道路からは桐らしく見えます。今年は花数が少なく、開花しながら、多くの新緑が木を被ってしまいました。品川区内の若木、今後の成長を期待します。桐に必要なのは、桜同様、十分な日当たりと、広い空間です。青桐は多く見かけますが、桐も育っていいような気がします。

平成21年4月27日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月09日

ねむの木の庭

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月09日

品川には、平成になって新しく姿を変えた街並みがあります。東五反田地区もその一つです。



ねむの木の庭は、皇后様縁の地を整備した花の庭園です。バラは年間を通して何度も開花しますが、何故か5月がバラの季節です。ねむの木の庭には、皇后様思い出の朱色のバラ、プリンセスミチコがあります。5月バラは、本来中旬の開花ですが、年々早くなり、4月末になってしまいました。行楽で訪れる人にとっては、連休の楽しみになります。



道路沿いでは、フェンスのバラが、そのアーチを潜ると、アーチの中央にも咲いています。庭園では、アーチの近くに咲いています。正面から入った右手では、多くの蕾が、青空を待っていました。



その他、桑は、緑の小さな実をつけました。



フェンスの下では、煌びやかなシラーベルビアナが見ごろを迎えていました。

平成21年4月29日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ : 平成21年度

投稿日 : 2009年05月09日

ミニバラ園

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月19日

しながわ花海道は、地図では勝島運河、6年ほど前からお花畑に変身し、北端にある鮫洲橋袂では、日本バラ協会の方がバラを育てています。



地元旗の台の路地のバラも見頃になり、ねむの木の庭でもプリンセスミチコが開花し、気になって訪れてみました。今回は、大柄のバラが咲いていました。ピンク、淡いクリーム、赤、白、黄と数は少なくとも、華やかな一角です。



鮫洲運転免許試験所の斜め前、大井町、鮫洲、立会川等への寄り道にあります。空が澄んでいれば、船着場の向こうに富士山を望む事も出来ます。



余談ですが、しながわ花海道はこの春も菜の花が満開になりました。今、数多くの実が成長しています。今年は、菜種油を作る予定と聞いています。

平成21年5月5日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日 : 2009年05月19日

ユリノキを訪ねて

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月19日

西大井広場公園

西大井広場公園は立会川に覆いが架けられ立会道路として整備され、現在のように道路を挟んだ公園に整備されたもので、北側は細長い落ち着いた公園、南は広い運動場を有する公園です。

ところで先日、北側の東の端にユリノキの花が咲いているのを見つけたのでカメラを準備して訪ねてみました。



隣のビルと同じ様な高さ、しかも周囲は他の木に囲まれています。木々の間から橙色の帯をつけた花が風に揺られているのが見えます。木の上にチューリップが咲いているそんな感じです。花が落ち着くのを待って撮影です。

ユリノキは北アメリカ原産のモクレン科の落葉高木、中国産のシナユリノキというものもあります。花の形がユリに似ているユリの名が付いたそうですが、英名ではチューリップツリーです。和名は、葉の形が半纏に似ているので、ハンテンボク（半纏木）です。背が高く、花は小柄なので、目立ちません。

品川の田園都市荏原7丁目

先月末、西大井広場公園でユリノキの開花を確認し、例年の場所、荏原7丁目を訪ねてみました。品川区内で民家にユリノキがある所です。



数年前、選定され、今年は久々の開花です。チューリップのような形がなかなか見つかりません。よく見ると、花びらが開いています。ユリと言われるような形です。今回初めて見ました。しかも、やや橙色が薄いようです。



チューリップというよりユリを思わせる形のものもありました。根気よく探して、見慣れたチューリップ型の花を見つけました。本来、立夏を過ぎて咲く花、もっと早い時期に開花し、終わりが近付いたようです。

しながわ区民公園



しながわ区民公園でも、数年前選定され、暫く花を見ていません。ユリノキは北口に並木になっています。他、野球場脇にあります。北口奥にある背の低い木で花を探してみました。風に揺れる葉陰に隠れて、幾つか咲いています。



もう一度、並木を探して、入口でも見つけました。

野球場脇でも探してみましたが、開花の確認は出来ませんでした。剪定の後、本来の咲き方に戻るには大変な時間がかかるようです。

平成21年5月5日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月19日

都会の中の田植祭

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月28日

下神明天祖神社

二葉1丁目にある下神明天祖神社では、5月6日、恒例の御田植祭が、境内の稲荷神社で行われました。近年は、稲荷講の方たちにより行われるようになったそうです。

下神明天祖神社は、下蛇窪村の鎮守、昔は農村に囲まれた神社も、今は都会の中、神前に奉納する米、神饌は、神社境内の斎田で作られています。斎田は本殿左の稲荷社脇に二面あります。



午前11時、太鼓が打たれ、笛が奏される中、御田植祭の式典が始まりました。玉串を奉納し、御祓を済ませた瑞々しい苗が斎田脇に運ばれ、式典は終了です。



いよいよ田植、斎田の傍で待機していた子供たちが早速体験しました。教わりながらの田植えです。神職も、近所の人も、次々と苗を植えていきました。



秋に収穫された稲は、神饌として下神明天祖神社と稲荷社に奉納され、秋祭りのお神輿にも使われるそうです。

平成21年5月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月28日

バラの庭園

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月28日

ねむの木の庭は、皇后様緑の地を整備した花の庭園です。



皇后様緑の朱色のバラ、プリンセスミチコが開花したのは先月末、早い時期の開花でしたが、5月の連休中、一時、高かった気温が正常に戻り、早まっていた開花も一時休養、5月10日の真夏日の後、ほぼ咲き揃いました。5月11日は月曜日ですが、多くの人たちが、見学に訪れ、思い思いにカメラに収めていました。道路沿いでは、フェンス下方に蔓紫陽花やハマナスの園芸品種アルバが咲く上で、アーチとなって迎えてくれます。正門からは、右手に朱色のバラたちが待っています。開園当時からバラの主賓席で、多くの人が、ここで記念撮影を行っています。アーチを潜った所は、その後増設されたものです。



アーチに架かっていたモッコウバラは姿を消し、プリンセスミチコにその席を譲りました。

庭園にはバラの他、季節の花々も咲いています。



バラの隣では、白い小さな花ユキノシタが一面に咲きました。ピンクの模様を付けた可愛い顔です。

隣の若木、ヤマボウシも花を開きました。バラの庭園を見下ろしています。



昨年までは道路沿いにあったニッコウキスゲも、今年は庭園の奥に移動しました。この連休中、雨で倒れたということもありましたが、元気に咲き揃っていました。

暫くは、バラの庭園が続きます。ねむの木の緑の葉が次々と増えている下で、他の可愛い花たちも忘れないでと祈っているようでした。

平成21年5月11日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月28日

戸越公園の植木市

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月29日

恒例の戸越公園の春の植木市、4月下旬には行われず5月半ばになりました。3週間もずれると花木の種類も全く異なってしまいます。更に「緑と花のフェスティバル」と名づけられ、荏原夢フェスタ2009の催しの一つとして行われました。

朝9時前から、戸越公園薬医門隣の薪能が行われる広場には、長い列が出来ていました。花苗の無料配布を待つ人たちは。お気に入りの花を頂いた後は、戸越公園で育てられた苗木の無料配布です。ハナミズキをはじめとしているんな木の挿し木のようです。



公園での植木市は、かつては街の花屋さんでは滅多に手に入らない珍しいものが準備されていましたが、徐々に少なくなっているようです。人気があったのは家庭菜園用の野菜類。トマトはよく売れていました。花は贅沢、食糧自給の思いが伝わってきます。花では赤系のバラ、貴重な存在だったニッコウキスゲ、アマリリス。



今回も盆栽の展示がありましたが、小さな盆栽の前で「買いたいのですが・・・」「展示だけで販売はしていません」無料配布の苗木がありますが、今は小さくても庭が無くては育ちません。鉢植えで花木を我慢しようとの思いのようです。



この日行われた荏原夢フェスタ2009は、東急目黒線の西小山駅前広場、武蔵小山駅前広場完成を祝う催しです。両駅周辺は目黒線開通により昭和初期から発展した街並み、繁華街でしたが、都道26号線他の道路と鉄道との立体交差を兼ねて目黒線は地下化され両駅も地下に入り、その際駅周辺の一部の繁華街は姿を消しました。言わば何気なく行われた密集地対策、都市再開発のような工事で生まれた広場です。

催しはステージ演奏、模擬店、物産市等です。趣を変えたものとして、スケルトン清掃車の展示、体験、環境啓発パネル展示によるクイズ等もありました。なお、池

の周囲には黄菖蒲が満開でした。



平成21年 5月18日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月29日

「みのむし」 見つけた！

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年05月29日

「みのむし」と聞くと皆さんはどんな場面を思い浮かべますか？
幼いころの記憶をたぐり寄せると木枯らしや冬を思い出します。寒い冬、いろんな虫たちが冬支度をしますが、枯れ葉がすっかり落ちた小枝に心細くぶら下がっている「みのむし」、子供の頃よく遊んだ思い出のある人も多いでしょう。



この地域南大井2丁目で初めて見つけました。国道沿いのコニファーの木にです！
羽化する8月頃まで見られそうです。



星型をした可愛い花もついています！

蓑虫が蓑（みの）を作るのは、冬を越すためです。蓑の作り方は、葉の巻き付け方が下手なものから、本物の雨具の蓑にそっくりなものまで様々です。

私たちがよく見かける大きな蓑虫は、オオミノガという種類だそうです。その数は多く、冬の季節を代表する「冬の風物詩」として親しまれてきました。しかし、10数年前から都会で蓑虫を見かけることが少なくなりました。

蓑虫が日本から少なくなっている理由の一つに中国大陸からヤドリバエという寄生虫が日本にやってきて、蓑虫に寄生するようになったからだそうです。

小さなことに気づくと環境が徐々に変わってきているのが解りますね。

●平成21年5月23日
撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成21年度
投稿日：2009年05月29日

小満の頃

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月02日

品川には品川区の管理となった江戸時代の大名庭園があります。池田山公園と戸越公園です。池田山公園は岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、上部のケヤキ広場には子供の砂場も用意してあり、東屋は五反田地区のOLやサラリーマンの休憩場所にも使われ、細い山道や池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。四季折々の花木もあちこちで楽しむことができます。ねむの木の庭と組み合わせた散歩道の一つです。



旗の台や東五反田の路地でも、皐月が身頃を迎えていました。例年ツツジとさつきが入り混じって咲いているので、見分けが付かなかったのですが、今年はツツジが終わりを告げてからの開花が多く、皐月のお花畑が出現したようです。池田山公園でも門の近く、古井戸付近に皐月が咲いていました。



睡蓮が開花していました。水温が25℃以上で開花するはず。池の水も熱くなっているようです。

皐月の山道が続きます。更に上っていくと左手に蛍袋が開花していました。

皐月の左手に紫がかかった紅い花が見えます。一塊になっていますが萩の花です。



東屋へ到着、小さな山登りの頂上です。皐月が点在する新緑の庭園が見渡せます。管理事務所前は新緑に包まれていて、静かな山の中を思い浮かべます。



広い遊歩道を下っていくと紫陽花が化粧を始めていました。二週間は早いようです。ドクダミも開花していたので、池田山の気候は梅雨になっています。新緑の濃い緑と皐月のピンクや赤、朱色の織り成す姿に徐々に大地の息吹を感じました。

平成21年5月23日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月02日

しながわECOフェスティバル

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月02日

6月5日の世界環境デーにちなんでこの時期恒例となった「しながわECOフェスティバル2009」がしながわ中央公園で開催されました。



雨にも拘わらず大勢の家族連れが訪れ自転車タクシー等を体験乗車していました。



公園内は傘でいっぱい。本部テント近くの太陽光発電で扇風機を廻している姿に出会いました。個人住宅に太陽光発電を勧めているとのことでした。電力会社での導入、国が先頭に立ってというのは何故か消極的らしく、今のところ個人向けということでした。なお、電力会社の環境展示も行われていましたが、内容はエコロジーではなくエコノミーでした。個人住宅取付の場合、頑丈な建物が必要になります。欲しくても手が出そうにもありません。風力発電等と平行して、品川区で地域の公園等に設置し、各家庭に給電してくれるといった夢のような話の実現してくれるといいですね。



環境問題に取り組む大学生たちがいました。品川区と共同研究事業「涼しさ回復プロジェクト」として、活動している工学院大学のグループです。品川区内の気温や舗装道路、公園の土等の温度を計測し、整理したデータはネットワーク「シナモニ」として公表しているそうです。会場では、家庭での電気、ガスの使用量を入力して家庭から出るCO₂の量を知ることが出来る「環境家計簿モニター」を募集していました。品川区内の環境情報の実態を、平成18年から測定、整理しているそうです。生活の実態を知り普段の生活で環境問題に取り組む、エコロジー「人間社会の『生態学』」を使った環境活動です。



紙芝居を通して子供たちに環境問題を指導していました。



エコスクーターの展示もありました。リチウム電池を使った電気式で、種類の差はありますが、2時間ほどの充電で、50km前後走行できるそうです。二輪車だけでなく三輪車もあるそうです。



子供の広場では電気自動車の体験乗車が行われていて、家族連れの長い列です。



公道では自転車タクシーの体験乗車もありました。こちらも長い列です。銀座等で運行しているそうです。屋根付きで人や物を安心して載せられる、個人でも欲しくなります。人力車同様ガソリン車に代わって活躍して欲しいものです。



昔から行われている古本リサイクル、相変わらずの人気でした。他、フリーマーケット、手作り環境工作教室、青空市、スケルトンゴミ収集車展示、模擬店等々ありました。

産業革命以前に戻って、新しい発想が、昔からの智慧が、地下資源エネルギーに代わる新エネルギーになると思います。石油にしがみついて離れない現状は駄々を捏

ねている幼児と同じです。現在の東京の気候は、30年前の鹿児島、沖縄間の気候です。虫や鳥たちもみかけなくなりました。また現在、上空に浮遊しているCO₂等の温室効果ガスをどのように除去するかの研究は未だのようです。一番の緊急課題ですが、雲を掴む話、手が出ません。



会場では公園管理事務所の上で太陽光発電パネルが、また風力発電のプロペラが雨模様の中静かに働いていました。

平成21年5月27日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月02日

小満の頃 ～旗の台～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月07日

旗の台5丁目は小山の田園都市に後れて台地が開かれ、その後急速に開けた街、路地の花が多い地区です。10日ほど前からザクロが開花しています。細い路地は特に花の多いところで昭和の面影が残っている所です。毎年、同じ所に咲くツユクサです。



黄色の糸を付けたような花はビョウヤナギ、この花も10日ほど前に開花しました。今、あちこちの路地で見頃になっています。よく似た黄色の花は、キンシバイも同じ頃の開花で名前が混同します。向かいの生垣では萩が開花しました。



何時もの場所に咲く紫陽花、三週間も早く見頃になってしまいました。なお近くには、やっと色づき始めたものもあります。この路地では紫陽花の頃にはタイサンボクの白くて大きな花が咲きますが、今年は未だ姿を見せていません。同じ民家では、同じように金網から姿を出している紫陽花が他にもあります。南側、大田区との区境の路地ではガク紫陽花の小花も開いていました。



中学校の前に来ました。この土手は平成に初改築されたもので、ツツジがありますが、この時期ドクダミが数多く咲いていました。梅雨入り宣言が無くても、季節は確実に梅雨になっていることを物語っています。

旗の台5丁目の東側は斜面に面しています。生垣ではなく、斜面を削り取った崖の一部、此処の民家は紅梅、白梅、木瓜他数多くの花々が道路沿いに咲きます。皐月はツツジの下で咲いていました。北側にも民家の同じような崖がありましたが、姿を消しました。



斜面の道路を下ると旗の台4丁目、小学校の前に出ます。サクランボが咲いていた向かいの生垣では、木陰で皐月が街角を見守っていました。次の路地では今年も賑やかにタチアオイが咲いていました。赤白ピンクと鮮やかでした。



川の横、中ほどの遊園地では黄色の花が満開です。大きな黄色の梅を思わせるキンシバイです。ビヨウヤナギと間違える花です。遊歩道の中央にあるヤマモモに緑色の実が付きました。熟した紅紫になるそうで、食べられます。いつも隣の雄花は見る事ができますが、雌花にはまだ出会っていません。



ヤマモモの近く、遊歩道沿いは民家のお花畑、白い紫陽花です。暫くするとガクヘンの縁が紅くなるので、是非見に来てくださいとの事でした。北側の路地に入ると紅い紫陽花です。



東の路地で荏原町駅前、法蓮寺に出ました。山門脇で紫陽花が迎えてくれました。小花も数多く開いています。

法蓮寺はしながわ百景にも選ばれている所、境内奥には緑の庭園があります。となりの旗岡八幡神社の木々と繋がって荏原町の小さな森です。花木も色々あります。紫陽花は本堂下でも開花していました。小花はもう少しです。山門横には荏原七福神恵比寿様があります。その祠の周りのナンテンが開花しました。小さな可愛い花です。



境内の中央に3本の木があります。左からシキミ、菩提樹、銀杏です。中央の菩提樹に黄緑色が見られます。菩提樹の開花です。緑色の粒々が開き、黄色身を帯びた花が次々と開花していました。蜂も飛んできました。

なお、菩提樹は品川区内では荏原6丁目の葛原神社にもあります。



平成21年6月1日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月07日

梅雨の足音が聞こえています

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

区役所（防災センター）の前のアジサイが咲き始めています。
もうすぐ梅雨なのでしょう。徐々に開花しています。（6月1日の記事）



久しぶりに連日の雨で梅雨の予習をしているようでした。
ジューンブライドの季節でもありますね。
花嫁さんのブーケに豪華なシャクヤクの花が花屋の店頭に並びはじめました。
先週大崎の花屋さんで見つけたシャクヤクを1輪買いました。私の大好きな花、
シャクヤクですが、この品種は「富士」と云います。余談ですが私は静岡県出身、た
またま店員さんも静岡県出身でした。
まだ、蕾のシャクヤクを買い部屋に飾ってみました。



数日後、このように満開になりました。
朝も天気はぐずつしていますが、沈む心も1輪のシャクヤクが癒してくれますよ。

平成21年6月1日

●朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

流氷の天使

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

聞いたことがあるフレーズかもしれませんね。

そうです、この時期に現れる「クリオネ」こと「ハダカカメガイ」です。

私が飼育しているハダカカメガイです。

オホーツク海の海水の中で漂っています。

旬の癒しアイテムです。



知っていましたか？「しながわ水族館」でもクリオネが見られるんですよ。

「しながわ水族館」には、400～450種類の生物がいて、東京湾に棲む魚たちも沢山みられます。

大井町駅から無料送迎バスが出ていますから、是非、足を運んでみてください。

平成21年6月1日

●朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

自然の中の共生

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

人間はひとりでは生きられないと聞きますが、自然の中も同じです。
今月に入り私が見た植物と動物と人間が共に生きる「共生」の世界を紹介します。

↓少し見にくいですが
オタマジャクシです

↓ア

メンボ



ショウブ



平成21年6月11日

●撮影：朝陽丘ひかり(記者NO.090101)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

「花いっぱい街」の近況

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

平塚二丁目町会の品川区協働事業「花いっぱい街」の近況を報告します。コーヒー豆の皮を使ったecoに優しいプランターで、燃焼時CO₂の排出がプラスチックのものに比べてかなり削減されるというプランターです。またコーヒーの臭いがあるため猫などが近寄りません。プランターは二重底になっており、下には保水槽があるため水を遣らないで数週間大丈夫というすぐれものです。花を植え、雨水だけでのプランター保水期間等についてテストを開始しております。プランターは町会会館前に置いていますので、お近くにお越しの際はご覧下さい。



追伸、桜が終わって夏を迎える銀杏の緑が日に日に色が濃くなってきています。星薬科大学の銀杏並木をご覧下さい。



平成21年5月21日

●撮影：志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

さき布から「布ぞうり」を作りました

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

過日、さき布から「布ぞうり」を作製する講座に参加いたしましたが、2日間の講座では片方が未完成、苦労しながらやっとこ完成しました。



布ぞうりは、友人のお母様の浴衣を頂戴して作製したものです。お母様は既に亡くなっておりますが、浴衣からよみがえった「布ぞうり」を眺めて友人は感動しきりです。ぞうりは手元に残したいと思ったのですが、友人にプレゼントしてお母様に報告していただきました。次の作品は自分のをと思っています。

「古布」のリユースがこんなに喜んでいただけることで、私も感動しました。

平成21年6月15日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月17日

梅雨入り ～ねむの木の庭～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月28日

品川には、平成になって新しく姿を変えた街並みがあります。東五反田地区もその一つです。

ねむの木の庭は、皇后様縁の地を整備した花の庭園です。

小雨の日が多い毎日、この日東京でも梅雨入りが発表されました。しかし、ねむの木の庭では梅雨明け宣言のねむの木が開花していました。今月初めからちらほらと見えたそうです。この日は、雀がねむの木の周りを飛び廻っているのに気が付きました。ねむの木にとっては気温が高い日が続いているようです。



ねむの木の庭



ねむの木

蕾は今、増産中の感じです。ピンクの可愛い花たちで埋まる日も、今年はかなり早いようです。

ねむの木の花は、梅雨明けの28℃位の気温が続く頃の夕方、日没の時間頃開花し、次の日は気温が高すぎると午前中で散ることが多いようです。本来の見頃は夜です。



プリンセスミチコ



エリンギウム

ウム

ねむの木の向かいでは朱色のバラ、プリンセスミチコも未だ名残惜しそうに咲いていました。

正門に入って右手には、エリンギウムが開花していました。薄紫の小さな雲丹のような形の花です。



ギボウシ



ナデシコ

庭園の奥ではグレートエクステンションというギボウシも開花しました。中ほどでは白い花が満開、ナデシコです。ねむの木の周り一面に広がってもいいくらいの花だと思いました。それ程にこの日のナデシコは咲き誇っていました。



ロシアンセージ



アスチルベ

道路沿いでは紫の小花を付けたロシアンセージが咲き始めました。細い柱が揺れている感じですが、近づいて見れば可愛い花が幾つも付いています。見頃になると蜂が飛んできます。その下にはピンクのアスチルベです。2週間前は白い花が咲いていましたが、色によって開花時期が違うようですね。

正門の脇や庭園のあちこちには、赤が咲いています。小さな小さな花の塊です。きらきらしています。

やがてねむの木が数多く花開くと、足元の花々は取り残されるかもしれません。梅雨入りの日に、梅雨明けの花が咲いていたねむの木の庭でした。

平成21年6月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月28日

梅雨入り ～戸越公園～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月28日

品川には、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園があります。池田山公園と戸越公園です。

戸越公園は熊本藩主細川侯の抱屋敷の大名庭園で、広い池と東屋、古木の森、薪能も行われる広場もあり、地域の人の憩いの広場になっています。

梅雨入りの日、路地や池田山公園では紫陽花が見ごろを迎えていました。戸越公園では今からとのことでしたが、蕾は少ないようでした。西口の近く、池に注ぎ込む清流の付近は、木陰にたく紫陽花が数多く咲いているのですが、極めてまばらでした。



東屋を望む池の辺りの遊歩道脇に赤みを帯びたたく紫陽花がありました。池の傍、広場に向かう遊歩道は紫陽花の小道になっているのですが、今年はほとんど開花していません。蕾が見当たらないので、今から咲くのか心配です。東屋の角付近に集まっていました。



東屋付近の広場からは、池対岸の紫陽花が見られます。近くでないのが残念です。

池の辺を南に行くと、垣根の中におたふく紫陽花とたく紫陽花がありました。久々に見るおたふく紫陽花です。旗の台の路地で数年前まで見られましたが、姿を消してから見ていませんでした。おたふくのほっぺたと言った感じです。



紫陽花の向かいにはギボウシが咲いていました。その向こうではヤマボウシが緑の中に白く並んでいました。



池の南端の橋の袂、両側に紫陽花はありました。見落としそうな所です。
池田山公園と違い、紫陽花は戸越公園の緑の中に静かに咲いていると言った感じです。

平成21年6月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月28日

梅雨入り～池田山公園～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月30日

品川には、品川区の管理となった江戸時代の大名庭園があります。池田山公園と戸越公園です。

池田山公園は岡山藩主池田家の下屋敷跡で、東五反田の傾斜面にあり、上部のケヤキの広場には子どもの遊び場（砂場）も用意しており、東屋は五反田地区のOLやサラリーマンの昼食や休憩の場所にも使われ、細い山道や池の周りの斜面には、野生の花々が咲く都会の中の山里です。四季折々の花木もあちこちで楽しむことができます。ねむの木の庭と組み合わせた散歩道の一つです。

この日の梅雨入りに合わせるかのように、池田山公園では紫陽花が遊歩道で、池の周りで咲き乱れていました。

広い遊歩道では、マリのような紫陽花がピンクや青の色で包まれていました。青色の中に一際大きいがく片のものがありません。昨年も見つたような記憶があります。青色のものは遊歩道の両脇にあります



池田山公園の紫陽花の多くはがく紫陽花と呼ばれているものです。遊歩道を下った所、工事中の小学校に面した所にもあります。古井戸の前もがく紫陽花です。池周りに入ると、中ほどの橋の向こうに花々が見えます。

菖蒲が満開でした。菖蒲の向こうはがく紫陽花が満開です。



石橋の上から池の周りを回ると、菖蒲と紫陽花が織り成す風景に出会います。池の南側は紫陽花が目印です。紫陽花の向こうに池が見えます。池周りから斜面を登る小道にもがく紫陽花があります。下を見れば紫陽花の向こうは池です。上を見れば東屋です。同じ場所、異なった雰囲気紫陽花になります。



紫陽花に気を取られて他の花々を通過していたので、もう一回りします。山肌の斜面の小道には虫袋もまだ数多く咲き、萩は次々と花を咲かせていました。小柄な花の黄色いキンシバイもあちこちに咲いています。東屋の前にはクチナシも開花していました。



キンシバイ



クチナシ

管理事務所横には、がく紫陽花が数種類咲いています。道路沿いには木陰に隠れて白いキョウチクトウも咲いています。通歩道には紫陽花だけでなく、杏子も熟し始めていました。杏子の向かいには大きなタイサンボクに白い大きな花が咲いていました。6月の花ですが、旗の台ではまだ見かけません。



キョウチクトウ



杏子の実

遊歩道の紫陽花の向こうにもクチナシが咲いていました。紫陽花の蕾は未だ多数ありました。暫くは楽しむことが出来そうです。

平成21年6月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月30日

プールで魚を釣る会食べてみる会

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月30日

豊町にある杜松小学校で入梅を思わせる小雨の土曜日、恒例の「プールで魚を釣ってみる会 食べてみる会」が行われました。今年で13回目です。

午前10時開会式町会長の挨拶、4月に他界された前町会長のご冥福を祈り1分間の黙祷、校長先生の挨拶の後、注意事項。「魚との知恵比べ、最初の20～30分が勝負です」「くれぐれもプールに落ちないように、お互い邪魔にならないよう」「まもるっち（防犯ブザー）も落とさないよう」...



小雨とはいえ、プールサイドに腰掛が出来ず、中腰や立ったままでの釣りです。椅子を準備した家族もありました。ビニールシートを広げたグループもありましたが、役に立ちません。

町会の方たちは餌の取り付けのお手伝い、待つことが大切、でも時間が長いと餌が解けるので次々と交換したほうがいい等のアドバイス。自分で餌を付ける児童もかなりいました。



静かな水面、次々と釣上げる児童もいて、バケツの中で15cm程の鯉が元気よく泳いでいました。昨秋200匹ほど放流したそうですが、小さい鯉が多いようです。なお今年は、釣るだけで持ち帰らないからと、入れ物持参は少なかったようです。釣れたらまた、水に戻すという釣りの楽しみだったようです。また、プールに残った鯉は校内の池に移すとのことでした。



校舎入口では幼児たちの金魚掬いです。始まった頃は静かでしたが、時間が経つにつれ、釣れなかった児童が次々とやって来ました。体育館横では町会やPTAの人たちが、鮎の塩焼き等昼食の準備中でした。

11時半、大人たちも挑戦です。終了後は体育館へ。片隅に、体育館の外で準備さ

れた昼食が並べられていました。御飯、みそ汁、鮎の塩焼き、おしんこの昼食です。魚は巧く釣れませんが、魚を上手に食べることに挑戦です。



板の間にテントシートが準備されていましたが、自宅から小型テーブルを持ち込んだ人もいました。



食事が終わったら閉会式。PTA会長の挨拶の後。皆で今回の釣り大会を行ってくれた町会、PTAの方たちに、「ご馳走様でした」「有難う御座いました」等、感謝の言葉を述べました。自然の恵みに対する感謝、人の労力に対する感謝の気持ちです。最後に副校長先生から「命の大切さ」についての話があり、「魚釣りの鯉、食事をした鮎の命」を思い、改めて「有難う御座いました」と締め括りました。

杜松小学校の近くには昔、品川用水という川が流れていました。釣りをした人も居たかもしれません。今はプールの釣りです。生きた魚に出会い、魚の食事をする、日本の伝統文化です。

平成21年6月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月30日

荏原町商店街と庚申様

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月30日

●場所のご案内：

東急大井町線荏原町駅南側改札を出ると荏原町商店街が続きます。

南側改札を出て踏み切りと交差する道を右に曲がるとすぐに信号があります。信号を過ぎ、しばらく歩くと立会川を埋設した公園（立会川遊歩道・シャイニングロード）が左右に広がっています。すぐその先に道が二又に分かれる地点があり、その角に庚申様があります。



庚申様社



庚申

様の石象

●庚申様と荏原町商店街：

商店会では数年前までは庚申様にちなみ毎月「5の日」に縁日が開かれ、毎年7月25日頃には庚申祭りが賑やかに行われていたそうです。この庚申塚を紹介いたします。またすぐ横には天明3年建立とされた石造りの道標があります。



石造道標

庚申塚は、「庚申様を信仰する人々が供養のために建てた石塔や像を納めたお堂」のことです。庚申塚には青面金剛（ショウメンコンゴウ）と、その足元には3匹の猿が金剛を守るように鎮座しています。庚申待ちの風習があり、昔庚申の日に仏教では帝釈天・青面金剛を祀り、神道では猿田彦を祀って徹夜で談笑・飲食をして夜を過ごすとした風習と行事が行われていたそうです。これらの風習は今に限らず当時の風習からも健康と安全が大切なこととした考えが存在し、このご利益としてお

金儲けができる、田畑の守り、家の供養や方位よけ、女の人は庚申の日には針を持たない、体を休める日、健康第一等が信じられて行事を行っていたそうです。庚申待ちの風習は道教の教えに由来するそうです。それは、人間の体の中には三尸虫（サンシチュウ）と言う三種類の虫がいて、年間6回その虫が活躍する時期がめぐってきて、庚申の夜に人間が眠っている内に体内から逃げ出す。何故か逃げ出して告げ口を行う、人間の生前に行った愚行を閻魔様〔青面金剛・天帝〕にそれぞれ告げる、そして来世を迎えたときに天国行きか地獄行きかの証拠として判断材料になるとして恐れられていたそうです。そのため人びとは料理を持ち寄り虫が逃げ出さないように夜通し見張っていたそうです。

その横にある道標は「天明3年・1783年の江戸天明の大飢饉の時に建立された」と記されており、「右うの木（鶉ノ木）光明寺道 左池かみ道（池上道）」と刻まれています。道標の高さは115cmで、道標の説明として「中原街道と池上道を結ぶ中通りと、上池上・久ガ原を経て下丸子で池上道に合流し平間に至る平間道との分岐点にある」とあります。

また、この数十メートル先の角にも江戸時代からの道標があります。この道標の四面には「東『品川道』西『せんぞく／おくさわ・・・』南『いけがみみち』北『めぐろみち』」とひらがなで刻まれています。（・・・の部分は判読できず）

●庚申様の保存：

庚申様はご近所の保存会の皆様のご協力できれいに保たれ、季節の花が飾られて供養が続けられています。地域の皆さんがこのようにして庚申様の保存を通して街の環境も守っているのですね。



場所略図

平成21年6月18日

●撮影：中西義治(記者NO.060108)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年06月30日

夏至の前日～池田山公園～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月02日

夏至の前日、池田山公園は紫陽花の小花が満開の所があちこちにありました。紫陽花の最終期に差し掛かったようです。



管理事務所近くの紫陽花も満開状態で、小さな蜂が蜜を求めていました。東屋からは濃い緑の中に、額紫陽花の額片が光って見えます。



つつじの間から顔を出した紫陽花の向こうは鯉が泳ぐ池です。



斜面を下り、池周りでは額紫陽花が小さな小花でいっぱいです。額片も紫、白があります。池周り、木陰の灯籠の傍は白い額片です。下の出入口、古井戸の向かいには、白い額片の紫陽花が満開でした。



八重クチ

ナシ

遊歩道の紫陽花も色が多少変化していました。紫陽花は七変化の花です。紫陽花の他には管理事務所近く、紫陽花に隠れて八重のクチナシも残り少なくなっていました。



ザクロ



ネジバ

ナ

東屋の前のザクロの花も少なくなっていました。斜面の小道には、ネジバナが開花していました。小花が茎の周りをねじれるように咲いています。



ギボウシ



萩

池の辺ではギボウシも開花しました。神社等の木の橋や欄干等の頭に付けられた金属の飾りが擬宝珠（ぎぼうしゅ）と呼ばれ、それから来た名前です。葱の花の一種です。色んなギボウシが野生し、観賞用に栽培されたものもあるそうです。古井戸の前でも萩が開花しました。他キンシバイ、蛸袋等も庭園中で見られました。

平成21年6月20日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月02日

夏至の前日～ねむの木の庭～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月02日



庭園の名前の由来となったねむの木、本来の開花は7月初旬の梅雨明け頃ですが近年の異常気象で開花が早まっていて今年は6月初旬梅雨入り宣言前でした。その後6月10日梅雨入り宣言の日、数輪の開花を確認しましたが係りの人たちや近隣の人たちの話では17日水曜日頃が最も多く咲いていたとのことでした。見頃が何時なのか満開らしくなるのが何時なのか見当も付かないそうです。このまま終わりにならなければと心配そうでした。

夏至を前にした6月20日は前日の開花の後がかなり見られました。木の下に多くの花が落下していました。

ねむの木は日本を北限とする南国の花、開花が本来より一ヶ月以上も早いので温暖化というより日本が南国に移動した、恐らく東京は鹿児島と沖縄の間に引っ越しているそんな気候のようです。昼間28℃位の気温の日、日没に合わせてかのように葉が閉じて先端が鮮やかなピンクの細い白い糸で造ったような花が開きます。夜明けには葉が開き昼間には花は葉の陰に隠れて見え辛くなり午後には落下する花が多いようです。一晩の花です。夕方から開花し早朝が見頃朝顔のようです。

ねむの木を見上げて首が疲れたら、足元の花たちが待っています。



オーシャンブルー



エリンギウ

ム



アスチルベ

道路沿いでは、オーシャンブルーが開花しました。エリンギウム、紅いアスチルベ他の可愛い花たちも元気です。

平成21年6月21日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年07月02日

花ロード祭り「ラバンダー-クラフトづくり&フリーマーケット」

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月09日

大森海岸駅を降りて歩道橋を渡ると、南大井2丁目花ロードが、しながわ水族館入口まで続きます。これは地域の環境整備活動の一環として、マンション6棟の人々「花交差点の仲間たち」が力を合わせて歩道花壇の整備を行っています。ボランティア活動の一年の集大成として、歩道のラバンダー-を使っての「ラバンダー-クラフトづくり」花ロード祭！を毎年行っており、今年で5回目を向かえます。



今回は、環境エコーから「リサイクル」をテーマにフリーマーケットを同時開催しました。

◆イベントに向けての準備



5月から準備を始め、参加者へのプレゼントや販売用の商品が出来上がりました。

「ルリ草の種」：昨年夏から秋に向けて歩道を行き交う人々を楽しませてくれた可愛い花の種をプレゼントに。

「ラバンダー-のポプリ袋」：袋の生地はボランティアからの提供品、ミシンが上手く動かず苦労したそうです。



南大井2丁目歩道のラバンダー- 勝島運河花海道のラバンダー- イベント前日のラバンダー-摘取り

歩道のラバンダー-不足で生花を使っただけのスティック（編みこみ）作りが危ぶまれましたが、花を介して素敵な出会いがあり、勝島運河花海道のラバンダー-を分けていただき無事クラフト作りができました。「花交差点の仲間たち」の活動の主目的でもある地域のいろんな世代が交差し、子供たちの心に残る花のある安全で住みやすい環境にすること。この出会いはボランティア活動をしている皆さんへのご褒美のように思えます。

◆年に一度の「花交差点の仲間たち」の花ロード祭スタート！

ハンダークラフト作り



ボランティアの指導も回を重ねるごとに上手になっています。小学生が難しい網込みにチャレンジ！

◆ステック：ハンダーの生花を11本～13本束ねて、リボンを使って編み込んでいきます。

◆ポプリ袋：予め作ってある袋にハンダーのポプリを詰めてリボンで結びます。

◆ミニ額：ハンダーの生花を使って小さな額を作ります。

◆台紙に貼り付け完成です。

◆フリマーケット！

3つのR を実践しました。

◆Reduce (リデュース)：減らす ◆Reuse (リユース)：再使用 ◆Recycle (リサイクル)：再利用/再資源化

マンション内でフリマーケットの出店者を募集、5店舗出店



ボランティアが行う店舗では、沢山の提供品やボランティアが時間をかけて準備したポプリ袋などが並びました。

Reduce (リデュース)：減らす 不用品を出してもそれ以上に買い物をしてしまいます！

◆花ロード祭！閉会



参加者と一緒に「花ロード祭」を楽しむことができました。来年も皆様とお会いできるよう歩道のハンダーを

大切に育て、「花交差点の仲間たち」一同、皆様をお待ちしております。

平成21年6月21日

●撮影：真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月09日

目黒線沿いを歩く～地下化3年後～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月10日

品川には、大正時代に開かれた田園都市が残っています。小山地区がその一つです。目黒線には小山の田園都市に沿って敷設され、新しい街並みを作り、周辺の交通事情に合わせ平成18年、品川区の一部が地下化されました。地下化3年後のその地域と周辺の様子です。



小山の台地の一角にあった神社と池は、電車開通の予定を知った田園都市開発の住民たちにより保護されました。

品川のカルガモの里になっている小山巖島神社と弁天池です。湧き出る池の水は豊富で、小川となって現在の西小山駅付近で立会川に注いでいるそうです。

その池も東京オリンピック工事の一つ環状7号線工事で、洗足駅が地下化されることになり、その工事で豊富な湧き水は出なくなり、ポンプで汲み上げる事になりました。池は縮小され一部は駐車場になり、池に架かっていた弁天橋は道路に変わっています。4月に生まれたカルガモも大きくなり、次々と巣立っています。



小山巖島神社の近く、旧洗足ガードは撤去され、今回の地下化工事ではガード下の道路から半分ほど地上に出る形になり、線路を越える形で歩道橋、自転車道が設置され、車用の道は隣の踏切と兼用になりました。ガードの在った付近に歩道橋に通じるエレベーターが設けられました。午前7時から午後8時まで使用できます。

歩道橋には「洗足弁天橋」と名付けてありました。

歩道橋の南は地下駅で見えないよう遮光板です。北側はフェンス越しに自転車道と自動車道が見えます。



歩道橋を渡ると右が自転車道、次に隣の踏切と一緒にになった自動車道、西小山に続く道、左が小川後の道です。

ランタナの咲く次の踏切付近で地元の人に出会いました。「この道は昔小川が流れていました。以前ガードの頃は自由に通行できましたが、エレベーターに時間制限があるのでお年寄りには不便のようです」とのことでした。なお、エレベーターの管理は目黒区です。



南側は代替道路が出来ましたが、北側は遊歩道工事中です。次の小山3号踏切付近からも遊歩道工事が見られます。近くの民家のノウゼンカズラは今年も咲き誇っていました。



次の小山2号踏切付近の民家のピンクの百日紅、今年も開花していました。踏切跡からは遊歩道の工事が見られます。



西小山駅も近く、小川跡では大きな紫陽花が咲いていました。小川があった頃は素敵な花壇があったのではと思われました。紫陽花を過ぎると西小山本通りに出ます。西小山本通りは西小山駅前に通じる弁天通りと交差します。弁天通りには道路上に「弁天通り」の看板がありました。昨年から見られなくなりました。



西小山本通り、駅前広場に面した場所、遊歩道とは違うようです。駐輪場が計画されているとの事でした。弁天通りを進むと西小山駅前広場です。弁天通り入口の「弁天通り」の看板は昨年までありました。

駅の東側は専用のロータリーになっていて、タクシー乗場が出来ていました。西小山付近は電車の街として発展した所、10分ほどで住宅街に辿り着きます。15分も歩けば池上線です。洗足駅からのバスが終わった後、碑文谷方面に帰る場合や駅前でいっぱい気分になって終電も近い頃、遠くに帰るには車が欲しくなりそうです。この日は人もタクシーも無く静かでした。なお、近くの住宅街は車も少なく、散歩に最適な静かな所です。



西小山アーケード入口で雨どいの筒と思ったら、「送水口」「荏原消防署」と記してありました。消防用の散水設備のようです。商店街は静かな雰囲気でした。ガード下のラーメン屋台や駅ホームの各商店の看板が思い出されます。文字を裏返しにしたデザイン看板もありました。駅前ロータリーを北に向かうと立会川遊歩道です。



西小山駅前立会道路の路地に「相互通行になりました」との看板がありました。路地の突き当たりは荏原第六中学校、線路沿いの学校です。中学校前から立会道路までは駐輪場になっていました。中学校前は以前と変わりなく「ふれあいストリート」と名付けられ、美術品の展示と季節の花々のトイレです。



中学校の北側の踏切跡から様子が変わりました。「武蔵小山緑道公園」の立札です。



線路跡は緑道公園に整備され道路はふわふわした感じの舗装になっています。両脇は緑の木々、紫陽花も咲いています。休憩所もあります。



次の踏切付近にはアスレチック用の用具もありました。遊歩道は続きます。両側には民家への入口が作られています。それだけでなく防災、耐震性を備えた窓の少ない要塞のような最新型の家々が次々と建てられていました。



遊歩道北側の端にはビオトープが作られていて、小魚が泳いでいました。



ビオトープに別れを告げると北側は都道36号線に面した駐輪場です。駐輪場の向こう都道を渡るには、一寸回り道が必要なようです。



旧踏切の東側を渡ると秋祭り両社祭の集結場所、武蔵小山駅前ロータリーです。パルム商店街は変わりありません。商店街に面した所が武蔵小山駅東口、ロータリー

を進むとタクシー乗場と西口です。



西口階段を出た辺りはロータリー、殆ど車は無くタクシー乗場も閑散としていました。西小山駅前と同じ様に、電車の街、タクシーに乗るには住宅まで近すぎるようです。車が殆ど無いので、多くの人たちがロータリーを直進して正面のパルム商店街に向かっていました。パルム商店街の看板が正面に見えます。アーケード街が作られた数十年も前から計算されたような看板の向きです。地下駅の上は駅ビル工事が計画されていました。昔の線路沿いを北に進むと昔の南口商店街が静かに佇んでいました。



南口商店街の脇は駅ビルが予定されている所、旧碑文谷道に出ます。北側は後地方面、遊歩道の工事中でした。小山の田園都市の西側に出来た電車の街は、電車が地下に潜っても住宅街の路地では車も少なく静かな所、遊歩道、散歩道です。車とは縁の遠い世界のような気がしました。

平成21年6月26日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月10日

命を吹き返した ガジュマロ

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月10日

先日枯れかけて、水分補給と日光で数日経過したガジュマロです。
今朝新しい小さい葉が生まれていました。命を吹き返しました。



ガジュマロは育つと大木になります。

品川区の環境情報活動センターにも大きな写真があります。

自然の写真は綺麗です。

ガジュマロがどんな大木になるのか（海外の例）、

興味あればセンターに足を運んでみてください。

数種類の自然の写真の中にガジュマロの大きな写真があります。

平成21年6月26日

●撮影：朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月10日

第9回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2009年07月22日

平成21年7月8日（水）、第9回環境記者情報交換会が5名の環境記者の出席のもとで行われました。

●今回はインタミディア代表の佐山吉孝様から、「昔のおもかげを探してまち歩き その一、東海道品川宿」と題してお話を伺いました。

佐山様には「昔のおもかげを探してまち歩き」シリーズで本年度3回お話をさせて頂くことになっており、本日はその第一回目です。



今日のまちを知るためには、まちの歴史や成り立ち、地形を知ることが大切とのこと。

いろいろなお話の中で一つのポイントをご紹介します。

品川宿は関東台地の東のはずれにあり、台地の崖と海に挟まれた南北に細長い地形です。

その地形にあったまちがつくられています。



蓮長寺（南品川）にある井戸です。品川にはどこへ行っても井戸があります。山があつて崖になっていて平地になると、山に降った雨が地面を通して自噴します。品川には今でも井戸がたくさんあり、4~5m掘ったら良い水が出ます。どこの路地にも井戸があり、それだけ人が住めたということです。

旧東海道を歴史の勉強を楽しみながら歩く人は多くいますが、この品川宿周辺は特に人気のスポットとなっています。

●続いて環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です。

・目黒川は昔に比べればきれいになったが、ヘドロはたまっている。

田舎の川は水辺へ行って水に足をつけることができるが、目黒川ではそうはいかない。大雨が降り、海の水が逆流してくると目黒川は汚れが激しくなり、川の色も変わってくる。

都会では難しいことだが、川の両岸に葦などが育っているような自然がほしい。

・セミの鳴き声が聞こえる季節になった。

セミはうるさいと言われるが、セミの声で季節を感じると思えばそれもよい。

6~7月にニイニイゼミ、次にアブラゼミ（「ジージー」と鳴く）、最夏季にはクマ

ゼミ（「シャーシャー」）、その後にヒグラシといったところでしょうか。

・公園のあり方をさらに考えて欲しい。

子どもの遊び場としてフリーゾーンの提供、子どものアイデアで遊べる公園など。しながわ区民公園には自然が残っている。カワセミもいる。昆虫の観察や採集も出来る。

・8月2日（日）品川区青少年委員会主催の「親子虫とり探検と宝探し」を、みなとが丘ふ頭公園で開催する予定、参加者100名＋青少年委員20名と大人数になります。

同委員でもある村井さんは、夏休み中の毎週土曜日21-22時に近隣のパトロールもすることになっており、去年は夜の蝉の観察もなさいました。



左から、「セミの声で季節を感じる」中西さん、「花いっぱい街」志賀さん、品川区青少年委員会の委員でもある村井さん、大森海岸・花ロード祭りで活躍の眞壁さん、「水辺＋自販機＝虫」の朝陽丘さん

・大森海岸マンション協議会では、歩道のラベンダーを使っての「ラベンダークラフトづくり」花ロード祭を毎年行っており、今回は環境エコロジーから「リサイクル」をテーマにフリーマーケットを同時開催し、非常に盛況でした。

また6棟のマンション住民が力を合わせて、歩道花壇の整備を行っています。

・平塚二丁目町会の「花いっぱい街」の近況紹介です。

エコなプランターをテストしています。二重底になったプランターで、下には保水層があるため水遣りが少なく済み、雨水の利用も出来ます。またプランターはコーヒー豆の皮を使っており、エコに優しいものです。

現在テスト期間中とのことですので、報告を期待したいと思います。

・「水辺＋自販機＝虫」・・・明かりに虫が集まってくるが、自販機がその明りの役割を果たしてくれる。夜、川の近くにある自販機に集まる虫を観察すると、その川の近くにどんな虫がいるかがわかる。目黒川近くの自販機を見たい。

川は眺めているよりふれ合う方が楽しい。水に入りたいが今の目黒川や都会の川では無理だろう。少しの汚れであれば、浄化作用のある貝（その水質に適した貝）でも良くなるかもしれないが。

●環境記者皆さんのそれぞれのエコ活動が紹介され、それをもとに話題が盛り上がりました。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2009年07月22日

半夏生

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月25日

～旗の台～西品川～

梅雨明けの花、ねむの木が6月初に開花しその後梅雨入りが宣言され大きく季節感の狂いを感じますが西品川付近の品川用水跡近くで半夏生の花が咲いていたので路地の花を見ながら尋ねてみました。



旗の台の自宅付近では8月の花ムクゲが未だ早いのかなと言った感じで咲いています。路地の至る所で見かけるのが薄紫色のアガパンサスです。



東急大井町線下神明駅を降りて路地を下ると小さな橋があります。昔の品川用水跡です。蓋が架けられ路地になっていました。紫陽花が七変化を静かに楽しんでいるようでした。



品川用水の近くをJR新幹線や横須賀線が走っています。近くの土手には夕暮れ時にはありませんが、オシロイバナが開花していました。ガードを潜ると木々に混じってオレンジ色のカンナが一輪。カンナもオシロイバナも8月の残暑の時期の花です。



この路地を線路沿いに進むと半夏生の作街角です。毎年笹竹の下で白い葉を付けています。開花してからかなりの日経つようで、残っていたのは一輪だけでした。半夏生の頃に咲くのでその名が付いたのに、この数年2～3週早くなっています。

梅雨明けは梅雨前線がなくなった頃発表されますが、植物たちは花の開花で語ってくれます。半夏生の花が開花したら田植等の農作業は終了、収穫を待つという合図だったと言われています。植物たちにとって、今年の梅雨明けは6月初だったようです。



一寸先の路地ではヒオウギスイセンが見頃を迎えていました。

花々の開花時期のずれは、人間にとっても身体の持つ四季の流れに合わず、花々の名前さえも入れ混じってしまいます。花の開花は毎年同じでした。エアコンの無い生活を送る自然の花たちは生活のリズムが狂っているようです。人間たちはエアコンの生活に慣れ、生活のリズムや習慣の狂いを気付かないでいるようです。花々を見て反省したいものです。

～しながわ中央公園～

品川には平成にかけて整備された新しい品川があります。その地域と周辺の様子です。しながわ中央公園はボランティア花壇の他運動場、テニスコート、トリム広場等を有し、設備の電力を風力、太陽光で賄うように作られた平成の公園です。



公園の北側、道路沿いには珍しい並木があります。東南アジアや琉球諸島を原産とする「シマトネリコ」です。近年の東京は異常気象、温暖化で冬が無くなり梅雨も空梅雨、気温も植物も鹿児島から沖縄付近に引っ越したみたいだと思っていましたが、そのような地域の木が並木に使われる、正に南国になっています。この並木がこの時期、淡い黄色に映えて開花の時期を迎えています。



小さな花が一斉に開花するのではなく、次々と開花し落下しています。子供たちが主に使っているトリム広場では、ヒオウギスイセンの他、一寸背の低い種類のアガパンサスが咲き誇っていました。この花も一斉に開くのではなく、次々と開花しています。広場横では白のムクゲが開花していました。



運動場、フェンスの周りは黄色や赤のカンナが見頃を迎えていました。

この公園の花々は何といてもボランティア花壇です。色んな季節の花々が手入れしてあります。

平成21年7月2日

●撮影：内田雅弘(記者NO.06010)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月25日

小暑

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月25日

～ねむの木の庭～



ねむの木の庭の象徴でもあるねむの木。今年は6月初という季節はずれの開花で不順な天候の中、咲揃った姿に出会えませんでした。今も開花しています。ただ、木の背丈が伸びて花が見えなくなってしまうというのが現実のようです。花は葉の上、木の頂き付近にあります。



庭園の奥ではオミナエシが黄色の花を付け始めました。8月の立秋まで待つてほしいものです。その手前では、ハレジオン（ギボウシ）が可愛い花を付けていました。



華やかなのは道路沿いです。ユウスゲとヤブカンゾウがあります。ヤブカンゾウはバラに変わる華やかさです。ユウスゲは夕方から開花するもので、花の向きは外を向いて閉じかけていました。道路側から撮影したものです。



ユウスゲの見える道路沿いには、小柄なアガパンサス、オーシャンブルーが咲いています。他、ヒオウギズイセンや見かけない花ヤマユリも咲いていました。

～池田山公園～

小暑を迎え梅雨とは思えない暑さ、残暑を向かえたような感じです。



管理事務所傍でもギボウシが咲いています。ヤマユリも咲いています。遊歩道を下がっていくと、池田山公園らしい場所、緑の中にヤマユリが在ります。



遊歩道の紫陽花は七変化中でした。以前白っぽかったものが青く変身、下にはヤマユリが開き庭園の奥に東屋が見られます。池周りで変わった紫陽花に出会いました。額片が全くありません。小花の集合体です。以前は額片が2倍以上の大きさのものに出会いましたが、池田山公園では何か異常が起きているのかと不思議です。同じ木に額片が不足しているものがありました。この木には何か秘密があるようですね。



池は薬が施されていて、鯉に餌を上げないよう注意書きがありました。石橋の袂ではギボウシが、池周りではヤブミョウガが花を付けていました。薄暗い中にヤブミョウガの白い塊が揺れています。



池田山公園では未だ、庭園のあちこちに紫陽花が七変化を続けています。管理事務所付近でも青く色付き、遊歩道下では大きな岩の上に紫陽花が咲き誇っています。萩も次々と開花していました。

ねむの木の庭が暑い日差しを受けるのに対し、池田山公園は斜面が小さな山をなし緑の木陰で暑さから開放される都会の里山です。

平成21年7月7日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月25日

第13回立会川環境美化運動

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月25日

7月7日の川の日になんで、月見橋から浜川ポンプ所までの立会川周辺で環境美化運動が行われ、周辺6町会の人たち、品川区、東京都が協力して、立会川とその周辺の清掃と環境美化広報活動を行いました。



浜川ポンプ所で午後3時、本間品川副区長の挨拶、大井第一地区連合町会長の挨拶後、広報班、清掃班に分かれて立会川周辺の商店街、住宅地に出かけました。広報班は「歩き煙草はやめましょう」「ポイ捨て禁止」の襷を掛け、更にマイクに合わせて「川を綺麗にしましょう」「塵のポイ捨てはやめましょう」と皆で呼びかけました。呼びかけのティッシュも道行く人たちに配りました。



清掃は品川区、東京都の職員が中心となって行いました。



川の中は筏を引きながらの清掃です。狭い川の土手も清掃しました。



午後3時40分、立会川駅前では地域の子供たちが七夕飾りで美化運動を呼びかけ、駅前の通称「ボラちゃん橋」とその周辺に花苗を植えました。地区連合会長や

本間品川副区長も参加しました。



また、しながわ水族館の協力で立会川とその周辺運河に生息する生物たちの展示が行われました。マハゼ、ミドリガニ、ボラの稚魚等です。駅前の一時を過ごし、清掃と広報活動が続けながら浜川ポンプ所に戻り終了です。今回は近々地元と縁のある坂本龍馬のテレビ放映があるとの事で、ポンプ所付近には関連資料の展示も行われました。

平成21年7月9日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月25日

夏の花と鳥

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月31日

ペチュニア

環境情報活動センター入口前に咲いているペチュニアは、鮮やかに色づいています。

この時期に、紫色の花が多いのは紫外線の量が増えるからです。



しながわ中央公園

小雨の中、公園内のドバトが雨宿りをしていました。



同様に、スズメも雨を避け、羽根を休めています。



中央公園には、身近なトリが多く、公園内のベンチからよく見えました。公園内では、トリの観察ができます。

おしろいばな

夏の花のひとつにオシロイバナがあります。

緑色の葉に、鮮やかな色とラッパの様な形の花が特徴で覗くとオシベとメシベの観察もでき、色水等の夏遊びができます。



(中央の黒く丸いものが種です)

花卉は、赤色、ピンク色、黄色、白色、混色と多様な色があります。

花が咲いた後は、徐々に黒く固い種ができ、つぶすと中からは白い粉が出ます。おしろいです。日本では昔、女性のお化粧の粉、おしろいとして使われていました。

名前の通りのオシロイバナです。

平成21年7月23日

撮影：朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月31日

西品川・夏の風景

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月31日

大崎駅から大井町方向へ向かう線路沿いに、春にはピンク色の花で鮮やかであった植木に緑色と茶色の縞模様が現れ、整えられています。

2色の縞模様は、2種類の植木が交互に植えられています。



お茶の

実

注意して見ると、お茶の実が複数個、実っていました。

5月に鮮やかだった緑色の葉は濃く固くなり、赤茶色の実が実り始めています。

秋、茶色になると実は割れ、種が見えてきます。

品川区役所から大崎駅へ向かう西品川の風景です。街中の山手線が見える坂があります。



街の風景を背に振り返ると小さい踏切が見え、街中にも懐かしい風景が残っています。

品川区内の風情ある環境です。

平成21年7月23日

撮影：朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年07月31日

大暑

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

ねむの木の庭

小暑を過ぎてから夏らしくない天候が続いて大暑を迎えました。立秋まで32℃という極暑の日があるとされる季節です。近年は35℃という猛暑であっても驚く人も少なくなっていますが人間はエアコンにより暑さの厳しさに気付かないのであって昆虫や鳥たちは涼を求めて移動し、植物たちはエアコンも無く逃げることも出来ずにじっと耐えています。小暑の後は、明け方は気温が高く昼間は涼しく晴れたと思ったらにわか雨この異常気象にねむの木の庭の花たちも苦労しているとの事でした。



小雨模様の中、7月の花ねむの木の花も既に姿を消し見頃はヤブカンゾウです。



ヤブカンゾウの傍のユウスゲも夕方以降の花ですが夕方の気温が高いようで巧く開いてくれないとの事でした。



庭園の奥のオミナエシは黄色を増していますが、蝶や蜂が居ないのが残念です。



一時は数多く割っていたアケボノフロウは静かな花数でした。

なお、道路沿いのハマユウの園芸種アルバには、赤い実が付き始めました。

開園して1年目の平成17年の今頃は、カクトラノオ、野アザミ等も咲いていて、オ

ミナミナエシとナツハゼに秋の予感が忍び寄っていました。

東五反田



ねむの木の庭を出ると左は緑に包まれたインドネシア大使館、右には季節の花木が咲く生垣があります。

この季節、ムクゲと百日紅が見頃になっています。

池田山公園



大暑を迎えた池田山公園は、濃い緑に包まれていました。雨模様のこの日は、気温もやや低く、湿り気を帯びた緑が映えていました。ヤマユリは残り少なくなりましたが、東屋付近にはカノコユリが見頃を迎えていました。庭園の何処かに自生のカノコユリが咲いている事の証です。



東屋付近から見下ろす都会の山里も深い緑です。

カノコユリは、その左側の斜面にありました。足下を気にしながら歩く斜面の脇なので、見落とすかもしれません。



今後暑い日が続いたら、池に注ぎこむ小さな滝のせせらぎを訪ねるのも好いと思います。

薄暗い中、涼を提供してくれます。

平成21年7月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

大崎の路地にて

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

ねこじゃらし

大崎の路地を朝散歩していて気づく夏のねこじゃらし。手に取ると草の青臭い匂いが夏を感じさせます。都会の中にも雑草が青々と根強く生きています。



ねこじゃらしのフサフサした部分には種子がついています。よく観察してみると、いのちを感じる事ができた朝の散歩でした。

夏の色 青く鮮やく ねこじゃらし

いちじく

大崎の路地を散歩中、ふと空を見上げると、青々とした緑色の大きな葉の中に幾つもの実が実りはじめていました。

まだ緑色のイチジクの実。

イチジクは漢字で「無花果」と記します。

その名の通り、花が無い果実。花を咲かせる事なく実る果実のイチジクは不思議な果実。

熟れると赤紫色に色づいて甘い果実になります。



イチジクは 熟れると紅く 花は無し

ヤマトシジミ

大崎広小路駅の線路沿いに蝶が舞っていた暑い夏の朝。



ヤマトシジミです。全国に生息し、普通に見られる種類の蝶で、色は灰色ですが羽根の様子が印象的です。

ヤマトシジミという名は、二枚貝のシジミにも同様の名前を持つヤマトシジミ（大和蜆）があり不思議な感覚ですが、チョウと貝類で同様の名前を持つ種類は複数あります。

同じ名の ヤマトシジミは 蝶と貝

平成21年7月26日

撮影：朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

夏の風情

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

夏のいのち

早朝にセミの鳴き声を聞く季節となりました。風情のある鳴き声です。

東京で初めて聞く鳴き声の主は、ミンミンゼミ。

ドラマや映画で聞こえるミンミンゼミの鳴き声は、私の地元、静岡の街では聞く事ができません。風情のあるミンミンゼミではなく、クマゼミの「シャンシャン」という「騒音」が早朝から鳴き始めます。

画面でしか聞く事ができなかったミンミンゼミを実際に聞き、感動しました。

静岡では騒音でしかないクマゼミも近年、分布域を北上させ、東京でも耳にする様になりました。クマゼミの分布域は温暖化の影響と木材の運送により北上したと云われています。

東京でのミンミンゼミの鳴き声がクマゼミの「騒音」に消される事がないようにと思います。



セミは土の中で数年過ごした後、抜け殻を残し、7日間しか地上では生きられません。

ぬけがらの 小さないのち せつなかる

ツククサ

鮮やかな青色に咲くツククサの中央に、鮮やかな黄色いオシベとメシベが出ています。

ツククサはその名の通り、梅雨の時期に咲き、紫外線量が増す夏に鮮やかな青色に咲きます。雑草の一種ですが非常に可愛い花を咲かせます。



青々と 濃と生きる 梅雨の草

平成21年7月26日

撮影 朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

Soft CAR

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

太陽光発電 しながわ中央公園

しながわ中央公園にて太陽光発電のイベントが行なわれていました。

太陽の光でエネルギーをつくりだしますが、最近ではご家庭でも太陽光発電パネルを取り付ける住宅がみられるようになりました。

イベント会場では様々な太陽光エネルギーを学ぶ事ができました。

中でも興味があったのはガソリンを使わないで走行が可能な電気自動車です。

ゆっくり運転し、脱スピード社会がコンセプトのようです。

暮らしもゆっくりとしたいものです。



平成21年7月26日

撮影 朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月05日

Soft CAR への1件のコメント

1. 小栗幸夫 より:

2009年10月8日 7:54 PM

ソフトカーに乗っていただき、ありがとうございます。またお訪ねしたいと思っています。

小栗幸夫（千葉商科大学、ソフトカーチーム）

打ち水大作戦 ～戸越・宮前商店街～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月13日



宮前商店街は戸越八幡神社脇の商店街で、東急大井町線戸越公園から北に向かい都道26号線の北側に位置する商店街です。品川区の打ち水大作戦は品川区内の商店街を中心に毎年会場を変えて行われていて、今年は戸越・宮前商店街がメイン会場になりました。

南北に長い商店街も保水性舗装が完成し、一斉打ち水の前にそのことが紹介されました。温度差の測定は現在、品川区内の各地の温度を測定し、インターネットで発表している工学院大学の皆さんです。道路の温度センサーは、その先端が保水性舗装の中に埋め込まれているそうです。



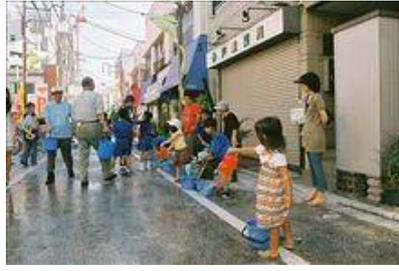
午後3時半、道路は建物の陰になりましたが一斉打ち水の開始です。打ち水にはジョウロだけでなく子供たちは水鉄砲も使いました。



この日は夏祭りが行われていて、参加する人数が心配されていましたが、地元のサッカー少年たちが駆けつけてくれました。



バケツで思い切り水を撒く姿も見られました。



10分程の打ち水の後、工学院大学からこの日の成果発表がありました。この日は大暑に入ってから3日目、日陰になった商店街でも33℃、10分程度の打ち水で32℃になりました。少々風があり、効果が薄れたようです。参加者にお土産が配られこの日の行事終了です。

上昇を続ける気温、火種はそのまま地球の気温を下げるのは容易ではありません。25℃以上の夏日には何度も打ち水を行って、大地そのものの温度を下げなくてはならないようです。道路だけでなく建物の屋根から冷やしたいものです。夢の想い、品川の海の水を真水に変えて各地に運んでくれば、水の心配なく打ち水が出来そうです。

平成21年7月25日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月13日

太陽エネルギー見本市

カテゴリ：平成21年度

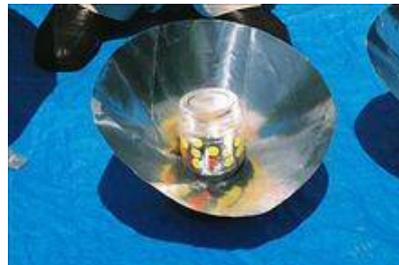
投稿日：2009年08月13日

地球温暖化対策に有効な太陽エネルギーを活用しようと開かれたものです。



品川区では太陽エネルギーに関するセミナーの実験として、太陽光による卵焼きに挑戦しました。

本部テント脇に銀色に輝くパラボラが太陽に向けて設置されました。



手前の小型のパラボラに金属の器を載せたカップが置かれ、その中に生卵が入られ蓋がされました。

20分ほどして卵焼きの出来上がりです。



大型のパラボラでは焼き芋の出来上がりです。鉄瓶の中ではお湯が沸騰していました。暗い鉄瓶の中を覗くより、耐熱硝子の容器を使うか、温度計で見たほうが解かり易かったようです。



会場には、太陽光発電システムに取り組む事業所が多数出店し、説明と売込みを行っていました。また、環境問題を取り込んだ内容もありました。人々が集まっていたのは太陽光発電も含めて住宅での「省エネ対策」に取り組んだコーナーでした。会場には賑やかな音楽が流されていましたが、その電源は大きな太陽光パネルでした。

そのパネルの脇は噴水、太陽光で電気を作る向こうでは、太陽光をそのまま浴びて元気いっぱい水遊び、自然そのままです。



他、環境問題で浮上したIHクッキングの紹介では実際に調理して販売です。先月、荏原中延昭和通り商店街夕市で紹介された千葉商科大学の電気自動車「ソフトQカー」の試乗も行われました。



環境問題に答える環境クイズには子供たちも挑戦です。会場は極暑の候らしく強い陽射しと高温の世界、扇風機を使って水蒸気を飛ばしていました。一寸濡れる感じですが一時的涼になりました。



何と言っても涼の人気は公園中央のせせらぎに用意された、大きなテントの日陰です。幼児たちの水遊びはうらやましいほどでした。もう一つの涼は模擬店のかき氷のようでした。

太陽エネルギーは昼間に利用するもの、夜は太陽がお休み、多くの生き物もお休みです。たまたま火を生活に取り入れた人間だけが、火力を使って大騒ぎをしているのです。この余分な発熱が夜の地球を冷やしてくれないようです。昼間に思いっきり太陽エネルギーを使えば充分だと思います。休憩が必要です。蛍光灯を使おうと裸電球であろうと夜の発熱です。裸電球の時代は夜9時も過ぎれば家の外は真っ暗闇でした。角の交差点の電柱に裸電球1個です。農道に至っては、交差点がなかなか無いので、1km先も闇でした。月明かりが頼りでした。車なんて見かけませんでした。また、ガラス戸でなく雨戸なので家からの光は見えません。何時も静かな夜でした。

太陽光発電について言えば国と電力会社が先頭に立つて行かずの事業であり、個人の電力は個人で準備しなさいというような感じを受けます。風力発電は交流電源、直流電源いずれも可能ですが、太陽光発電は半導体素子を使っての直流電源です。電力を保存するという蓄電効果はありますが、電源として色々便利な交流電源に変換する必要に迫られます。以前から変換の際の効率が問題になっていました。一般的に普及ということから長年の成果が出てきたようです。

石油や石炭、天然ガス、原子力といった地下資源エネルギーを止める計画の代わりに油田開発やガス田開発が計画されています。恐らくエコ、エコノミーがエコロジィより遥かに優先されているようです。

平成21年7月25日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月13日

大暑の頃

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月20日

【養玉院・如来寺】～優雅な花、古代蓮～

西大井にある「大井の大仏」で有名な養玉院・如来寺では、今年も古代蓮が優雅な花を開いていました。



境内の高座、新幹線からも見える阿弥陀如来を安置してある無量光殿の正面の大きな鉢に育ててあります。大賀一郎博士により、町田で発見された種が町田の寺院で育てられたものを分けてもらったのだそうです。昨年は、8月20日頃最後の一輪に出会い、近年の異常気象を考えると今年は早目に訪ねたのですが、それでも遅かったようです。今年も最後の一輪のようです。



花の中ほどには蜂の巣のような円盤があり、これが花托です。花托はガク片が散った後に残り、小さな丸に種が出来ます。丸の数がガク片の数で、普通の蓮は約20個だそうです。花托の大きいものが6個、小さいものが3個残っていました。昨年よりも2週間以上も早い開花だったようです。花の大きさはこの花托の大きさで決まります。大きい花托がピンク色の花ということで、大きなピンクの花には今年も遭えなかったようです。



境内の小型の鉢には睡蓮の蕾がありました。また、山門から本堂までの道の脇には、冬サングが紅い実を鈴生りに付けていました。なお8月13日には午後6時から恒例の千燈供養が行われ、境内は蝋燭と提灯の明りに照らされ幻想的な世界になります。

【旗の台～立会道路】

8月3日、養玉院の古代蓮開花を見つけ、その帰りに出会った花々が西日に輝いていたのでカメラを持って出直し、一部は夕刻に収め、残りは4日の蓮の花の帰りに撮影しました。



旗の台4丁目、5丁目の境にある路地では、今年も白のキョウチクトウが満開です。この路地の先にあったピンクのものは姿を消しました。



旗台小学校の大きなピンクの百日紅、校庭のフェンスを越えて咲き誇っていました。旗の台4丁目の路地では、ねむの木的一种ベニゴウカン（紅合歓）別名ヒネム（緋合歓）が今年も見頃になっていました。花はねむの木と同じ大きさでも葉が小さく木も小柄です。ねむの木よりも開花は遅く、花期は長いようです。



中延5丁目では芙蓉が大きく花を開いていました。暑さにうんざりといった感じでした。立会道路に戻ると、道路沿いでは民家の白い百日紅は青空に映えていました。



その下では赤の百日紅が咲いていました。赤色は見かける事の少ない色です。道路公園ではピンクの百日紅が、ここは私の公園だよとばかりに咲き誇っていました。



中延6丁目に入るとエンジュの花が満開です。今年は蜂の姿が見られません。エンジュは数本ありいずれも満開、「エンジュの並木のゼームス坂通り」を思い起こします。



次の路地の入口に、大きな紫陽花のような木がありました。クマツヅラ科の「クサギ」です。同じクサギが第二京浜国道を渡った立会道路（西大井）にもありました。背が低いので身近で花の観察が出来ました。花は良い香りがしていました。なお、クサギという名は葉の臭いが臭いからという事でした。花と葉で臭いがあまりに違う不思議な花ですね。

平成21年8月5日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月20日

立秋

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月26日

【ねむの木の庭】

立秋を迎えたというのに真夏の暑さ、その中に団体で観覧です。ガイドの説明に聞き入っていました。



ねむの木の花は終わり、秋の装いを待つ庭園です。



庭園奥のオミナエシ、少しずつ花数が増えています。例年トンボや蜂や蝶が舞っているのですが今年は静かです。

隣のナツハゼも徐々に赤みが付いているようです。



ヤブカンゾウやユウスゲは終わり、後にカクトラノオが咲き始めていました。道路に面した生垣にはヤブランの薄紫が白っぽくなって花が咲き始めていました。



また、トンボはオミナエシ付近でなくやはり暑いのか、ねむの木の木陰の周りを十数匹でぐるぐる回って飛んでいました。（写真はアップにしたものです）今年は昨年までのような35℃の気温はありませんが、毎日ほぼ熱帯夜、花たちにとっては厳しく寝苦しい夜のようなようです。

【大名庭園；池田山公園】



立秋を迎えた池田山公園は緑が映え、残暑を迎えた感じでした。東屋付近ではカノコユリが静かに咲き、百日紅もひっそりとしていました。東屋から見える庭園の緑が真夏の暑さを忘れさせます。



池周りに降りるとヤブミヨウガが白い花を付け風に揺れています。池周りからは都会とは思えない緑の空間に出会えます。小さな滝のせせらぎも涼しさを味合わせてくれます。



池と遊歩道の間には、あちこちにカノコユリが咲いていました。2週間前より数が増えています。緑の木陰にちらりとカノコユリのピンクが揺れています。



遊歩道では生垣が手入れされ、緑の大きなクッション、座するには一寸大きすぎます。萩の緑が映える中、可愛い花も未だ咲いていました。立秋を迎えた池田山公園はピンクのカノコユリが緑を一段と輝かせていました。

平成21年8月11日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月26日

立秋の頃～蒲～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月26日

【西大井、養玉院・如来寺】

西大井にある大井の大仏、荏原七福神「布袋尊」で親しまれている養玉院・如来寺では今年も蒲の穂が何気なく風に揺れていました。昨年は古代蓮が咲いていた8月下旬に撮影しましたが、今年は古代蓮が早々と立秋の終わり、蒲はその直後から見られるようになりました。千灯供養が行われる頃の花です。



本来川沿いや池等のある湿地帯の植物で、庭園での栽培は苦労があると思います。鐘楼の近くの生垣に栽培されています。参道を歩いていて見過ごす場所です。



蒲といえば直ぐに思い出されるのが「因幡の白兔」普段は生花の材料として見る程度で、咲いているものはこの境内で初めての経験です。蒲田、蒲郡などという地名、蒲と関係があるかもしれません。

普通「蒲の花」ではなく「蒲の穂」と呼んでいます。花はこの穂を形成している小さな粒々です。

上の細い部分が雄花の花穂、下の丸い長い部分が雌花の花穂です。花穂が成長し熟すと果穂、この果穂は「因幡の白兔」で知られるように火傷の治療、止血等に用いられたそうです。また火打石の火口（ほぐち）としても使われたそうです。他、葉や茎から簾（すだれ）や筵（むしろ）が作られ、御簾草（みすぐさ）とも呼ばれたそうです。

最近の世の中の色んな病、出来事、この果穂で一撫でして直したいものです。

平成21年8月17日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年08月26日

秋の気配

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月01日

お盆時期が過ぎて涼しい風が吹き始め、朝夕に秋を感じられる季節になりました。
秋の足音が聞こえていますね。
緑の中にも秋の気配を感じられる様に色づき、実りはじめています。



花の娘 赤く色づき 秋の色



花実の 赤い実りは 秋の音

平成21年8月03日、19日

撮影：朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月01日

処暑

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月03日

ねむの木の庭

ねむの木の庭が開園したのは平成16年8月26日、5年前になります。その頃のねむの木は今より2~3mも低く葉もない状態でしたが、今は濃い緑に包まれています。



またその時の花で覚えているのがタマスダレです。そのタマスダレが開花していました。



タマスダレの上ではロシアンセージが開花しました。隣ではカクトラノオガ少しづつ開花しています。



白のナadeshikoも開花しました。オミナエシも開花しているので、秋の七草が二つ咲いた事になります。



ところで秋バラには早いようですが、朱色のバラも開花していました。庭園の外ではヤブランの可愛い花が咲いています。



またアルバの紅い実が大きなサクランボみたいでした。処暑を迎えたねむの木の庭、早く真夏日から卒業したいものです。秋の花々が待っています。

池田山公園

処暑を迎えた池田山公園、濃い緑の中東屋横の百日紅も花数が増えました。他所より涼しいようで溢れるほどの開花にはならないようです。



なんと言っても都会の山里、緑が素敵な時期です。



池周りに近い遊歩道脇に紫陽花が開花していました。7～9月のタマ紫陽花です。一般の紫陽花と違い芙蓉のような蕾があり、蕾が開くと茶色の殻が割れたようにして紫陽花の小花が出てきます。蕾が球形であることからタマ紫陽花と名が付いたそうです。



遊歩道を少し登ると更に多くのタマ紫陽花に出会いました。

6月の紫陽花はガクヘンが色んな色に変化中ですが、タマ紫陽花は蕾が数多くあり、見頃を迎えていました。

平成21年8月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月03日

処暑の頃～酔芙蓉～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月03日

今年は昨年のような35℃というような過激な気温もなく、多くの方が涼しいと言っていますが、残暑の季節と言うのに未だに32℃近い気温、極暑の候、立秋前の気温が続いています。夜も25℃くらいの熱帯夜が度々、23日は処暑ですが、残暑の候はまだまだ遠い話のようです。



旗の台5丁目の民家では、今年も酔芙蓉がやっと姿を現しました。朝開花した時は白色ですが、お昼近くになるとほんのりとピンク色になり、夕方には紅く小さくなります。朝からお酒に酔い赤ら顔になっていく、そんな感じから付けられた名前だそうです。



(8:15 ↑)



(12:15 ↑)



(15:20 ↑)

なお、次の花が咲く朝には紅く小さくなった花は落下するのですが、今回は未だ残っています。

芙蓉の改良品種でアオイ科の落葉低木、低木と言っても4mはあり、花期が終わったら手入れして庭の広さに合わせるそうです。小山7丁目にもありますが、同じ様に道路に溢れていました。なお、芙蓉は残暑にかけての花木で淡紅色の大きな花を朝開き、夕方には閉じます。花の感じが似ている所為か蓮の別名になっています。白色や八重咲きのものもあります。この時朝、白い八重咲きの大きな花が咲き、紅い小さな花のしぼんだものが付いていたり、近くに落下していれば酔芙蓉です。

平成21年8月23日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月03日

春が続く小山弁天池～カルガモの雛誕生～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月04日

【小山巖島神社、弁天池】

小山7丁目、小山の田園都市の一角にある小山巖島神社の弁天池でカルガモの雛が誕生しました。4月には7羽でしたが、今回は10個の卵から10羽の誕生です。同じ母鳥から1年に2度も雛がかえったのは過去にも2回ほどあったと聞いています。23日から24日にかけて生まれたとの事。池の手入れとカルガモの世話をなさっている方、予定外の事で日程のやりくりで苦労されているとの事です。



24日朝10時半頃訪ねてみました。雛たちは母鳥について泳ぐというよりかなり気ままに泳ぎまわっていました。

母鳥に寄り添って泳いでいるのは5～6羽、特に1羽だけは何か外れて泳いでいます。餌場に向かうにも見当たりません。遠くで泳いでいました。池の縁では飛び上がろうと試みている勢いがありました。1羽だけ外れていると、鳥に狙われるのではと気が気ではありません。



この春の経験から、餌をあげ過ぎないように餌の時間に間隔を空けたとの事でした。

雛たちは餌場に来て、餌を待ちながら右往左往していましたが、午後の陽射しを浴びてお昼寝を始めました。母鳥は隣の岩場で監視です。



今回は巣籠もりの事は伏せてあったとの事で、訪れた人たちは「え！また生まれたの！」と驚きの表情でした。カルガモの孵化（ふか）は4～6月、大正の古木に囲まれた都会の避暑地で、夏の「終わり」を「初め」と勘違いした、いいえ池周りが心地好くて年中春かもかもしれません。

平成21年8月26日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年09月04日

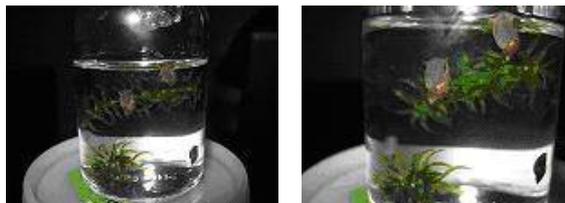
外来種

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月04日

サカマキガイという1cmほどの小さな巻貝です。環境情報活動センターの「ミニビオトープ(?)」(水槽)の中にも棲んでいる外来種の貝です。ホタルの餌の代用とされていますが、外来種のため扱いには注意しなければなりません。

サカマキガイは通常の巻貝とは逆さまに巻いています。(左巻)



朝陽丘記者のサンプル

平成21年8月19日

撮影：朝陽丘ひかり(記者NO.090101)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月04日

移りゆく季節

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月15日

重陽の節句

季節を分ける節句。中でも9月9日は最高の陽数（奇数）が重なる重陽の節句。今年には2009年ということで、「9」が三つ揃えの記念となりました。猛暑日が少なかった夏、最近では冬型の気圧配置もあり、秋めいてあちらこちらでは枯葉や落葉が見られます。



（撮影 平成21年9月9日）

何かをするにも過ごしやすい長月は、秋の夜長を楽しむ読書の秋。身体を動かしやすい運動の秋。実りの秋には食欲の秋。少しずつ季節の変化を感じられ、散歩もしやすく、緑が茶色へと色づく変化を感じてみました。



（平成21年9月13日）

これから紅葉が楽しみです。

翠の壁

冬型の気圧配置に変わり、紅葉へと移りゆく中で緑色が残る場所があります。東急池上線大崎広小路駅に近い線路の高架下。毎日くぐる高架下をゆっくり歩いてみると、壁が緑色をしているのに気付きました。



壁面に広がるのはコケです。凝視してみると1種類ではなく複数種のコケが生えています。その姿は葉の様であり、花の様でもあります。



幼い頃から身近なコケですが、名前すらひとつも判りません。コケも多くの種類があります。名前を知っていたら、また違う見え方をするのでしょうか。動物だけでなく、植物にももっと興味を持ちたいと感じられた瞬間でした。

撮影 平成21年9月13日

朝陽丘ひかり（記者NO. 090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月15日

白露の前～秋風に揺れるコスモス～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月16日

【しながわ花海道】

しながわ花海道は勝島運河と地図に記入されている立会川河口で、地域の人たちによりお花畑に変身した所です。

6月下旬に蒔かれたコスモスの種、恐らく8月初めには新芽が出て、昨年までのような35℃という猛暑もなく時には25℃以下の日も多く続いたので、8月半ば頃から開花していたと思われます。



コスモスは高原の花、降り続く雨や強い風を嫌うので、日本では秋の花として親しまれていますが、異常気象で思うように咲かないようです。種蒔きの時期からすれば今が一番見頃になります。

立会川河口はしながわ百景に選ばれた所、百万本のコスモスではありませんが、水辺の散歩に好いと思います。

コスモスの向こうに一隻のボート、練習が行われているとのことでした。



色の主流はなんと言ってもピンク、濃い赤もあります。白は少ないようです。

しながわ花海道中ほどの船着場、以前は一隻でしたがこの日は6隻も係留されていました。漁業権を放棄したと言っても、鯨洲の人たちは海が懐かしいようです。河口になっても海には出られます。



コスモスにはよく似たキバナコスモスがありますが、キバナと言ってもオレンジ色、ところが黄色のものがありました。なお、黄色のコスモスは別にありますが、なかなか見かけない品種です。

しながわ花海道で揃って咲いていたのは、近くの小学生たちが種を蒔き、手入れをしている所です。中ほど、東大井区民集会所の近くです。



鯨洲の船着場付近から鯨洲橋の間でも一部では見事な咲き方でした。青空の秋風に揺れるコスモスはしながわ花海道だけのものです。



土手を歩いて見下ろすだけでなく、水辺を歩きながら見上げるコスモスも此処だけの特権です。モンシロチョウが休憩していました。キバナコスモスでは蜂が忙しく飛び回っていました。



以前は向日葵も一面に咲きました。今は個人で手入れしている花だけです。白の曼珠沙華（まんじゅしゃげ）も咲いていました。

しながわ花海道のコスモスは今が見頃、以前のように見渡す限りのコスモス畑ではありませんが、水辺を、土手を散歩するのに爽やかな花です。

平成21年9月7日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月16日

白露

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月16日

【ねむの木の庭】

白露を迎え暑さも忘れたいこの頃ですが、昼間は強い陽射し、しかし熱帯夜から開放されるようになって、秋色を感じるようになったねむの木の庭です。



オミナエシは今が一番輝いているようです。



道路際から見えたのはカクトラノオ、ロシアンセージ等です。タマスダレは満開状態でした。



カクトラノオはかなりの花が付きましたが、もっと鈴生りになるかもしれません。時折大きな蜂が飛んできます。

隣では細いロシアンセージが、こちらにも花がありますと必死で呼びかけているようでした。

秋を感じたのかシュウメイギクが開花していました。今から庭園のあちこちに開花しそうです。

【五反田公園】



桜の並木道に落ち葉があります。桜が色付きながら落下していました。夏日が続くと言っても白露、秋が忍び寄っています。

【池田山公園】

白露を迎えた池田山公園、今までの鮮やかな緑が何となく黄色っぽい感じです。秋の気配が迫っているようです。東屋付近から見下ろす庭園は、秋の気配です。



徐々にススキがありました。以前姿を消していましたが、復活しました。池田山の秋の象徴です。



東屋横の百日紅は花も少なくなり、実が付き始めていました。今年は花が少なかった所為か、ザクロが一つ実を付けていました。もっと紅くなりそうです。



ススキの下には萩も残り少ない花を付けていました。遊歩道の足下にタマスダレが咲き乱れていました。



池周りに降りると、夏の気温とは言え秋の涼しい山道の気分でした。

平成21年9月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月16日

線路沿い

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月24日

朝夕の風が涼しく、冷たくなり、上着も一枚増やしました。明け方の散歩は少しずつ空が暗くなっていくことでしょう。

木々の枯葉、路面の落ち葉も色が増してきています。先週は緑色だった線路の高架下のコケ（写真左）もわずかに茶色く色づいていました（写真右）。コケにも秋が来ています。



東急池上線の線路沿いには緑が多くみられる場所があります。緑の中には木々、花、雑草。種類も豊富です。



枯葉や落ち葉の時期にも、まだ緑が青々と残っています。日当たりが良いのでしょう。夏の花オシロイバナが今も堂々と沢山の花を咲かせています。夏の終わりと秋の初めが一緒に感じられ、季節の移り変わりが見られます。

品川区内の街路樹の下にところどころ見られるアロエが、線路沿いにも大きく育っていました。私の身長よりもはるかに大きなアロエには驚かされます。



線路沿いに多くの植物を見ることができました。良い環境です。

撮影：平成21年9月17日

朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年09月24日

十五夜

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月07日

10月3日は十五夜、中秋の名月ともいわれているお月見の日です。太陰太陽暦で、月の満ち欠けで日付を決める旧暦の8月15日で、毎年日付が違います。

この日は朝から雨が降り続いていましたが、夜には綺麗な十五夜の月を眺めることができました。



しかし、満月は10月4日で、十五夜が必ずしも満月にはならないのです。今回の満月は翌日でした。

満月はヨガの世界では浄化作用が高まり、引き寄せる力も高まると云われています。十五夜から満月には力が高まり、心身が浄化され、物事を引き寄せられることもあるようです。

昔から、お月見で神秘的な力を得ていたのかもしれませんがね。ススキや団子をお供えしていたのもわかる気がします。

撮影：平成21年10月3日

朝陽丘ひかり（記者NO. 090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月07日

花いっぱいの玄関のある街並み

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月07日

いま、街（平塚二丁目）の道路に面した玄関先（50軒）には、「底面貯水型水やり不要ECOプランター」が置かれ、様々な花が咲き競っています。



平塚二丁目町会では、「底面貯水型水やり不要ECOプランター」の実験を町会会館で5月1日より6月22日まで実施し、効果確認をしました。

実験土壌は腐葉土土壌と高保水性軽量土壌の二種類で、毎日の降水量と最高最低気温を記録し、生育の仕方をについて比較しました。一週間に一回程度の雨が降れば水やりの必要がないという結論です。

ECOプランターはバイオマスプランター自然素材（コーヒー豆）を使用し、底面から空気を取り入れ、植物の生育を助けます。また最終的には燃えるごみとして焼却処理可能で、CO2排出量50%削減が可能なECOプランターです。



実験結果に基づきECOプランターの設置を決定・購入し、7月6日家庭にECOプランターを貸与しました。ご覧の通りECOプランターの植栽が順調に育っています。玄関先や道路境のECOプランターの花の生育状態を話題に、立ち話しをする街の人達も増えております。

今後は点から線に向けての花の道づくりの挑戦に入っていくことになります。また、町会会館屋上の緑化企画書も出来上がり、12月にお披露目する予定となり、一連の「花いっぱい運動」の初年度事業計画がこれで完了となります。

平成21年9月30日

志賀 勝（記者NO. 060110）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月07日

彼岸の頃～彼岸花を訪ねて～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月17日

昨年までのような猛烈な暑さの残暑も少ないようでしたが、彼岸花は気候の僅かな異変も感じているようで、本来の花期より早く開花しています。場所によっては終わりを告げた所もありました。本来多少の気温変化には動じず、毎年同じ日に開花するという性格の花、開花日が変わるという事は気候の異常を教えてくれているようです。

【旗の台の路地】



民家の塀間に育ててある彼岸花、花壇を高くしてあり晴れた青空に映える姿を楽しむ事が出来ます。例年9月23日が見頃で、他と変わりありませんでしたが、近年場所によって開花、見頃の時期が一致しなくなりました。カナリヤ坂脇の公園の片隅でも毎年咲いています。一部は終わりを迎えていました。

【立会道路】

旗の台3丁目、荏原町駅の裏側にひっそりと咲いています。中延5丁目から第二京浜国道までは思い出したように出会います。



中延6丁目では、足元の彼岸花だけではありません。エンジュの実が鈴生りになっていました。

第二京浜国道を渡ると遊歩道ともお別れ、大井町からの車道になります。国道に近い富士見台児童センター付近には歩道の生垣に見られます。途中西大井広場公園にもあります。



大井町駅近くでは大井蔵王権現神社付近からの桜並木の下に咲いています。大井町から関ヶ原公園までは多くの民家の入口付近にさいています。



関ヶ原公園前ではせせらぎ沿いにはさいています。関ヶ原公園も花壇に咲いています。立会道路はかつて立会川川沿いに住んでいた人たちが昔を思い育てているのかもしれません。

【しながわ中央公園】



ここの彼岸花は大きな楠の集まった土手に育てられています。今年の開花は何処よりも本来より早く、場所によっては終わりになった所もありましたが、見頃をむかえていました。この場所は見上げる位置にあるので、よく晴れた青空の日には青空に輝く彼岸花に出会うことができます。この日は生憎の曇り空でした。ススキも彼岸花も風に揺れていました。

【池田山公園】

彼岸花の季節、池田山公園では上の広場から池に下る斜面の細い道にありましたが、今年は開花が早かったようで終わりを告げていました。



代わりに彼岸花の一種、黄色の「ショウキラン」が東屋の前に咲いていました。池周りで最後の一輪に会えてホッとしました。

平成21年9月21-24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月17日

彼岸の頃～ねむの木の庭～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月17日

彼岸花の季節ですがねむの木の庭にはありません。秋を感じさせる花々があります。



正門脇にギンモクセイが白い花を開き始めました。硬い葉がきらきら輝くので、見落としそうです。

隣ではシュウメイギクが見頃です。シュウメイギクは庭園中の花壇を飾っています。



秋のバラは小柄、プリンセスミチコも静かに咲いていました。庭園の奥はシュウメイギクの後でナツハゼの色も濃くなってきました。



オミナエシは最盛期のような様子でした。季節の仲間、ワレモコウ、フジバカマは未だとの事でした。手前には今年から可愛い白い花、春寿菊が開花しました。一寸時期尚早とのこと。



道路沿いでは、タマスダレが満開、その上ではロシアンセージの色が濃くなりました。隣のカクトラノオは終わりを告げていました。



またこの日は蝶の飛来が多く、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウと賑やかに飛び廻っていました。

平成21年9月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月17日

カーシェアリングで二酸化炭素の排出削減

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月26日

カーシェアリングとは、複数の人が1台の自動車を共同で利用する自動車利用システムです。利用者は自分では自動車を保有することなく、会員登録をして、必要な時に自動車を借りるというもので、会員制レンタカーのようなものです。自動車を共有することにより車の保有台数が減ることで資源を節約でき、ガソリン消費が減り、温暖化の原因である二酸化炭素の排出も削減されます。

現在品川区内に10箇所のステーションがあります。

全国では北海道から九州まで113箇所あるそうで、今も増設されています。

公式サイトはこちら<http://www.cs24.jp/>



平成21年10月20日

勝山宏則（記者NO. 060204）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月26日

彼岸過ぎ～戸越公園～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月27日

秋恒例の植木市、前回からの呼名で「緑と花のフェスティバル」が10月3日、4日に計画されました。初日の土曜日は生憎、時折小雨がふりましたが薪能が行われる広場では、花木の愛好家が午前9時から好みの花々を求めていました。



季節柄、色々な菊の花がありました。可愛い花を求める人が多いようでした。特にダイヤモンドソウ（大文字草）は寄せ植えに使うとのこと、買い求めたら早速、寄せ植えのテントに向かいました。



池の周りの広場には苗木が並べてあります。戸越公園で得られた種から育てた草花や苗木だそうです。無料配布されました。片側には寄せ植えと盆栽が並べられていました。



寄せ植えは直ぐに始まりました。まずは先生が手本作業です。材料を準備してもらい皆で挑戦です。いつの間にかテントの中は寄せ植えの作業でいっぱいになりました。小雨が降ろうと関係なしと言ったかんじです。花木を庭に植えるのにも庭が無くベランダというのが実情、鉢植えで育てる寄せ植えや盆栽になるようです。大自然の本物の地面で伸び伸びと育ててあげたいものです。



10時半過ぎスタッフから伝言です。「11時から花苗の無料配布を行います。並んで

下さい。」小雨が降っていて整理券を貰って雨宿りの人が大半でした。花苗を頂いたら苗木に便利なエコバッグも頂き、皆重宝がっていました。整理券なので二度並んだ人もいました。花苗を買った人には抽選券、米等の景品もあったようです。今回は時折雨が降るといった生憎の天候、盆栽や寄せ植えを目的とした人が早くから集まり、11時の花苗の無料配布と共に帰路についたようです。

平成21年10月4日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月27日

寒露の頃

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月27日

10月初に台風なんて二百十日の一月遅れのような感じです。夏が一月早く始まり、秋が一月遅れで進んでいる感じがです。その為、路地の草花や花木は落ち着いた生活が出来なくなってきているようです。10月10日は晴れの得意日と言われ東京オリンピックの開催日に選ばれた日です。子どもの頃の運動会もこの頃行われていましたが、運動場に霜が降りていたのを思い出します。寒露と言われる所以です。

【旗の台】



台風の風が去ったと思ったらピラカンサが真っ赤な実で溢れていました。この木に赤い実が付くのは例年10月末からですが、今年は猛烈な風で昔に戻ったようです。



路地のあちこちから心地よい香りがしています。金木犀が満開になっていました。台風の風で落下しなかったようです。



旗の台3丁目、荏原町駅前の方蓮寺では金木犀が生垣として育てられていて、駅周辺にいい香りを漂わせていました。近くの旗の台3丁目立会道路（遊歩道）では木々が黄色みを帯び、秋色が増していました。休日に人が誰も居ないなんて珍しい事でした。

【ねむの木の庭】

10月の台風でねむの木の庭の花々はどうなっているか気掛かりでした。



(↑手前からシュウメイギク、フジバカマ、ナツハゼ) (↑右;フジバカマ 左;ナツハゼ)

道路沿いではフジバカマが開花していました。庭園の中は台風の後の掃除中で、恐らく満開状態だったシュウメイギクが、台風によって多くの花びらを飛ばしていました。その奥はナツハゼも色付きフジバカマも開花していました。



他にも浜菊が開花していました。蕾が数多くあり、今から次々と咲き始めます。白い菊、春寿菊も健在です。



白のギンモクセイも各地で見られる金木犀同様、満開状態で好い香りを放っていました。



道路沿いのカクトラノオは花が終わり実を付け始めていました。その脇ではロシアンセージに蜂が来ていました。庭園中央ねむの木は未だ青々としていて秋を感じさせませんが、庭園の至る所で秋が進んでいるようでした。

【池田山公園】



池田山公園の秋は先ずススキです。ススキの奥には黄色の野菊が咲いていました。



斜面を下りて行くと早くもツワブキが開花していました。例年だと11月の開花です。池周りに降りると緑の勢いが落ちてきたのを感じます。



栗の実が一個木の葉に乗っていました。実りの時期は過ぎたようです。ところで、斜面には野菊の他に黄色の花がもう一箇所ありましたが、遊歩道脇で同じ花を見つけました。アキノキリンソウ（秋の麒麟草）でアワダチソウ、セイタカアワダチソウと呼ばれている秋の花です。見る方向によってあまりに形が違います。ねむの木の庭は白い花、池田山は黄色の花が目立ちます。



黄色だけではありません。ススキの近くの萩は終わりになっていたようですが、下の出入り口近く、古井戸の近くでは未だ満開状態でした。遊歩道中ほど、タイサンボクの下では台湾ンホトトギスが開花していました。例年11月に見られる花です。旗の台路地、ねむの木の庭、池田山公園を周り、台風の影響で色んな現象が起きていると感じた一日でした

平成21年10月11日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

第22回しながわ夢さん橋2009

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月27日

山手通りを挟んだ大崎駅前の工場地帯跡に新しい街が出来、大崎駅から天井付きの大きな歩道橋が2箇所に分けて架けられました。南側の歩道橋（東西自由通路）は「夢さん橋」と名付けられ、それを祝って毎年数々の催しが行われてきました。夢さん橋のフリーマーケットと山手線ノンストップ一周の旅が注目の的でした。



昨年までは二つの歩道橋ではフリーマーケット、物産市、ミニステージパフォーマンス等が、またビルを繋ぐ通路では模擬店等が所狭しと並び、他、ビル内外の色々な場所で色々な催しが行われ、初めて訪れた人にはお祭り騒ぎの迷路を歩くイベント会場でした。



今年には会場に大きな変化がありました。また、子供を主体とした「子供夢さん橋」として色々な催しが行われました。夢さん橋、駅改札口前はイベント本部のほか子供たちの塗り絵コーナーです。紙芝居も行われました。昨年まではミニステージが設けられ、演奏、踊り等で人だかりが出来ていました。午後3時頃には抽選会も行われていました。



夢さん橋やビルとビルの通路で開催されていたフリーマーケットは、昨年通路下に出来たミニのサッカー場が会場です。通路には改札前から西側には物産市、無料の各種相談所（労働、行政、年金、税金、不動産、耐震性等）が並んでいます。



東側には物産市というより、観光案内、島根県松江市から「松枝開府400年祭」の紹介です。組立式の茶室と御点前の紹介も行われていました。



幅の広い通路の両側にフリーマーケットが並んでいましたが、今年は片側に手づくり市です。色んな小物が並べられていました。大崎ニューシティのビルに入ると「O美術館」があります。「しながわ夢さん橋」と同時開催の「東ちづるチャリティ展、戦争とドイツ平和村の子どもたち」が開かれていました。



ビルを出ると隣に新しいビルがそびえ立っていて、ビルの下部には観覧席を設けたステージがあり、子供たちの一輪車の演舞が終わったところで、続いてダンスが披露されました。

目黒川の対岸は御成橋公園「子供夢さん橋」会場です。唯一模擬店のある会場で、焼肉、焼きそば等々、お昼時には混雑したそうです。



参加企業の協力でショベルカーの体験コーナーでは子供たちが記念撮影です。おもちゃのショベルカーで遊ぶコーナーもありました。



遊具のある広場ではくじゲームが行われていました。

「夢さん橋」に対する大人の思いよりも、子供たちにとっては何と言っても遊具が

一番のようでした。

大人にとっては思い出の品川であっても、子供たちにとっては新しい品川です。子供たちの新しい船出を祝う棧橋のイベントのようです。22回目ということは、当時は新しかったビルもやがて老朽化ビルの一員、鉄筋コンクリートのビルの寿命は25～30年と言われています。東京都庁のビルも建替えの話が出ました。この大崎地区も遠くない将来のようです。新しいビルと共に、子供たちが新しい街とお祭りを引き継いでいくと思います。

平成21年10月13日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月27日

しながわ発見お宝探し

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月29日

【東五反田→上大崎→御殿山を歩く】



五反田駅前に集合した一行は、桜田通りを上りかけた所から左に折れ、東五反田の住宅街に入ります。五反田公園を左に見て住宅街を進むとねむの木の庭です。平成16年に整備された皇后様縁の公園で、ちなんでねむの木の庭と名付けられました。庭園は皇后様縁の花々が手入れされています。



この日はシュウメイギクが満開、浜菊も数多く花を付けていました。ナツハゼの傍らではフジバカマも開花しています。朱色のバラ、プリンセスミチコも開花していました。白のナデシコ、ギンモクセイも開花しています。秋の風情に皆満足の様子、名残惜しそうに写真を撮っていました。



大使館脇を過ぎ、坂道を下り始めた所が池田山公園、ガイドしながわの方の説明に聞き入っていました。江戸時代の大名庭園は都会の山里を思わせ、池周りを楽しむことが出来る庭園です。昔は富士山や五反田付近の目黒川も見えたそうです。



東屋付近には柿が実り池のある庭園を見下ろすとススキが揺れています。黄色い野菊も咲いています。池周りからは何となく秋を感じさせる山肌がみられます。



ホトトギスも咲き誇っています。ハゼの葉も色付き始めていました。ススキ脇の萩は終わっていましたが、通歩道では満開でした。いよいよ秋色が始まるそんな感じの池田山公園でした。



公園の向かい側は上大崎の台地、坂道を登っていくと、江戸時代に移ったと言われる芝増上寺のお寺の里です。戦災で焼け、コンクリート造りになってしまったお寺が数多くあるそうです。

辿り着いたのは明治時代の思想家、慶応義塾創始者の福澤諭吉縁のお寺、常光寺です。福澤諭吉は生前よく訪れ墓所として選んでいたこともあり、没後はこの地に埋葬されたそうですが、遺族の意向により移転、今は墓所記念碑と胸像が残っています。



境内には六体の地藏様が並んでいました。その手前、足下にはホトトギスが咲いていました。お寺の里を思わせる塀や門が続きます。



路地を一回りした処が隆崇院、日本の一般に見られる趣とは違った海外を思わせる建物です。本堂の天井は明治、大正、昭和と活躍した画家「伊藤深水」の描いた「牡丹唐獅子図」と一門の描いた花の絵で飾られています。



墓所には伊藤深水や明治時代にはじめて椅子を製作したと言われる「古家豊吉」の墓もあります。山門脇には大きな延命地藏菩薩が建っています。



お寺の里を抜け、白金台の路地を抜けると桜田通り、港区と品川区の区境を進み、御殿山に出ます。今はホテルが建っている御殿山、ここが昔の品川御殿跡とのことでした。

ホテルの一室でコーヒーを頂く中、品川歴史館副館長の方が御殿山の昔話、品川の海を一望出来た場所、徳川家光のお茶室の場所であった事を語ってくれました。

平成21年10月20日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月29日

紅葉

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月29日



大崎駅から区役所通りへ向かう線路沿いの道、前回色づきはじめていた歩道の垣根はさらに色づいていました。紅葉している赤色と緑色の縞模様が楽しめる垣根です。

さらに歩いてゆくと、歩道側に垣根があるお宅があります。緑色の垣根の中に、赤く色づいた葉が見られます。わずかな赤色は濃く紅葉しています。



紅葉は名所でなく身近なところでも見ることができ、秋を深く感じられました。

平成21年10月22日

撮影 朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月29日

緑の行動計画

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月29日

緑の行動計画



大崎駅前の建設中の現場に大きな看板を発見。「ご協力のお願い」と書かれてありました。

「緑の行動計画」と書かれていて、使用済みカードや乾電池、書き損じハガキなどが回収できるポストです。



普段は廃棄してしまうものでも回収すれば資源になるのですね。街中に現れたポスト、駅付近なので足早に通り過ぎてしまいそうですが、建設現場での活動に興味を持ちました。

小さな環境活動ですが、集まれば大きな活動になりますね。

平成21年10月22日

撮影 朝陽丘ひかり（記者NO.090101）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年10月29日

第10回環境記者交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2009年10月31日

平成21年10月24日（土）、第10回環境記者情報交換会が6名の環境記者の出席のもとで行われました。環境記者情報交換会は今年度3回の開催を予定しており、今回はその2回目です。

●まずは前回に引き続きインタメディア代表の佐山吉孝様から、「昔のおもかげを探してまち歩き その二、大井の高台から浜川の海辺へ」と題してお話を伺いました。

佐山様には「昔のおもかげを探してまち歩き」シリーズで本年度3回お話をさせていただくことになっており、本日はその第二回目です。



まちを歩いていると歴史や成り立ちを知るきっかけに出会いますが、ここでは一例をご紹介します。

大井町駅から東に向けて多くの坂があり、それらの坂を下ると旧東海道、品川宿に出ます。その坂の一つに「仙台坂」がありますが、ここは旧仙台藩の下屋敷があったところで、それにちなんでつけられた名前ですが、今は交通量が増えトンネルが出来ています。その横に「旧仙台坂」があり、別名「くらやみ坂」と呼ばれ、昔は回りにお寺がいっぱいあって真っ暗だったようです。



伊達騒動を題材とした山本周五郎の小説「縦の木は残った」では、仙台坂の上に立っているこのタブの木がモデルになったのではないかとわれています。

「まち」は昔の名前や景観、面影を残すことにより、環境保持の大切さを教えてくれているような気がします。



●続いて環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です。

(真壁さん) 南大井二丁目の国道1号線(第一京浜)沿いにある6棟のマンションの方々が協同して歩道の花壇の管理をしています。品川区民公園やしながわ水族館へ来る方が眺めていってくれます。

(門倉さん) ある公園の近くに住んでいるが、その近くのマンションの敷地内にユリノキがある。それを切るという話を聞いたので、切らないようにしてほしいと思いマンションに伝えたところ取り合ってもらえなかった。緑を大切にしようと言っているながら実際の管理となると難しい。枯葉の掃除や住民からの苦情がないようにしたいということが問題らしい。落ち葉を掃いていると「そんなことをしないでほしい」と言われたこともある。

(皆さんの意見) ごみとしての落ち葉は掃除したいけれど、一方で落ち葉を踏みしめる感触は良いものです。場所にもよるけれど、掃除をすることが良いとばかりは言えない。

(真壁さん)

(門倉さん)



(寿松木さん) 最近環境関係の新聞記事が増えており、その一例を紹介します。「緑のカーテン」は遮光だけでなく、葉の水分が蒸発するときに空気中の熱を奪う効果もあるとのこと。先生たちの本当のねらいは、こどもの心に資源を大切にする意識が育つことだそうです。

(朝陽丘さん) 環境記者になって季節感を感じられるようになった。カメラを持って散歩に出ると、ちょっとした変化も感じるようになった。目黒川に興味を持っているが、その浄化のために炭素繊維を使ったらどうかと思う。

(寿松木さん)

(朝陽丘さん)



(志賀さん) 品川区協働事業「花いっぱい」運動に参加している。協力してくれた会員50戸にE C Oプランターを貸与しているが、12月にはさらに50~100個を配布

する予定である。このプランターは1週間に1度程度の水やりで大丈夫で、コーヒー豆のかすを材料としており、エコにも良い。

町会会館の屋上で屋上緑化を進めており11月に設置し、常緑キリンソウを植える予定である。この花は小さな花であるが1年中緑で、強風でも土の飛散を防げる上、葉から水分をよく吸収するので屋上緑化で脚光を浴びている花である。

(布川さん) 鳩山首相の国連気候変動サミットでの発表(2020年までに温室効果ガスを1990年比25%削減)には驚いた。現在1990年比で10%近く増加しており、これを達成するためには30数%削減しなければならない。

これを達成するためには車はほとんどをハイブリッド車や電気自動車や燃料電池車に、新たに建築する建物にはすべて太陽光発電設備を設置するなど、国民が本当に一致団結することが必要になる。ただしこのことについて良い悪いを言っているのではない。

(志賀さん)

(布川さん)



●後半の情報交換の場では活発な発言があり、終了予定時刻の16時を10分以上もオーバーしてしまいました。特に今回の意見では従来にも増して幅広い意見が出され、改めて環境をテーマとした問題の広さについて考えさせられました。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2009年10月31日

品川の花便り（霜降の頃）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月07日

心に残したい品川【五反田公園】



桜の並木道で有名な五反田公園、この時期は山茶花（寒椿）の並木道です。大きくて紅い花、小柄のピンク、次々と咲いています。



上の広場にはツワブキも咲いていました。東五反田の住宅地の秋が進んでいることを報せてくれます。

五反田駅からねむの木の庭に向かう途中にあります。

平成の品川【ねむの木の庭】

10月も半ばまでは良く晴れた日もありましたが、23日霜降から、時折冷たい雨の降るといいう日がつづいています。昔の9月末から10月初めの気候に似ています。



ねむの木の庭の庭園ではオトコヨウゾメ（左上）も赤い葉が付き始め、ナツハゼ（右上）は良い色になっていました。



ナツハゼの横や道路沿いではフジバカマ（左上）が満開でした。シュウメイギク（右上）も満開です。



ハマギク（左上）は次々と仲間を増やしています。香りや味がいいのか、小さな昆虫が群がっています。

朱色のバラ、プリンセスミチコ（右上）も紅葉に負けずに紅く萌えていました。



他ナadeshiko（左上）、ギンモクセイ（右上）も開花しています。

大名庭園【池田山公園】

冷たい雨模様の天候続きで、冷え込みの多い池田山公園では、落ち葉が目立つようになりました。



庭園ではあちこちでツツブキが黄色の花を咲かせています。遊歩道のツツブキの向こうには、色付き始めた広場のケヤキの大木が見えます。（左上）

広場脇では異国の花コスモス（右上）が遠慮深く咲いていました。



東屋前は何となく秋を感じる雰囲気でした。東屋からは、風に揺れるススキ、山の小道に咲くツツブキ、池の辺りの色付き始めたドウダンツツジが見られます。池周りからは紅葉を間近に控えた山の庭園を感じます。



広い遊歩道からは数輪花を付けたバラの向こうに、ハゼの色付きが進んでいるのが

見られます。（左上）

ピンクの山茶花も開花しました。（右上）



池寄りの斜面には白の山茶花も見えます。（左上）

他、タイサンボクの下ホトトギスも咲き誇っています。（右上）



古井戸前の萩（上）も健在でした。紅葉の便りが待ち遠しい都会の山里でした。

平成の品川【ミニバラ園（しながわ花海道）】

長い土手の遊歩道脇は向日葵の時もありましたが、秋にはコスモス畑、春には菜の花畑に大変身します。

そのようなしながわ花海道の北端には鯨洲橋があり、その袂に日本バラ協会の方が手入れされている小さなバラ園「ミニバラ園」があります。鯨洲運転免許試験場の直西側です。バラの季節を感じたら、出かけて見えています。



この秋は色んなバラが咲き誇り、今まで以上に華やかなバラ園でした。



ミニバラ園からは、鯨洲船着場の左側に工事中の塔が見えますが、その奥に晴れて空気の澄んだ日には富士山が見えます。工事が心配ですが地上20mほどのビルとの事、富士山に架からない事を祈ります。ちなみに10月24日頃は富士山頂に夕陽が沈む時期ですが、生憎の空模様、富士山に出会うことも無く終わりました。



ミニバラ園は、バラと富士山としながわ花海道の花が楽しめる心休まる空間です。
 なお、しながわ花海道では11月8日、菜の花の種蒔きが予定されています。

心に残したい品川【立会道路（月見橋～大井町）】



寒椿は咲き始め、未だ今からです。コスモスもありました。



中ほどは関ヶ原公園、その前にせせらぎもあります。循環水を使ったもので、時折流れています。せせらぎ沿いは彼岸花他、季節の花々が手入れされている所で、今はツワブキが並んで咲いていました。

公園入口では白い寒椿です。



せせらぎを過ぎた所では、足下に紅葉です。カメラ付き携帯で写して行く人もいました。木の下の方が色付く？冷たい風が流れているのかもしれませんが、奥の方に、紫の可愛い花がありました。



色付いている小木もありました。駅の手前では萩が咲いていました。暫くすれば緑地の緑が色付き、紅葉の並木道に変わります。種類が多いので、黄色、赤色様々になります。

平成21年10月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月07日

品川区の京浜運河は外国からの移入種のホットスポット

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月09日

品川区の京浜運河は外国からの移入種のホットスポット

移入種と言うと直ぐに感じられるのはマングース、ブラックバス等マスコミによく上げられていますが、品川区の京浜運河は外国からの海の移入種が多種類で、又簡単に手に取って観察が出来る場所として専門家の方々からは日本国内でも有数の非常に珍しい場所と見ておられるとの事で海の移入種の勉強会と観察会が先日開催されました。

運河の中には、現在、貝類7種、カニ類2種、その他フジツボの仲間、ホヤの類等たくさんの外国からの移入種が棲んでおり、元々はヨーロッパ方面、アメリカ太平洋側、大西洋側、東南アジア、オーストラリア等に生息していた種類ですが、貿易が盛んになるにつれて船の船底、バラスト水などで運ばれて来たものが運河の中で繁殖し定着しています。



運河の海の移入種の一部

1986年から運河に定着したミドリイガイ
ビノスガイ

(東南アジアからの移入種)

平成21年11月4日

青野良平 (記者NO. 070103)

1999年から運河に定着したホン

(北アメリカ大西洋からの移入種)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月09日

フードマイレージを考えた料理

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月16日

先日あるテレビ番組で『フードマイレージ』をとりあげていましたので、その報告をします。

フードマイレージとは、食料を生産地から消費地へ輸送する距離に着目し、環境への負荷を数字で表したものです。つまり、輸送に伴う二酸化炭素を減らし、環境への負荷を軽減しようとする運動のことなんですね。簡単に言うと、遠くより近くから食料を仕入れた方が輸送にかかる二酸化炭素を減らせるというもので、「地産地消」がこれにあたります。



写真左：世界の多くの国から食料を仕入れています

写真右：それらを運ぶためにたくさんの二酸化炭素を排出しています

この運動のさきがけとして活躍しているレストランが自由が丘にあり、フードマイレージを考えたメニュー作りをしている店だそうです。野菜たっぷりランチやわっぱ御膳（限定8食）のほか、ランチ（週替わり）などがあり、どれも皮付きのままが多く、店長さんの話では皮と実の間に栄養素や旨味が多く含まれているため、こちらでは皮付きのまま提供しているそうです。

このお店の特徴は、食材は国内の有機野菜や無添加食品を使っていることと、メニューに二酸化炭素削減数値が書いてあることです。これにはpoco（ポコ）という二酸化炭素排出量の単位が表示されています。「1poco=100gの二酸化炭素」のことです。

こちらのお店のメニューの一例ですが、「野菜たっぷりランチ（1500円 1.2poco）」というふうに表示されています。これはこのひと皿で普通（同じような料理）に比べて1.2pocoの二酸化炭素を減らせるというものだそうです。

フードマイレージは地球にも体のためにもいい運動だと思います。

平成21年11月6日

寿松木 泰子（記者NO.080111）

写真とコメントは8月23日(日)に開催した「夏休みこども環境学習講座」におけるものです

（環境情報活動センターより）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月16日

立冬

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月20日

【ねむの木の庭】



立冬を迎えたねむの木の庭、ねむの木は未だ青々とした葉を付けていました。半月前色付き始めていたヤマボウシ、紅葉らしさが見られました。



オトコヨウゾメも落葉せずに残っていました。奥の方ではナツハゼが落葉も間近のようでした。



手前では春寿菊が小さいながら生き活きしていました。中ほどでは白のナデシコが咲き並んでいました。



花の少ない時期、訪れた人たちは係りの人から庭園について話を聞いていました。

バラも残り少なくなり、カメラに収めている人も居ました。

【池田山公園】

立冬を迎えた池田山公園は遅れながらも木々に赤みがさしてきました。



管理事務所前のイロハ紅葉にも緑の中に紅い葉が見られます。
傍のケヤキも色付きました。桜同様真赤にならずに落葉することの多い木です。



色付きが早いのはハゼの木、東屋付近からまた、広い遊歩道からも色付いたハゼの木が見られます。ほぼ全体が紅葉していて場所によっては落葉している枝もあります。庭園を東屋から見下ろせばあちこちに色付いているのが見られます。



花は寒椿が遅れている様子、今はツツブキです。モンシロチョウにモンキチョウ、蜂も居ました。花の周りはポカポカ、都会の山里は遅れた秋を取戻そうと必死のようで、冬に向かう道を迷っているようでした。

【五反田公園】



立冬を迎え桜の名所の坂道には山茶花（寒椿）が咲き誇り、本来は桜並木の色付きが期待されるところですが、未だ先のような様子です。ただ桜は何時の間にか落葉して無くなる事があります。紅葉の並木道に出会いたいものです。

平成21年11月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月20日

立冬の頃～菜の花の種蒔き～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月23日

【しながわ花海道】

立冬を迎えましたが一部には未だコスモスが風に揺れています。季節の流れ、来春のお花畑作りです。菜の花の種蒔きが行われました。



雑草や未だ咲いているコスモスも刈り取り、花の美しいコスモスはお土産にします。雑草は集めて塵袋、スタッフが処理してくれます。ご苦労様。



スコップで掘り返し、整地作業です。篩にかけて整備している人もいました。整地出来たら肥料と種を蒔きます。蒔いた後はしっかりと土を固めます。



固めていないと鳩や鳥が飛んできて種をつまみ食いです。固めたら水撒きで終了です。水は雨水タンクの水を運びます。



作業の様子です。

菜の花の開花、見頃は来春3月、立春前の真冬の凍える寒さが菜の花を引き締め、立春後のほのかで暖かい春の陽射しに目覚めます。黄色い絨毯を夢見て下さい。

平成21年11月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ : 平成21年度

投稿日 : 2009年11月23日

文化財公開

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月23日

* 東京都 *

東京文化財ウィークにちなんで品川区にある東京都指定文化財の2件が公開されました。

【銅造地藏菩薩坐像】



銅造地藏菩薩坐像は旧東海道青物横丁の品川寺山門横に安置され、旧東海道を見守っています。300年ほど前の江戸時代に同じ様な地藏像が六体造られ、現存する一つとのこと。紅葉は後日のようなようです。

【熊本藩主細川家墓所】



細川家墓所は旧東海道から目黒川沿いに数百メートル西側、第一京浜国道、東海橋の近くにあります。特徴は五輪塔と呼ばれる四角や丸形の石を五個積み上げた墓石です。地、水、火、風、空等の名前があり地の神水の神といった自然界を神様として表しているようです。

* 品川区 *

文化の日にちなんで品川区指定文化財も公開されました。ほとんどが普段は見ることのできないものです。

【神輿、板垣退助墓／品川神社】



本殿左に、数々の歴史的な文化財を収めた宝物殿があります。その中に、3基の神輿が安置されています。明治時代の大神輿、大正時代の中神輿、そして江戸時代から残る徳川家葵の御紋の付いた神輿があります。

品川神社は東海寺の境内、板垣退助の墓も昔の東海寺境内にあった高源院の中で社務所の裏にあります。夫人の墓と並んでいて、奥に「板垣死すとも自由は死せず」の石碑があります。

【銅造阿弥陀如来像、木造不動三尊像／養願寺】



写真は外から見た本堂内の様子です。なお、普段は右側の虚空蔵菩薩、左側の東海七福神の布袋尊に多くの人が参拝しています。

【奉納絵馬、石造狛犬／戸越八幡神社】

戸越八幡神社、行慶寺の守り神であり戸越村の鎮守です。



拝殿入口で石造の狛犬が見守っています。250年ほど昔に村民により奉納されたもので、台石に奉納者の名が刻まれています。拝殿内の長押には数多くの絵馬が並んでいますが、七五三の参拝準備がしてあり短時間の拝見になりました。

【居木神社末社巖島神社／居木神社】



拝殿の左横の参道に稲荷社の鳥居があります。鳥居の奥右側が稲荷神社、左側が巖島神社です。巖島神社は当時、引越しの際に松原家より引き取られたとのこと。

平成21年11月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年11月23日

文化財公開～伊藤博文墓所～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月03日

【伊藤博文墓所】

文化の日にちなんだ文化財公開で、西大井にある品川区指定史跡伊藤博文墓所が公開されました。今年は没後100年ということで、10月末に100年記念の式典が行われています。



伊藤博文は幕末から明治に活躍した政治家で、日本国憲法制定や内閣制度を取り入れ、日本の政治の基盤を作り初代の内閣総理大臣になった人物で、凶弾に倒れました。住まいは今の西大井三丁目にあり、国葬の後住まいの近く、現在の西大井に墓所が選ばれたそうです。なお、大井の住居は解体されて山口県萩市の旧家に移築されてるそうです。

伊藤博文墓所はしながわ百景に選ばれているといっても開放されるのは文化財公開等の限られた日だけです。

久々の公開とあって雨、風と荒れた日にも拘らず訪れた人たちが記念写真に納まる姿が何度か見られました。

門を入ると左側に生誕100年記念の伊藤博文胸像があり、脇には説明札があります。

伊藤博文の見つめる方向には、大正8年10月26日10周年を記念して墓所前の道路を拡張し公道にした旨の記念碑があります。



墓所といっても神式、神社と面影を同じにします。まずは手水舎で手を清めます。奉納された石畳の両側にそびえ立つ樹木は、当時の内閣により奉納された印度杉二株を含む樹齢100年以上の西大井の森です。

また、石畳の両側には公爵、子爵等により奉納された灯籠が並びます。数多くの灯籠は伊藤博文の偉大さを物語るものです。



鳥居を潜ると大きな石造りの円筒形、神式の墓で横に縦一位大勲位公爵伊藤博文墓

と刻まれた石碑があります。夫人の墓との間には祠があり、二人の墓を守っています。

この辺り一帯は現在西大井と呼ばれていますが、明治の頃は谷垂、その後、現在の
新住居表示になるまでは伊藤博文にちなんだ伊藤町とよばれていて、町会名、保育
園、学校名等にも「伊藤」と名付けられて親しまれています。

平成21年11月17日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月03日

小雪の頃

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月03日

【ねむの木の庭】

雪がちらついても可笑しくない季節、小雪とゆうのに路地のハゼや桜は未だ緑が残っています。五反田公園の桜並木も赤みが付いた葉は落葉しています。残りの葉が少なくなっています。一面の紅葉が見られないまま一枚ずつ落葉しているようです。



ねむの木の庭ではねむの木の葉が未だ緑色で残っていました。早く休みを迎えなければ来年の開花、成長にも影響しそうです。ヤマボウシが色付いてからもう一月は経っていると思います。未だ進行中です。



白樺も色付き隣のヤマコウバシも色付きが良くなりました。なおナツハゼはかなり落葉していました。また、梅は未だ青々としていました。庭園の花々はこの時期にナデシコが咲き誇っていました。



春寿菊も健在、バラも数輪残っていました。浜ギクは残りが僅かでした。道路沿いではやっとユリオプスデージーが開花しました。五反田公園をはじめ東五反田の路地には、未だ紅葉の気配が感じられず、ねむの木の庭も含め、冬支度が遅れているようでした。

【池田山公園】

東五反田でも池田山公園だけは緑が多く残り、都会の山里らしくいくらか秋の遅れを取戻しているようです。



ねむの木の庭から散策すれば、入口でほんのりとした紅葉が迎えてくれました。管理事務所前は良い色付きです。真赤になったもの、未だ緑が残ったものが入れ混じっています。



大きなケヤキはほとんど落葉していました。日陰になっていますが、ケヤキの広場のもみじも良い色になっています。東屋に向かう道、池方面の紅葉がみられます。ツツジの緑と対照的です。



東屋の前では松の緑に斜面のもみじが映えています。この松の木、例年雪吊が行われます。

東屋からは池の庭園の紅葉が見渡せます。池周りが日陰になっているのが残念です。広い遊歩道の先は緑と紅葉の競演です。



遊歩道からは池側斜面の紅葉が見られます。日当たりの良いところで好い色に萌えています。

早い色付きだったハゼは多くが落葉していました。



遊歩道下の大きな桜の木の前は木陰、色付いた紅葉が見られます。東屋方面を見上げると山里の様子が判ります。日当たりのいいところは紅く萌えています。池周り

は木陰で暗いのですが紅葉していて、記念写真を撮る人もいました。

路地の紅葉が遅れていますが都会の山里では幾分進んでいました。このような季節の遅れも気象情報で平年並みの気温という表現が出てくると温暖化の実感が薄れてしまいます。植物たちにとっては雪が欲しい季節です。衣替えも俣ならないようです。都会の山里には未だ多くの紅葉が時期を待っていました。

平成21年11月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月03日

虚空蔵尊の縁日

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月06日

品川宿北品川にある養願寺では恒例の虚空蔵尊大祭りが開かれました。本来は4月、11月の13日ですが現在は4月、11月の第二土曜日に開かれています。



養願寺は品川神社前の新馬場通り（サクセス通り）、旧東海道の路地が入口になっています。境内の仕切りはありません。虚空蔵尊は13歳までの子供がお参りすると、福・徳・知恵が授かると言われる十三参りと結びついていて、大祭りには多くの親子連れが参拝に訪れます。



午後2時から本堂で、大護摩供厳修が行なわれました。沈黙の中、静かに鉦の音が近付き静かで厳粛な太鼓の中20分ほどの読経に続き護摩が焚かれました。時折、大きな炎が上がります。2時45分に静かに護摩の火が消され、沈黙の中を鉦の音が遠ざかり供養は終わりました。



縁日を盛り上げる露天商は、午前中の大荒れの天候で帰ってしまったとのこと。でも、地元商店街や礎会の人たちが元気フェスタで縁日を盛り上げました。



午後6時からの大護摩供厳修に参加する人も訪れてきました。なお、養願寺の提灯は荒天の為全部が点灯が出来ませんでした。

【元気フェスタしながわ】（2日目）

この縁日の露店が年々縮小されていく様子を地元礎会の人たちが中心となってお祭

りを盛り上げようと始まったのが「元気フェスタしながわ」今では地元商店街を中心に商店街の売り出し、大道芸、物産市、植木市、占い、寄席等の盛沢山の催しが行われます。今年は14日土曜日午前中、露天商もテントを畳むほどの雨、風の大荒れの天候、「元気フェスタしながわ」が二日に亘って縁日を盛り上げました。大護摩供厳修の大祭りは終わっても、養願寺へのお参りは続いています。



本堂前、二日目を迎えた占い横丁はテントも増え、更に、路地には、フリーマーケットが店を出していました。フリーマーケットの拠点は聖蹟公園ですが、路地の一部でも開かれました。なお、昨年まで恒例の陶器小物の店はこの日も出ませんでした。



サクセス通りには露天商が戻ってきました。焼きそば、お好み焼き、たこ焼き等の軽食が売り物の店は今回は初日が悪天候で中止したり苦戦とのこと。連日の子供コーナーの塗り絵、プラバンの他、金魚掬い、駄菓子屋、15日の露天のおもちゃ、ゲームソフト、小物売り場に人気がありました。忍者修行、猿まわしも子供たちの人気でした。



北品川2丁目町会では恒例の防災炊き出し訓練です。アルファ化米を使ったカレーライスが500食準備されました。アルファ化米も配られました。午後の3時にはサクセス通りでは善哉も準備されたとのことです。



また恒例のお囃子も縁日を盛り上げていました。後に品川神社祭礼神輿渡御で奏される大拍子も披露されました。

二日目の夕暮れは、サクセス通り養願寺入口付近はお囃子が流れ、縁台で休む人、散策する人、長閑な縁日の夕暮れでした。

平成21年11月19日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月06日

12月初旬の林試の森公園

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月07日

林試の森公園南門入り口の手前にあるこの木何の木？
この時期、たわわに実をつけるザボンの木だそうです。
ちょっとめずらしいですね。



南門入り口

写真の笹ぼうきはお掃除をされる前に作られたお手製で、笹だけだと柔らかく、竹を混ぜたりして硬さを変えるそうです。

雨が降った後など、お天気によっても硬さ加減を変えるそうです。



水車門入り口から入ってすぐの池からみた紅葉。

赤と黄色のコントラストがとても綺麗でした。

12月に入って林試の森の紅葉は落葉してしまった木々が多かったので、もう少し早い

時期に訪れればもっと綺麗な景色がお届けできたのですが・・・残念です。



平成21年12月2日（水）午後3時30分頃

●撮影：村井恵美子（記者NO. 080201）

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年12月07日

屋上緑化の実験を開始しました

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月10日

平塚二丁目町会の会館屋上に常緑キリンソウ（16平方メートル）を植え、長期間の観察に入っています。常緑キリンソウは100日間降雨無し、水遣り無しでも大丈夫な植物で、一年中緑色の葉をつけるため屋上緑化、壁面緑化、道路緑化などに役立っています。



キリンソウは日本各地の山地や海岸に自生する植物で、冬には落葉しますが、常緑キリンソウは年間を通して緑を保つ様に改良された新品種です。非常に乾燥に強く、雨水が当たるところであれば水遣りが不要です。

黒く見えるのはポリプロピレン製の不織布（繊維を織らずに絡み合わせたシート状のもの）で、その中に土が入っています。

袋を使用している理由は、屋上に土がそのままあると風で土が舞い、ご近所の迷惑になってしまいますが、それを防ぐためです。また、非常に強度が強く、吸湿性のない素材でもあります。なお、町会会館の屋上緑化計画については、事前にご近所の理解を得て取り組んでいます。

薬用効果もあり、蚊や蜂などの虫刺され、浅い切り傷等にも効くそうです。

江戸時代には飢餓に備え、若葉を塩茹でし乾燥させ、保存食に使っていたとも言われています。

平成21年11月28日

●撮影：志賀 勝（記者NO. 060110）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月10日

千躰荒神の縁日

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月15日

品川には江戸時代、あるいはそれ以前から伝わる伝統があり、旧東海道品川宿場町・漁師町他でそのまま、あるいは形を変えて守られています。そのような街並みの様子です。

旧東海道青物横丁にある海雲寺では恒例の千躰荒神大祭が開かれ、境内から旧東海道青物横丁まで数多くの露店が並び、縁日を盛り上げ、大勢の参詣者・観光客で賑わいました。この縁日の模様は「しながわ百景」に選ばれています。縁日は3月と11月の27日、28日です。

千躰荒神は「火の神様、水の神様」として、また「かまどの神様」「台所の神様」として、地元の人たちだけでなく広い地域の人たちに親しまれています。



露店が並ぶ旧東海道を進むと、山門の内外にも露店が並んでいます。



古いお札を納める人、新しいお札を求める人の列が出来ていました。
本堂・護摩堂に入る前にお参りをし、普段は入れない護摩堂に入ります。



天井や長押には品川区の文化財に指定されている、千躰荒神に関する額が飾られています。護摩堂ではまず、蠟燭に火を点しお参りをします。



本堂横では恒例の「千躰荒神松」が売られていました。縁起物の松で、松ボックスが丁寧に扱われていました。



魔除けの小物・福豆・七味唐辛子・冬物衣類・乾燥海産物等があり、昔ながらの名物は「釜おこし」です。釜おこしは「かまどの神様」にちなんで作られたお菓子ですが、今は電気釜の時代となり、かまど（竈）に火を点け、薪や炭で鉄の釜を使って米を炊くといった経験の無い人が多い時代になりました。「かまどの神様」と言われても、「かまど」には身に覚えが無いというのが実情のようです。薪や炭を使うので台所は土間でした。釜おこしは品川の千躰荒神の縁日だけで売られているおこしです。文化財的存在のようです。



ところで露店市の山門横では、釜おこしの他に実演販売の竹細工があります。材料の竹は少なくなり、職人も少ないとあって安価ではありませんが、やはり竹の魅力には勝てません。戸越の筍栽培を復活させ、竹林を昔のように増やし、プラスチックを止めて、皆で竹細工が出来るようになればと思います。



旧東海道の露店には、千躰荒神松を売る店の他に川崎からの久寿餅・季節の花を売る店・海産物干物・乾燥果物・取れたての柿・佃煮・冬物衣料など。正に師走の露店市です。

平成21年11月29日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ: 平成21年度

投稿日: 2009年12月15日

紅葉、花便り・大雪前日

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月17日

【ヒマラヤ桜開花／荏原町弁天通り公園】

平成17年の開園に合わせ、地元の要請でヒマラヤ桜が植えられ、やっと晴れ姿を披露しました。開花したのは戸越公園のヒマラヤ桜とほぼ同じ11月末日、一気に花数が増えました。



ヒマラヤ桜はネパール地方の桜、本来10月末に落葉した後蕾が付き、11月下旬には見頃になる花です。近年の温暖化で戸越公園のヒマラヤ桜の開花日もずれており、遅い開花になったようです。

目白やヒヨドリがたっぷりとした蜜を求めて飛来します。空気浄化（炭酸ガスの吸収）が良いとのことですが、風に弱く真夏の暑さに弱いので、ビル街には向いていないようです。容易には落花しないので、暫くは楽しむ事が出来ます。花の少ない時期に晴々とした気持ちになる花です。戸越公園と共にヒマラヤ桜の名所になりそうです。

【旗の台】



紅葉も終わって落葉しているはずの木々も、未だ緑の葉が付いています。旗の台の路地にある公園では、本来11月の初めには見られないはずのハナミズキの葉が未だ落葉していません。かえる公園と呼ばれる立会道路では紅葉が残っていて、小さなトンネルになっていました。



荏原町駅前の中通りに桜の紅葉が残る中、目立つ色です。方蓮寺境内の紅葉です。境内には背の高い銀杏があり、色付いた葉が落葉を始めていました。

【早くも水仙開花／立会道路、大井町～月見橋】

中ほどの関ヶ原公園前の人工のせせらぎの傍らで、早くも水仙が開花してしまし

た。一輪や二輪ではありません。そこここに咲いています。マンリョウも水仙の後で見頃を迎えていました。



また、木瓜も開花していました。4箇所ほど木瓜の集合がありますが、何れでも薄っすらとピンク色の花が付いています。場所によっては6～7部咲きでした。



紅葉はあまり見られず、秋の終わりも告げずに冬も待たずに新春を迎えてしまった感じです。

【来福寺】

東大井にある来福寺は、昔は鮫洲の海を眺める事の出来た旧東海道に近い台地であり、その庭園はしながわ百景に選ばれています。



この秋の紅葉の遅れで、銀杏やもみじを楽しむことが出来ました。長い参道の奥は坂道、山門の横で銀杏が眩しく輝いていました。山門を入ると正面が本堂、本道脇も紅葉です。小柄ですがふっくらとした銀杏です。



本堂前からは庭園の紅葉を楽しむ事が出来ます。庭園の左手にはもみじがありました。

新春を迎えると梅や福寿草が待ち遠しい庭園です。

平成21年12月6日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

投稿日 : 2009年12月17日

大雪の頃の夕暮れ

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月17日

【京浜運河緑道公園】



八潮橋から勝島橋の間の京浜運河緑道公園はかつて鮫洲の海で、大井コンテナふ頭や八潮団地が作られた時に、運河沿いに作られた遊歩道です。大雪の頃は一年で最も日の入りが早い時期、東京の日没予定は午後4時28分です。富士山より南方に沈みますが、夕暮れには富士山が期待できる時期です。



4時20分には建物の中に陽は沈みましたが、空の赤みが少ないようです。建物の北（右側）に富士山が薄く見えます。空気が澄んでいるようでガスが掛かった感じ。気温が年々高くなっている事も影響しているようです。



5時前に一時、空の色の赤みは強くなりました。

【しながわ花海道】



午後3時半過ぎには傾いた陽に、バラ園もお花畑も道行く人も黄色く色付いています。やがて日没時刻、その頃「お！富士山が見える！」通りがかりの人の声です。



しながわ百景に選ばれている船だまりにも明りが点き、一時濃い赤みの強い空になり、夕暮れが深くなっていきました。かつての鮫洲漁港の海は今、品川の富士山が見える名所として馴染みつつあります。

平成21年12月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月17日

エコプロダクツ展を見て来ました

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月18日

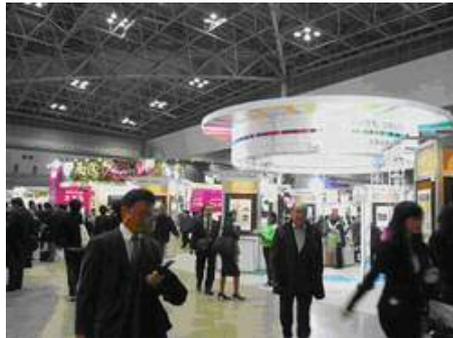
毎年12月になると、東京ビックサイトでエコプロダクツ展が三日間だけですが開催されます。今年は12月10日～12日に開催され、見学して来ました。

今年は「種の多様性」という言葉が盛んに使われており、何か今年のブーム的な感じでしたが、内容は様々で大企業から中小企業、小学校から大学、自然関係団体、NPO等が出展して多種多様な展示になっていました。

見学者も小学生の団体から御老人の方まで様々な年齢層の方が来ていました。各企業も、環境に対しての簡単なクイズ、福引等でプレゼントをくれたりと、見学していて大人も子供も環境に関して楽しめる展示内容になっていました。

その他にも環境についての発表会有り、エコカーの試乗有り、自然観察会有りと内容も盛りだくさん、とても一日では時間は足りませんでした。ここ数年は毎年見に行くと年々内容が多彩になって来ていますので、皆さんも来年は見学されてはどうでしょうか。

入場無料で環境の事について、かなり内容の濃い展示会を楽しむ事が出来ると思います。



平成21年12月11日

青野良平（記者NO. 070103）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2009年12月18日

冬至の前

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月05日

【雪吊／池田山公園】

池田山公園では遅れながらも紅葉が終わりに近づき、恒例の雪吊が冬至を間近に控えた12月18日、19日に行われました。雪吊は雪の重みで木の枝が折れないよう保護するもので、特に降雪に弱い松の木について行われます。近年のように温暖な雪でも、異常気象、何時豪雪になるか判りません。実用目的もありますが、庭師職人の手による芸術品です。



池田山公園は地形状小さな山、松の木はその斜面にあり、大変な作業になります。植木用の脚立も使える場所とそうでない場所があり、場合によっては木に登っての作業になります。



先ず柱を松の木の傍に立て、松の木に縛り固定します。次に、横に広がる松の枝に沿って細竹を固定します。



枠組みの最後は、枝に沿って広げられた細竹を切り裂いた竹と結び合わせ、円を作ります。斜面での作業、簡単そうで時間がかかります。

枠組みが出来たら、柱の先端に縛り付けた細縄を竹の円に縛り付ける作業に掛かります。

雪吊の準備で最も時間が掛かるのが、柱の長さ、太さの決定と、細縄の縛り付けだそうです。松の木の大きさ形状（枝の広がり具合等）から、細縄の本数を決め、柱の太さ、長さが決まります。根気のいる丁寧な作業です。



柱の上の細縄を解すには脚立が使えないので、木に登ります。木の上で一人が解し、木の下で竹竿を使ってその細縄を受け取り、まず、円周の竹に仮止めをします。仮止めといっても、細縄の間隔は、目印があるかのように秩序良く並べられていきます。木の上と下の二人の呼吸が合って、作業が進みます。一本ずつ丁寧な作業が続きます。



一周したら仮止めの終了、最後は二人で、細縄を円周の竹にしっかりと縛り、緩み止めを付け切り揃えて完成です。松の木が等間隔に並んで出来た細縄の傘を被った形になります。日本の植木職人による伝統芸です。

【蘇鉄の雪囲い／池田山公園】

池田山公園では遅れながらも紅葉が終わりに近づき、恒例の蘇鉄の雪囲いが冬至を間近に控えた12月19日、雪吊の作業に続いて行われました。



蘇鉄は九州南部、沖縄地方、中国南部に育つ南国の常緑樹、寒さ、雪には弱いという事で、藁を被せて冬越しを行います。松の雪吊同様庭園を飾るものとして行われてきましたが、近年は積雪も少なく、暖冬と呼ばれる事が多く、雪囲いの需要も少ないとのことです。

遊歩道脇の2本の蘇鉄、今年は異常発生し、一本は頭部が剪定され、もう一本は頭部が二つに分かれかけているそうです。



まず、蘇鉄の広がった葉を纏めて縛ります。
下の方から筥（むしろ）を巻きつけていきます。



全体を箆で包んだら、下から縄で縛り上げていきます。

最上部を締めたら藁で作った「ワラボッチ」と呼ばれる帽子を被せ縛ります。

「ワラボッチ」は雪吊の柱の頭部同様、神社、寺社の欄干等に見られる「宝珠（ほうしゅ）」「擬宝珠（ぎぼうし）」に相当するもので、雪囲いでは防水機構に作られているそうです。今では雪囲いの需要が少なく手配も稀なため、藁の入手が大変だそうです。また、藁そのものも少なく、必要な部分を選び出し集めるのは、雪囲い作業の最初の困難だそうです。「ワラボッチ」の制作も単に防水機能だけでなく、美観も必要なので、幾通りも形があり、手間のかかる作業だそうです。



最後は蘇鉄の足下です。巻きつけた藁がばらばらにならないように、竹で作った釘と縄で藁の裾を綺麗に並べて固定し完成です。蘇鉄の防寒を目的としながら、冬の庭園の美観の要素の一つです。何気ない藁のようですが、日本の庭師職人による伝統技術品です。最近需要が少なくなっていて、雪囲いの体験回数が少なく、後継者の指導、育成に苦勞しているそうです。

花の少ない時期、池田山公園の風物詩です。

平成21年12月21日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月05日

水やり不要のプランターをご紹介します

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月07日

「底面貯水型水やり不要ECOプランター」が平塚二丁目町会お宅の玄関先に置かれています。これまでは50基でしたが、昨年12月から新たに100基を追加することになり、現在配置を進めているところです。このプランターの配置は街の話題となり、町会内のコミュニケーションを深めてくれています。



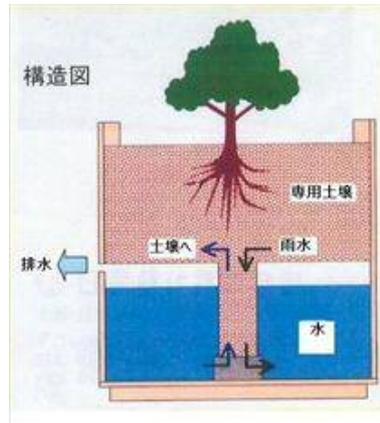
下の写真は平塚二丁目町会会館屋上に配置された大型の木製のECOプランターです。



このプランターの構造は下の<構造図>をご覧ください。

二段式になっており、上段は普通のプランターと同じですが、下段に貯水槽があります。

なお、プランターの構造は上記2種類とも同じです。



専用

土壌

専用土壌は次のようにして造っています。

町会会員が家庭の生ごみを持ち寄り、会館内にある生ごみ処理機に投入し、それを乾燥させた後、京陽公園で有志が黒土と混ぜながら熟成させています。

平成21年12月25日

●撮影：志賀 勝（記者NO. 060110）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月07日

冬至の頃

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月10日

【ねむの木の庭】



冬至を迎え、ねむの木の庭も花の少ない時期になりました。今朝の冷え込みは強かったようで霜柱が残っていました。



庭園ではナadeshikoが咲いています。他、花壇では可愛い花たちが手入れしてあります。

新春にはどんな花が咲いているか期待しています。

【池田山公園】

庭園の方が珍しいものがあると教えてくれました。



東屋に向かう足元の落葉に覆われたジャノヒゲの中に松の葉が刺さったようなものがありました。シダ類の「マツバラン」（松葉蘭）だそうです。常緑の多年草で根や葉も無く、土の中も見えている地上の部分も茎だそうです。「ほうきらん」とも言うそうです。関東以南の温かい所に自生し盆栽等にも使われている野草です。池田山公園では、雑草狩り等でこの様な珍しいものを見つけたら保護しているそうです。



他、南の斜面の奥にカラスウリの実がなっていると案内してくれました。木の高い

所に蔓が絡まり紅い実が下がっていました。小山の路地で見かけた事がある程度の珍しいものです。



公園の管理で大変なのは害虫の駆除、多くは葉で除去できるそうですが一つ一つ手で除去する虫がいるそうです。紅葉したビヨウヤナギの枝に白い塊が幾つもありました。カイガラムシだそうです。カイガラムシ（貝殻虫）は好みの木があるそうで種類も多いとのこと。柿、梨、林檎等に多いそうです。何時しか飛んで来て、木に付着し終生寄生し、液汁を吸いつづけるそうです。しかも身体全体を分泌物で覆い風雨や殺虫剤をものともしない厄介ものだそうです、一つずつ手で除去するしか方法が無いそうです。ビヨウヤナギが池田山公園には数多くあり大変な作業になりそうです。

【しながわ区民公園】



大井町からのしながわ水族館行きの直行バスは満席、区民公園を散策する人もいましたが皆水族館に入っていました。水族館に向かう遊歩道は東海道を模した松並木、こも巻をした姿が冬である事を思い起こさせます。紅葉を交えた色取り取りの木の葉の花壇もあります。



中ほどの橋は展望所、水辺の休憩所の向こうに品川区の鳥「ゆりかもめ」が羽を休めています。例年より数が少なく、やや黒く見えるのはユリカモメにとっては未だ気温が高いということです。9月下旬の感じですが、寒い真冬には真っ白になります。



梅林には2本のロウバイがあり、毎年正月の花として親しまれていますが冬至を迎えたばかりと言うのに既に開花していました。管理事務所に問い合わせたところ開

花を知っていた人は居ませんでした。今日（12月23日）の開花のようです。開花したと言っても木の東側下の方だけです。日の出の頃は木陰、日没は最も早く一番気温の低い場所です。日当りの好い所は未だに青々とした緑の葉が残っています。開花している場所に近い所は黄色く色付いた葉が付いていて、花と見分けが付き難しくなっています。ロウバイは本来落葉してから開花する花、緑の葉が残っている事がこの時期としては異常事態です。一本の木で秋と冬が混在している状態です。今回の開花は一部が日当たりの関係で良く冷えて落葉し、そこに花が咲いたと言えます。全体が黄色の蠟燭のような花に包まれると太陽の光に輝きます。青空に見える様は眩しい位になります。今のままでは残った葉で見辛いかもかもしれませんが正月には咲揃ってくれる事を期待しています。

平成21年12月23日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月10日

品川の正月～七福神めぐり～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月27日

【東海七福神】

旧東海道沿いには多くの社寺があり、昭和7年に東海七福神めぐりが行われたのが始まりと言われています。

大黒天「有福」（品川神社）→布袋尊「大度量」（養願寺）→



寿老人「寿命」（一心寺）→恵比須「清廉」（荏原神社）→



毘沙門天「威光」（品川寺）→福祿寿「人望」（天祖諏訪神社）→



弁財天「愛嬌」（磐井神社）



今年は例年よりも多い人出でした。

【荏原七福神】

午前11時半、品川郷土の会の方々の挨拶の後、お払いを受け、玉串を供えて、大井蔵王権現太鼓で馴染みのほら貝が吹かれて出発です。

福祿寿「知恵財運」（大井蔵王権現神社）→毘沙門天「開運厄除」（東光寺）→



布袋尊「福寿財宝」（養玉院如来寺）→弁財天「富貴開運」（上神明天祖神社）→



恵比寿「商売繁盛」（法蓮寺）→



寿老人「延命長寿」（摩耶寺）→大國天「大願成就」（小山八幡神社）



個人で巡る人たちにも多く出会いましたが、歴史解説、観光案内、新年の接待、お土産付きの恒例の荏原七福神めぐり、色々面倒を見ていただいた品川郷土の会、神社、お寺の方たちに感謝したいと思います。

平成22年1月3日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月27日

日向ぼっこの猫

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月27日

【旧東海道、街道の松広場】



七福神めぐりの途中、公園の縁台を猫が占拠して日向ぼっこです。公園には次々と人が訪れますが、お構いなしです。

動物は動くもの、昼間はその多くが太陽の陽を浴びるもの、そのものです。

人間は衣類を覚えてから全身の毛が退化し、気温の変化に対応出来なくなりました。25℃以上の夏日では衣類無しでも過ごせますが、気温10℃前後の寒さ以下では暖房が欠かせなくなっていました。

いくら陽射しが強いといっても冬の陽射し、猫同様衣類も無く、人毛では日向ぼっこ出来ません。寒さに耐えられません。人間は冬場には暖房が欠かせない温室育ちの植物になってしまったようです。

年々冬場の気温が上り、水道管が凍りつくことという事も無くなり、それが当たり前といった感覚になっているようです。人間が衣類、暖房により自然の温度変化を感じる事が出来なくなった証です。その為に異常気象に対しても、危機感を感じないでいるのです。

地球の異常気象、温暖化、高温化は毎日進んでいます。8000m級のヒマラヤでも氷が溶けるという話を聞いています。

日本の冬は雪が降り、水道管も凍りつき、地面も凍る、その事実に戻らなくては地球は破滅します。

地上に生息する動物や植物たちのように、大自然に直接触れ、自然の偉大さに感動する事が異常気象への挑戦の始まりのような気がします。昭和、大正、明治、そして江戸の日本を思い起こす、昔話ではありません。人間の生き方を見直す事が異常気象への挑戦になります。

猫たちは冬の陽射しを浴びながら気ままに過ごしていました。人間にも必要な事です。「人間は動物とは違うのだ」という考え、見直しが必要なようです。人間は自然の中の一員、猫と同じ生き物だということを忘れているようです。

地上の生き物は地上の自然に従う、当然でありながら人間は逆らうことを進化、改革と呼んでいるようです。先進国とはもっとも大自然に逆らう国の事のように。

平成22年1月7日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月27日

新春

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月27日

【ねむの木の庭】



新春のねむの木の庭は道路沿いで、赤く粒を秘めたピンクのジャノメエリカと黄色のユリオプスデージーが迎えてくれました。



庭園は花の冬休み、花壇を可愛い花たちが彩っています。ナデシコは咲いていました。



黄色の花マホニアも咲き始めていました。奥の方ではチャリテイも咲き始めていました。目立つのはヒノキ科のサワラ。寒さで黄色くなるとのこと、冬の到来を告げていました。



気になったのはシャクナゲ。紅く色付いた葉が残っているのに蕾が出来ていたことです。

【旗の台】

新春を迎えた品川の路地は皆同じ、足下にはマンリョウやセンリョウが赤い実を付けています。場所によっては黄色いロウバイが青空の下に輝いています。



ロウバイの本来の見頃は1月末、早い開花です。まだ蕾も残っています。満開を待ちたいのですが、しながわ区民公園のロウバイ同様まだ葉が残っていて今年は全開しないようです。なお、車の多い別の場所ではまだ蕾も見られませんでした。近年の気候は人間には程よいかもしれませんが、花木にとっては真冬の凍てつく寒さがないと、冬休みがないと春の英気を養う事が出来ません、花を咲かす事が出来ません。落葉しない葉が物語っているようでした。

【池田山公園】



新春の池田山公園は、晦日に残っていた紅葉もほとんど落葉し、チョッピリ寂しい感じもしますが見通しが良くなって雪吊が目立つ里山に変身です。花は寒椿が静かに咲き、遊歩道では紅い木瓜が蕾を増やしていました。



その奥に黄色い木の実、クチナシがありました。モクレンや沈丁花が蕾をつける中、庭園の方が昨年のシダ類「マツバラ」の他に色んなシダを紹介してくれました。普通に見るシダは葉が大きいものですが、小さなものが数多く自生しているそうです。多くは黒系、茶色系になっていて、春になると新緑に戻るそうです。



数点撮影してみました。色んな名前がありそうです。シダの参考書を持って出かけるといいかもしれません。

平成22年1月5日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年01月27日

品川の正月～初詣と富士山～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月01日

【初詣／旗岡八幡神社】



旗岡八幡神社の初詣には20年ほど前から地元の町会神輿が出て新年を祝っています。神社前で初詣の人たちと共にカウントダウン、新年の合図を告げる太鼓にあわせ神輿は高々と上げられ初詣の人たちから拍手、新年を祝いました。



夜が明けて快晴の境内は大勢の初詣の人たちです。やがて獅子舞が始まり、おかげ、ひょっとこも参加して新年を祝います。

【東品川海上公園】



新春の富士山は空気が澄んでいてもっとよく見えるはずですが、年々色が薄くなり、朝陽が昇るにつれ霞んでいきます。品川の富士の名所は品川の皆で守ることが出来ても、空気の状態は全世界の異常気象への対応にかかっているようです。

平成22年1月6日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月01日

品川の正月～初詣と富士山～ への1件のコメント

1. yamato より:

2011年9月19日 12:06 AM

富士山はもう見ることができなくなるのではと心配しております。
写真にもクレーンが写っておりますが、そこにマンションが建つことになって
います。今年引っ越してきたばかりなのにとっても残念でなりません。

小正月の日の出

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月01日

【大井ふ頭北部陸橋】

品川の夜明けは初日の出同様、この大井ふ頭コンテナ基地から始まります。1月15日は小正月で昔の成人の日です。成人の日には新成人の記念として品川の夜明け、夕暮れの写真に挑戦していますが、今は毎年日が変わり、以前の15日にはなりません。また、北部陸橋の歩道にフェンスが設けられてからは、歩道から日の出や海の様子を見ることが出来なくなりました。



日の出30分前はなんとなく茜色、でも地平線には厚い雲が漂っています。予定時刻頃にはクレーンの向こうの雲の端が輝き始めました。



7時過ぎになってやっと雲の上に太陽が見え始めました。雲が傾き上弦の月のような形です。この日は新月、夜明け前の空にも月が見えませんが、その代わり太陽が月のような形になってくれました。その傾きが変わりながら昇っていきます。ラグビーボールのようにも見えます。

日の出予定時刻から15分ほど経ち、かなり眩しい太陽です。



日の出位置は何時ものように建物の間、今回は予定刻に太陽が見えませんでした。昇る位置から見て左側いっぱいといった感じ、今後暫くは建物の上からの日の出になりそうです。

なお日が昇ってからは雲も無く快晴です。しかし地平線を見る限り空気が澄んでないのが判ります。その為か空の色は絶えず変わっていたようです。

平成22年1月16日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ : 平成21年度

投稿日 : 2010年02月01日

第26回品川区防災フェア

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月05日

【品川区防災センター／しながわ中央公園】

品川区の防災フェアは15年前の1月17日に阪神・淡路大震災の起きたことからこの時期に行われるようになりました。今年は26回目です。いざという時に（突然の自然災害に）役立つ防災意識を、楽しみながら身につけようという催しです。



15日午前10時から防災センターで濱野品川区長の開会の挨拶の後、日頃、各地域で活躍している区民消防隊員、ミニポンプ隊員66名に感謝状が贈呈されました。その後防災関係者、防災フェア参加団体の紹介が行われました。式典の後、防災展示場になり、待ち構えていた人たちが各展示コーナーを回りました。防災センターは電力、水道、ガス等生活に密着した展示コーナーです。中でも消防のコーナーでは家具の倒壊防止金具について質問する子供の姿もありましたが、重点は住宅用火災警報器のようです。



自衛隊出動時の食料「戦闘糧食」（缶詰、袋物）にも関心が集まっていました。他にも、関東電気保安協会のブレーカーの作動展示説明、東京ガスのガスメーター警報装置の展示説明が行われていました。水道局は非常時の給水について、以前パネルや模型展示だったのを、ビデオでの説明に変えていました。時間をかけて見るにはビデオのようです。

通信ではNTT東日本による「171」災害用伝言ダイヤルを親子で体験する姿もありました。ケーブルテレビ品川は緊急地震速報サービスの説明です。

防災センター2階では品川区建設防災協議会でも住宅用火災警報器が紹介されていました。単に警報機一体型だけでなく、近年注目を集めている無線による連動型です。一箇所での警報が、他の場所にも連動して警報するので、1階台所の警報も2階寝室で確認できます。天井や壁を改造しての取付や配線も無く、防犯を兼ねたパネルと連動できるものもあるとの事でした。



耐震相談コーナーも設けられ、既存の住宅に取り付け可能な品川シェルター模型の展示、説明や免震構造の建物と非免震構造建物の地震での揺れを、模型を使って展示していました。子供たち、難しい話を聞いて少しは勉強したようです。常設の防災情報ステーションのタッチパネルで防災情報を確認する人も居ました。防災ポスターコンクール作品展示もおこなわれました。品川シアターでは防災映画で一勉強です。

子供たちには展示のコーナーの説明よりも、消防服を着たり、白バイや自衛隊のバイクに乗って記念撮影、消防士や警察官、自衛隊員になるという将来の夢を見ることのようにです。



しながわ中央公園駐車場ではミニ消防車の乗車体験があり長い列です。



起震車による地震体験も行われました。

防災設備協同組合による消火器のあっせん販売、葛飾福祉工場の防災用品の展示もありました。

自衛隊の災害出動用の車両展示もありました。一般の車に比べてその頑丈さが目に見えます。

特殊救急車の展示もありました。広々とした移動病室です。

16日午後はしながわ中央公園で特別イベントが行われ、大勢の家族連れがその道の技に見入っていました。

はしご乗り；



正午から木遣りにあわせ、江戸消防記念会品川纏保存会の人たちが纏振りをを行いながら入場です。濱野品川区町の姿もみられます。

簡単な紹介の後、はしご乗りが披露されました。晴天とは言え多少風もある寒空の中で、次々と仕事から生まれた伝統の技が披露され、会場からは大きな拍手です。はしご乗り披露の後、区長を囲んで記念撮影です。

警察機動隊；



続いて警察機動救助隊と警察犬による救出救助訓練の実演です。
特殊カメラを建物の中に挿入して、人の居る場所をモニターで確認します。



場所によってはエンジンカッターで建物を切り開きます。
建物に入り、被害者の救出です。



その後警察犬の訓練の様子が披露されました。
また人命救助とは違った、犯人逮捕用の警察犬の披露もありました。噛み付いた時の力は1トンにもなるそうです。

消防救助機動部隊；

午後1時からは消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー隊）による訓練が実演されました。火災が発生したビルの中に人が閉じ込められたという想定です。



ロープがビルの屋上に打ち上げられ、そのロープを使って、隊員がビルをよじ登り、助けを求めていた階の窓からビルに入り、屋上に向かいます。次の隊員も続きます。

屋上から救助用ロープを投げ下ろし、下ではロープを斜めに張って固定します。

斜めに張られたロープを使って被災者を下ろします。

救出が出来たら隊員たちはロープを使って緊急脱出です。ビルの壁を跳ねながら降りていきました。高所での訓練、息詰まる実演でした。

その他



駐車場では自衛隊による炊き出しの一口カレーが防災シアターで防災映画を見た人に配られました。食堂では100円の天ぷらうどんが販売され、ふれあい作業所によるリサイクル自転車や小物の販売も行われ、最後は抽選により記念品が配られました。

平成22年1月16日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月05日

大寒の頃 その1

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月08日

【大井町から月見橋】



大寒の頃というのに大井町から月見橋までの立会道路にある関ヶ原公園では3月の花、ミモザが蕾を付けていました。今にも開花しそうです。また、道路脇の花壇では菜の花が見頃になっていました。早すぎる春の訪れです。

大井町から月見橋までの立会道路は立会川に蓋かけされた遊歩道になっていて、道路脇には民家の人たちが育てている草花も多くあります。

【しながわ中央公園】



しながわ中央公園はボランティア花壇の他、運動場、テニスコート、トリム広場等を有し、設備の電力を風力、太陽光で賄うように作られた平成の公園です。南側の道路沿いに紅梅が開花していました。梅だけでなく桜や他の花々もある所で、季節により色んな花が見られる場所です。

【戸越公園】



戸越公園の正門は北側にある薬医門、師走にピンクの花で賑わったヒマラヤ桜は新緑に変わっていました。正門前にある松、雪吊の中に松の新芽が見られます。成長して松ボックリになります。

新能が開かれる広場に入ると、西には広い池と東屋、戸越の森が広がります。池前の広場に下りると、日当たりの良い東屋、休憩所になっていて食事の人も多い所です。



右手に進むと薬医門、足下は水仙の小道です。左手は池が見渡せる遊歩道。池に流れるせせらぎに向かいます。



せせらぎの向こうは手づくりの滝、浄化された循環水が流れ込みます。都会の中の参道、戸越の森の命の水です。ここから池周りの道が続きます。正面には大寒のこの時期、池周りの緑が見られます。



細い森の道を抜けると池前の広場に戻ります。冬の渡り鳥たちの天下です。池前の広場からは今散策してきた池の裏の戸越の森が見渡せます。大寒のこの時期、花は少なくとも池周りの散策を楽しむ事が出来ます。なお、梅は水仙の小道、池前の広場、せせらぎに通じる西口付近にあります。開花を待ちましょう。

【旗の台】



旗の台5丁目の路地、毎年鉢植えですがオウバイが咲きます。梅同様2月の花、濃い黄色と細い茎の緑色が特徴的です。荏原第5中学校のロウバイもやっと落葉し、黄色のロウバイが見頃になりました。道行く人も立ち止まってカメラに収めていました。



窓際の棚に載せられた鉢には黄水仙です。路地ならではの光景です。
狭い路地のロウバイも落葉後の最後の輝きです。



旗の台4丁目との境にある紅梅は例年他所より早く開花します。今年は更に早く、1週間以上も前に開花していました。隣の家では何時も立春の頃開花し目白が飛んでくるのですが、大寒の時期、既に開花しています。並びの紅梅も咲き始めていました。目白には遭えませんでした。



旗の台3丁目、荏原町駅前の方蓮寺の紅梅も開花していました。柳家小さん師匠から贈呈されたそうです。旗の台3丁目、旗岡八幡神社の裏では、ロウバイは終わりに近い状態、その上で寒椿が輝いていました。

【池田山公園】



ポカポカ陽気の春のような大寒を迎えた池田山公園は、雪吊が雪を待ちわびていました。（東屋付近）斜面を下りて行くと寒椿が紅く輝いていました。落葉して見晴らしが良くなり、池周りからは木陰で見えなかった雪吊の様子も一望出来ます。



池傍の休憩所付近でも、赤やピンクの寒椿が顔を出していました。遊歩道では紅い

木瓜が未だ、出番ではないのかなと言った感じで咲いています。



遊歩道や斜面の山道では、熊笹の白さが目立つようになりました。白い熊笹の向こうに雪吊、雪は無くとも冬景色です。緑の芝生も白く変わっています。一回りすると冬場の山道を歩いた気分です。なお梅はケヤキの広場の奥に背の高い木があり、今からです。

平成22年1月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月08日

大寒の頃 その2

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月08日

【梅開花／しながわ区民公園】

大寒の日は異常な寒さ、旗の台の紅梅は1週間も前に開花し、しながわ区民公園の梅の様子が気になり出掛けてみました。



玉牡丹



緋梅



唐梅



白牡丹



満月枝垂



八重寒



東雲

梅林ではロウバイも終わりに近づき所々に白や紅の梅が咲いていました。咲き具合から1週間は経っているようです。開花を確認したのは玉牡丹、白牡丹、満月枝垂、東雲、緋梅、唐梅、八重寒紅です。他、名札が再手配のものもありました。種類によって早咲きの梅もありますが、一般に立春頃から順次開花する花、異常気象による季節の先取りのようです。多くの梅があるのに以前から目白やヒヨドリが少ない場所です。ロープによる柵で梅林と通路を分けてあり、ロープの外からの撮影になります。近寄る事が出来ないものもあります。名前は良く見えませんが30種以

上はあるとのこと。梅林の何処かで次々と開花して行きます。



梅ではありませんが例年、梅林に咲いていた水仙は梅林の横(管理事務所)と、噴水広場の土手に咲いていました。その横にある小さなバラ園では2輪、淡い色のバラが咲いていました。管理事務所前は大きなジャノメエリカです。梅の疑問点は管理事務所で教えてくれます。

【早くも寒緋桜開花／荏原神社】



前日の1月21日開花したとのことでした。昨年よりは10日ほど遅いのですが、本来は立春を過ぎて2月10日頃が見ごろの花です。東海七福神めぐりも落ち着いた石造の恵比寿様も笑顔を休める暇がないようです。2本のうち1本は一晩とは思えないほどの咲き具合で、多くの人が足を止め、携帯等カメラに収めていました。



寒緋桜は下向きにぶら下がるように咲きます。

時折目白が飛んできます。満開でないので目立ちやすいのか、直に飛んでいきます。目白たちにとっても下向きの花は蜜が吸い難いようで、花びらを押し上げるようにして蜜を求めています。

大寒の日は異常な気温の上昇、この暖かさに開花したのかもしれませんが。気温が下がれば2月上旬までは楽しむ事ができそうです。旧東海道、品川橋から緑の神社の前、赤い欄干の鎮守橋の袂が淡いピンクに染まって見えます。

【ねむの木の庭】



庭園を見渡せば奥の方にセイヨウヒイラギが黄色い花を付けています。花壇は静か

ですが、足下のゲラニウムの葉が所々紅くなって冬の寒さを告げています。その中に、紫（濃いピンク）の小さな花がありました。咲き始めたようです。数箇所で見つけました。紅い葉に惑わされるかもしれません。



梅は蕾を付けていました。開花が待ち遠しいですね。アーチの上にはバラも咲いていましたが、残り少なで手入れするそうです。何故かこの時期、その中にモッコウバラが咲いていました。



道路沿いではジャノメエリカやユリオプスデージーが出迎えてくれます。やがてタチスボスミレの季節です。

平成22年1月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月08日

鎮守の森の消防演習

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月08日

【小山八幡神社】

1月26日は文化財防火デー、昭和24年1月26日法隆寺金堂の国宝壁画等が火災で焼損したことをきっかけに昭和30年に制定されたものでこの時期には文化財防火運動が行われます。

小山八幡神社は、品川区の西の台地、小山の森にある神社で鎮守の森の神社として親しまれています。神社の西側も以前は森でしたが、品川の田園都市として開発され閑静な住宅街になっています。言わば、「鎮守の森の神社」が森ごと地元の人々の文化財です。



午前9時半過ぎ、境内では荏原消防署により訓練の打ち合わせ中でした。10時、訓練開始の合図で本殿で火災が発生したと社務所から119番通報です。



通報後、消火器を使って初期消火です。



本殿の宝物も運び出しました。



続いて地元区民消防隊の出動です。見学には地元の方の他、近くの幼稚園の園児たち40名ほども訪れています。



境内の防火水槽を使い消火を始めます。なお、訓練のため本殿には放水せず構えだけです。



消防車と共に荏原消防団も到着、境内には指令本部が設けられました。



直ちに消火に加わります。本殿への放水は形だけです。本殿だけでなく隣接の鎮守の森への延焼を防ぐ為に体制を変えて森に向かって一斉放水です。



以上で訓練は終了し講評の後、小山八幡神社から感謝の言葉と神社の歴史についての話がありました。



解散の後、園児たちは消防署の方の話を聞き、消防車の見学です。

文化財防火デーにちなんだ消防演習は品川区では荏原地区の小山八幡神社の他、大井地区の養玉院、品川地区の品川神社でも行われました。

平成22年1月28日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月08日

空き缶回収機設置（エコスポット）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月16日

【旧東海道品川宿、街道松の広場】

1月23日、環境問題、リサイクル事業の一つとして始められた空き缶回収機（エコスポット）設置が、品川区商店街連合会や町会の人たちにより街道松の広場で行われました。



街道松の広場にはエコスポット開設を待ち受けた人たちが大勢集まり、午後1時から開設の式典、地元宿場通り南会西川会長、品川区商店街連合会網島氏の挨拶、旧東海道まちづくり協議会堀江氏の音頭による祝杯と続き、空き缶回収機の稼働開始です。



待ち受けた人たちはポイントカードを受け取り、早速準備した空き缶を回収機に入れ、ポイントが付けられるのを実感していました。なお、この日の参加者にはエコバッグも配布されました。

空き缶2本で1ポイント、コツコツと気長に行えば500ポイントで品川区内共通商品券と交換できます。稼働時間は月～金曜日の午前11時～午後5時です。

街道松の広場は品川宿散策路の休憩所、昼食時に立ち寄ることが度々あり休憩の旅人が利用できると、空き缶「ポイ捨て」も無くなりそうです。

平成22年1月27日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月16日

第20回伝統と技と味・しながわ展

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月16日

【品川区立総合区民会館きゅりあん】

品川には江戸時代、あるいはそれ以前から伝わる伝統があり、旧東海道品川宿場町、漁師町他でそのまま、あるいは形を変えて守られています。そのような伝統の技と味を身近に触れ合う事が出来るように一堂に集めた催しです。

訪れた人たちは職人さんたちとのふれあいです。普段目にする事のない職人さんたちの仕事振りに出会い、夫々の技・道について語り合っていました。話をしながら手を休めない職人さんも居ます。顔馴染みなのか話に溶け込んでいる人も居ます。針金細工、木工挽物の独楽作り、江戸切子体験等、職人さんの指導で体験できる所もありました。



入口傍では職人組みと称して職人さんたちの共同作品の展示販売です。銀器の匙と江戸切子の組み合わせさせた銀のスプーン、結婚式の引き出物にも使われるそうです。他、行灯、文字入り手拭等々、いずれも以前「今年の新作」として発表されたものです。



今回は品川区と交流のある山梨県早川町から、硯が特別展です。書道愛好家らしく、硯について熱心に説明を受けていました。硯用の石を使ったペンダント作りも体験出来ました。



中延から出展の東京銀器では二〜四代目と三人が揃いました。後継者不足が問題になる職人の世界、揃うのは珍しいとあって、技を披露しながら記念撮影が行われていました。

理美容鋏はお得意さんが限られますが、一般の人用の鋏、包丁等も扱っています。西中延の人気者、話が弾みます。刀鍛冶の伝統を受け継いでいるとの事。昔鍛冶屋さんで赤く燃えた鉄の丸棒が大きな金槌で叩かれ、薄い板になり、鎌や包丁の形に仕上がっていくのを見ていたことを思い起こします。



荏原町で出会う事のある表具の師匠、今回は親子で出展、話が弾みます。絵や書道の作品を掛け軸に貼り付ける特殊な技術です。

仏像彫刻は今回「職人さんを知ろう」と題して仏像彫刻の話があり、クイズも行われた事もあって多くの人たちが仕事振りを見ながら質問攻めでした。幾種もの彫刻刀を使った仕事、木の塊の中に出来上がりを浮かべながら木を削ります。



提灯は日本に伝わる照明器具、行灯が室内用であれば提灯は夜道を歩く時の懐中電灯、またお祭りや店の看板として利用されてきたものです。表に書かれる文字は独特の字体です。出来上がった提灯に文字を書くという立体的な場所に仕上がり进行を思い浮かべながらの作業です。

三味線は海外の文化が日本独特のものに進化した楽器です。しかし最近の音楽はその旋律等の具合から日本とは気候の違う地方の音楽に似ている気がします。温暖化の影響かもしれません。日本の音楽から遠くへずれて行きそうです。日本の歌、旋律は三味線が、横笛、尺八や琴と共に語ってくれそうです。



日本刺繍、貴重な技術、普段目にするのは機械的に縫われた刺繍です。幾本もの糸を丁寧に絡ませながら作業が進められていました。ただ感動してじっと見ただけでした。

和服関連の手染友禅、和裁、帯仕立てが並んでいます。手染友禅は着物の出来上がりを想像しながら頭の中に描かれた絵を描くという特殊な「絵描き」の作業と、糊を使った特殊な染物です。他、和裁、帯仕立ては布を使って衣服を作る、和服の中の分業された世界です。



子供たちの人気は独楽作り、回転する木が削られ丸くなって独楽の形になって行きます。木工挽物展示は子供たちの独楽作り体験コーナーになっていました。

独楽作りは材料の木を回転させて行いますが、江戸切子は回転する刃に硝子の器等を手に持って押し当てながら動かし、硝子の表面を削り模様に入します。大人でも体験している人がいました。



和竿は釣り愛好家の集まりのようで話が弾みます。材料の入手が大変そうです。金網は手軽に出来そうに見えるので、体験する人が多くいましたが、実際には、細かい所に微妙な力が必要な作業です。



会場入口付近では手織織の軽快な音が響いていました。「鶴の恩返し」を思い浮かべる音です。何時の間にか器械織が当たり前になり日本の手織織は珍しい光景になっています。一本ずつ糸を絡ませての丁寧な作業、作る人の気持ちの暖かさを感じる織物です。糸は草木染をしたものを使います。他にも桐箆筒、紋章上絵、漆工芸、浮世摺り、骨董修理等の技の紹介がありました。

子供たちは見るだけでなく、作ることが楽しみです。未来の名工大集合では、木を使った職人さんたちから多くの木切れが寄せられ、子供たちはその木切れを、接着剤を使って思い思いの作品を作りました。自動的に機械が物を作る事が当然のようになり、忘れられた「作る楽しみ、喜び」が感じられたらいいと思います。



伝統の技を一回りしたら、伝統の味で休憩です。おでん、和菓子、手巻き寿司、飴、せんべい等この会場の縁台で食する事が出来るものもあります。またお昼には「とら福なべ」と称した「フグ味」の鍋物が限定販売されました。休憩を兼ねながら伝統の「味」を楽しんでいました。

後地（小山2丁目）から出展のせんべいの実演販売は区内でも有名、独特のお喋りをしながら焼きたてのせんべいを振舞っていました。



北品川からは2箇所の和菓子屋が出展しましたが、ここでは注文があったから最中

等に「飴」を詰めての販売です。出来立ての和菓子の感覚です。忙しそうでした。西中延昭和通りの店では蒸籠から「ほかほかのシュウマイ」を出してくれますが、今回はお土産です。色んな食材のシュウマイがあります。



今は当たり前になっている手巻きの寿司の元祖、荏原町の料亭「秀」から「巻之助」という寿司販売です。お茶の詰め放題だけでなく試飲も行われました。会場唯一の飲み物です。

他、平和坂通りの蒲鉾等練り製品の販売の他、おでんの実演販売で来場者のお腹を満たし、中延の飴製造販売ではきな粉飴の実演販売も行われました。



会場では、午後1時と4時から日本の伝統が披露されました。

23日は「江戸糸あやつり人形」でした。顔の表情、身体の動き、魂を込めた作り物であり、手さばきです。合間に「人形の作り」について人形を使いながら説明がありました。

24日午後、会場から「日本の音」が流れてきました。尺八と琴の演奏です。一日中演奏していて欲しいくらいでした。品川の伝統を味わうのに、会場を和ませてくれます。

最後に浮世絵、仏像、金網製品、織物製品等、伝統の技の数々がチャリティオークションにかけられました。他にもふれあい教室として、竹を使ったストラップ作り、桐材を使ったペンダント作りもありました。会場入口近くではお茶席も設けられました。

平成22年1月29日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月16日

福よ飛んで来い～節分祭の豆まき～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月18日

【旗岡八幡神社】

旗岡八幡神社は昔、中延八幡神社と呼ばれ、隣接の法蓮寺と共に荏原の中心でした。源氏の軍勢が旗揚げをした場所として「旗の台」「旗が岡」「源氏前」等「旗」「源」の名が残っています。また地域は笥等農耕の村でしたが、京浜工業地帯の一員として鉄道等により急速に発展した昭和の町で、神社周辺は荏原町と呼ばれています。

節分祭では恒例の豆まきが行われます。福豆の袋には記念品と交換できる札が入ったものがあり、神社で交換のものと氏子商店街で交換のものと二種類があります。午後2時からは本殿で式典が行われ、神楽殿で琴の演奏が行われる中、豆まきを待つ大勢の人たちが境内に集まっています。



2時30分から7組に分けて豆まきの開始です。参加者の紹介があり今回は町会からの年男年女の人たちの参加が少ないようで、神社関係の人たちが例年より多く参加していました。

集まった人たちはお土産付きの福豆が目当て、飛び交う多くの福を掴みたいという思いでいっぱいです。太鼓の合図と共に「福は内、鬼は外」の掛け声、福豆がまかれる度に大きな袋を広げたり、飛び上がったり、大変な興奮です。



子供たちには前列が準備されましたが、勢いよく飛んでいく福豆は子供たちの頭上を過ぎ、手前には来てくれません。30分程で終わりましたが、暫くは興奮が冷めない境内でした。

節分は季節の変わり目・節目で、立春、立夏、立秋、立冬の前日を言い、年に4回ありますが、冬から春に変わる立春の前日が昔の大晦日にあたる事から代表的な節分になっています。現在の大晦日は春夏秋冬の区切りと共に、宗教を基とした西洋暦に合わせてあり、一月ほどずれています。節分は日本に伝わる習慣で大晦日に豆をまいて邪気を払い、正月を迎えたいという日本らしい季節感に満ちた行事だったと思います。

平成22年2月4日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月18日

福寿草～立春を告げる花～

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月19日

【来福寺】

境内には色々な季節の花が咲き、立春の頃には福寿草が咲いています。立春後の2月6日に訪ねてみました。



長い参道の山門脇には白梅が咲いていました。正面が本堂、その手前に白梅が咲いています。小柄な木で見頃でした。その木の下に福寿草が咲いていました。



咲き具合から数日前に開花したようです。やはり立春を告げる花です。黄色が神々しく輝いています。その色が太陽の光を注いでくれる感じになります。「春を分けてあげましょう」そんな感じです。



他境内には、紅梅、白梅と可愛い花が咲いています。



山門に入ったすぐ足元には赤い木瓜も見頃でした。広場では水仙も本堂を見上げています。

【小山の台地 三谷八幡神社】



鳥居脇には白梅が見頃を迎えていました。隣では紅梅も輝いています。
境内の庭園の一角に福寿草が咲いています。



毎年立春の頃に開花するのは、小寒の頃から一月遅れで送られてきた太陽の熱エネルギーが上昇し始めたのを、大地の中で福寿草が感じたからです。他にも節分の頃に開花する節分草というのがあるそうです。



他境内には紅梅、白梅と可愛い梅も咲いています。稲荷社の前には黄水仙も咲いています。社務所前にはロウバイも咲いていました。

【小山 麻耶寺】



山門前には白梅が見頃を迎えていました。



その山門の石段の脇に福寿草が咲き始めていました。福寿草の花壇と言った感じです。今年は一寸遅れ気味のようなのですが、立春を告げる花です。

福寿草は人間が感じていない気候の変化を教えてくださいました。人間もそのような自然の変化を感じ取る事が出来れば「春だなー」という感覚になると思います。その

ような努力が必要なようです。自然と闘うのではなく、自然と友達に・家族に戻る事が異常気象の解決策のようです。

平成22年2月8日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月19日

早咲きの桜（立春の頃）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月25日

【荏原神社】



1月大寒の頃に開花した寒緋桜、満開になっていて、多くの人の目を楽しませていました。望遠レンズを付けて三脚でじっくり構えている人もいました。



開花は早くとも気温が上らず、一気に開花することが無く長持ちしたようです。石造りの恵比寿様も華やかな桜に囲まれ笑顔に包まれていました。

【大井町JR土手】



JR大井町駅東側の土手の桜並木で一足先に河津桜が開花していました。この土手には多くのソメイヨシノがあり、その枝の中にほんのりとピンク色が見えます。

平成22年2月10日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月25日

第11回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2010年02月28日

平成22年2月20日（土）、第11回環境記者情報交換会が12名の環境記者の出席のもとで行われました。環境記者情報交換会は今年度3回目の開催です。

●はじめにインタメディア代表の佐山吉孝様から、「昔のおもかげを探してまち歩き

その三、田園都市構想のまち／小山・旗の台を歩く」と題してお話を伺いました。その一部ですがご紹介します。



この地域も坂が多く、小高い丘の上にある小山八幡神社境内からは東京タワーが、また江戸見坂からは新宿副都心が見られます。（写真下左）

「江戸見坂」という坂の名前は、当時その場所から江戸のまちが眺められたことから付けられたのでしょう。



品川区と目黒区にまたがる林試の森公園は、春は桜、秋には池に映る紅葉がとてもきれいで、いつ行っても本当に気持ちの良い公園です。ぜひ訪れてみてほしいと思います。



天然記念物や史跡、歴史を伝える碑や道標、また古くから続いているお祭りなどの紹介があり、環境保全を通してこれらを将来に残すことの大切さを感じました。

●続いて環境記者の皆さんが取り組んでいる活動紹介と情報交換です。



(左から、畔柳さん、勝山さん、小野さん、村井さん)

・畔柳さん：以前、五反田駅近くの公園に多くのごみが捨てられていた。毎週1回ごみ拾いを続けていたら最近ごみがなくなった。ごみが落ちてると捨てる人もいるが、周りをきれいにしておくと思えば捨てる人も少なくなると思う。

・勝山さん：品川観光協会で観光ボランティア活動をしている。来年から羽田空港が国際化されるので、大田区と一緒に地区の紹介をする活動をしている。

・小野さん：花壇作りを通して花と昆虫の生育（成育）に関わりたいと考えている。今後、花のボランティアとして聖蹟公園での花壇作りに取り組むことにしている。

・村井さん：林試の森公園の近くに住んでいるので、林試の森公園の四季を皆さんにお伝えしようと思っている。先日行ったところ（2月12日現在）河津桜が5～7分咲きになっていた。

・皆さん：河津桜は大井町駅の近くにも咲いているが、この花は長期間私たちを楽しませてくれる。紅梅に近いピンク色をしており、小さい木なのにいっぱいの花を咲かせ、‘はかない’という桜のイメージとはかけはなれ‘あでやか’と言ったほうが近い。先日雪が降ったときにははすごくきれいだったと聞いた。

荏原神社の寒緋桜は今もきれいで、1月初旬から咲き始め1ヶ月以上も咲いている。



(左から、真壁さん、青野さん、門倉さん)

・真壁さん：勝島運河にある‘花海道’の一角を借りて昨年菜の花の種を植えた。もうすぐ黄色の菜の花を楽しむことが出来る。最近はおらが泳ぎ水鳥も来ているが、水がきれいになって、水鳥の水かきも見えるようになっている。

・青野さん：マンションの管理人をしているが、ごみの分別をしてくれない人がいる。どうしたらきちんと分別してもらえるか、管理人の仲間で話し合いをしている。今は京浜運河に海の生物がいるけれど、ごみは結果として東京湾を埋め立てることになり、ただの川の延長となってしまう。京浜運河は今も淡水化が進んでいるが、ごみを減らしたり水の流れを考えることにより、海の生物を生かすことができる。小さな力だけれど、ごみの分別に努めている。

・門倉さん：林試の森で毎朝1人で通路を何時間もかけてもくもくと掃除をしているが、私も一人ひとりの力が全体を変えてゆくと思いつながりながら行っている。散歩している方と自然に挨拶や話をする事ができ、最近は公園もきれいになってきている、何年も前からやっている人もいる。新しい方も手伝ってくれ、徐々にこの輪が広がっていくと期待している。



(左から、志賀さん、布川さん、寿松木さん、石毛さん、白石さん)

・志賀さん：昨年から続いている町会中心の「花いっぱい運動」、「屋上緑化」は順調に進んでいる。昨年ダンボールで灯籠を400個作り商店街に並べた。環境にやさしいということでローソクを使いたかったが消防署の許可が下りなかったので、1.5Vの乾電池と豆電球を使った。

・布川さん：区でも2020年までにCO2排出量を25%削減しようという目標を掲げ、区民から意見を求め、品川区地球温暖化対策地域推進計画の策定をしている。私はその会議のメンバーとして意見を申し上げた。計画は作ることも実施することが大切であり、人と物と金がかかると申し上げた。

・寿松木さん：最近エコバッグが普及してきているが、あるスーパーがビニール袋を有料にしたら売り上げが落ちたため取りやめたと聞いた。袋を有料化するよりも袋代をキャッシュバックしたり、ポイント制にした方が良い。また雨傘用のビニール袋は無駄だと思う。折りたたみ傘をたたんで自分が用意した袋に入れるようにしたら良い。

・石毛さん：体育指導員をしており、主にウォーキングを担当している。区内や周辺を歩いておりその間に草花を見ることもあるが、ウォーキングが目的であり、また花の名前が分からないので皆さんにお伝えもできない。今後は下調べで歩いたときにあちこち見ながら、ウォーキング参加者にご案内して歩いてみようかと思う。

・白石さん：環境記者として情報を出していないが、区で行っているイベントには参加、協力している。スマイルスクールでのボランティア活動をしているが、子供たちはエコについて結構よくわかっていて、小学2年生くらいでもしなければいけないことは生活の一部に入っている。この子供たちが大きくなったときにどんなに良い品川になるのだろうと楽しみです。

・佐山さん：3年間話をしているが、最初の頃に比べると皆さんイキイキと発言しておられ、雰囲気も違いを感じる。一番印象的な話は、自分一人が変わることが全体を変えることになることといったことで、自分自身も全くそう思う。素晴らしい環境会議だと思う。

佐山さんの話の後、皆さんの熱心な意見交換は1時間半近くにもなり、予定終了時間を大幅に過ぎてしまいました。大変に盛り上がった今年度最後の環境記者情報交換会でした。

記者のみなさま大変お疲れ様でした。

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2010年02月28日

初午祭のおもちつき

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月28日

【旗の台伏見稲荷神社】

旗の台伏見稲荷神社は関東大震災後旗の台に鎮座、旗の台南町会の鎮守として親しまれ、守られています。街の歴史の一つです。早朝から飾り付け、先ずはお供えや接待用の御餅の準備です。



薪による昔ながらの釜を使いますが、最近は薪の入手に苦労しています。



祠の裏で蒸かしたもち米は神社前に運ばれ、木製の臼でつきます。午前10時、旗岡八幡神社の神職により初午祭の式典です。最後は、全員で玉串を奉納しました。



「おもちつき」の再開です。



次々と餅がつかれる中、隣接の町会会館では婦人部の人たちが経験豊富な達人の指導の下、つきたての餅を伸ばし、ちぎり、「接待用」「お土産用」「食事、お八つ用」と作っていました。



「おもちつき」の会場にきな粉や餡子、納豆などに塗した餅がだされ、一寸一休み。餅を食べて元気が付いたら、もちつきの再開です。子供たちも来ました。自分の身体ほどの大きな杵を必死に抱えて挑みます。



親子入れ替わり、皆でつきました。「おい、傍で控えている」と息子さんを頼りにするお父さんも居ました。「ヨイショ・・・ヨイショ」の掛け声と餅をつく音が路地から路地に響き渡っていました。



お昼には雑煮も用意されました。



午後1時、参拝者に「お土産」の餅を配る時間です。大勢の参拝者がつきたてのお持ちをお土産に頂きました。



「おもちつき」の終盤は特製です。皆の楽しみ「桜海老」「胡麻」「青海苔」「唐辛子」等を混ぜてつきました。夫々独特の香りあたりで漂い食欲をそそります。「おもちつき」に参加している人だけの特権のようです。最後の一臼は裏方を務めた女性たちも含め、皆交代でつきました。

長年の伝統は子供たちが見て、体験して受け継がれていきます。旗の台伏見稲荷神

社に80年以上も続く伝統行事は、町の人たちの誇り、残暑ならぬ残寒の初午の春日に心の暖かさを感じた一時でした。

平成22年2月15日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年02月28日

白狐舞う初午祭

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月04日

【東大井、梶原稲荷神社初午祭】

東大井の梶原稲荷神社で恒例の初午祭が行われ、白狐の舞や獅子舞が披露されました。



稲荷神社の多くは赤く塗られた木の鳥居が思い浮かべられますが、ここは道路に面して石造りの鳥居があります。狐の置物は各所にあります。お昼時、参拝の人たちが見え始めました。

参道奥、社務所に並んで神社・本殿があります。



この付近一帯はかつては山の中、狐が多く出入りしていたと言われ、祠で見つかった狐のミイラが保存されています。初午祭の朝、飾り付けの際に見ることが出来るそうです。

午後1時から本殿で天祖諏訪神社の神職により初午祭の式典が行われました。



本殿脇では狐たちがお参りの様子を見守っています。本殿の裏では親子の狐たち、可愛い狐たちがお祝いの喜びに戯れています。お囃子が始まる時間、太鼓に興味を抱いたのか、小太鼓、大太鼓と叩きまわる子がいました。なかなか撥を放してくれません。



1時20分、大太鼓、小太鼓、笛、鉦によるお囃子が始まりました。路地から路地に響き渡り、祭が始まっている事を報せます。お菓子の配布があります。お菓子を頂いたらお参りをします。



子供たちが来たところで白狐の舞が始まりました。場所はお囃子同様神社前の路地(坂道)です。今回は若人による初めての舞です。緊張の所為か呼吸を整えるのに時間を要しました。なお、「天狐の舞」と言うそうです。その後、若さ溢れる勢いで初舞を披露しました。一踊りした所で本殿に向かいお参りです。お参りした後「天狐の舞」の再開です。

激しく、圧倒されるほどの若さある舞でした。



いよいよ大詰め、紙テープを勢よく飛ばして20分の舞は終了です。初めての舞に大きな拍手でした。堂々とした初舞台が初午祭を祝いました。続いて獅子舞です。昨年までは若人たちによる舞でしたが、今年は熟練した達人による披露です。お囃子は鼓、笛、鉦に変わりました。

挨拶の後軽い舞を披露し「寿 初午祭」の掛け軸を掲げ、初午祭を祝いました。いよいよ獅子舞の本番です。



大地を這う獅子の演技です。左足を右肩に載せ、手で掴むという大変な熟演もありました。

次々と大地に這っての演技が続きました。最後は拾ったものを口にし、そのまま眠りにつき、そこへおかめの登場です。



昨年まではおかめ、ひょっとこの一人芝居でしたが、今年は「大笑い(福笑い?)の顔」が後にありました。手足や身体の仕草で一つのお面の表情が次々と変わります。獅子舞同様、この道の達人です。子供たちもすっかり虜にされていました。子

供たちの前では、座り込んで前後入れ替わりの演技を披露しました。寝ている獅子を起こし、演技の終了です。



起き上がった獅子は縁起物、子供たちの頭をさする仕草に移りました。子供たち勢いのいい獅子に逃げ回っていました。ご祝儀に奮闘する獅子の姿もありました。獅子舞も終わり、子供たちもお菓子を頂いて帰途につき、またお囃子がはじまりました。

祭囃子が流れる神社前の路地は飾りけのない、内々の「村の鎮守の・・・今日は楽しいお祭り日・・・」と懐かしい昔歌を思い起こしそうな、昔ながらのお祭りが舞台でした。

平成22年2月24日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月04日

名残雪（雨水の前）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月04日

【大名庭園；池田山公園】

明日は雨水、凍り付いた雪解け水が流れ出す頃です。というのに又も昨夜から雪が降り始め、夜が明けても降り続けました。早速池田山に出かけたのですが、途中で降り止んでしまいました。開園の午前7時半頃の雪振る中の「雪吊」の様子は絵になったとの事。降り止んだら次々と消えていったそうです。天気予報では積雪も最後のようです。池田山公園の名残惜しい雪景色です。



第三日野小学校前の門から入ると古井戸。都会の山奥の残雪に雪吊、東屋が見えます。広い遊歩道からは雪吊の中の松に、降り積もった雪が残っているのが見えます。



雪囲いの雪は落ちていました。筵は暖かいようです。東屋付近も雪化粧。斜面には寒椿と松に雪が少し残った雪吊が見えます。寒椿の花に雪が積もっていました。



雪吊の松に積もった雪です。細い葉で雪を支えていました。他の常緑樹も細く小さな葉に雪が残っていました。

今年の2月は時折雪がちらつき、一見真冬を思わせていますが、明け方と真昼の気温の差が殆ど無く、夜は明けたもののお昼にならないで夕刻を迎えると言った方が良いのかも知れません。穏やかな陽射しを取戻せば、都会の山里の野草たちが目覚めます。

【ねむの木の庭】



積雪は殆ど無く、池田山公園の名残雪を見ている間に庭園の雪は解けていったようです。
 ねむの木の下でクリスマスローズに似て間違えられるレンテンローズが開花していました。
 気温が低い日が続いた所為か白梅は散ることも無く、雪を下に咲き誇っていました。



雪の下には緑色、暖かい陽射しを待つユキノシタです。



道路沿いのユリオプスデージー、ジャノメエリカは健在、エリカには雪解け水が光っていました。日中の陽射しを取戻せば春のお花畑になります。

【西中延】



延山くすのき公園は、東急池上線の地下化によって生まれた公園、近隣の人たちが花々の手入れをしています。公園のあちこちでウンナンオウバイが黄色の花を輝かせていました。新しく植えられたネコヤナギも花が付き始めました。



路地では何時もの所にシナムクサが満開状態でした。マンサクよりやや早めに開

花し、葉は落葉せずの一部残っています。追いかけるようにマンサクが開花し、マンサクが咲けば春の花々が次々と開花します。マンサクは春の花の開花宣言です。



荏原町に抜ける旗の台の路地では真赤な木瓜が咲き始めていました。紅梅も咲いています。隣には最近多く見かけるようになったアロエの花です。東京が九州以南の地域と同じになった証です。アロエと梅の組み合わせ、二昔前の東京では考えられなかった事です。

平成22年2月18日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月04日

環境記者情報交換会に参加して

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月12日

先日の環境記者情報交換会に参加させて頂き本当にありがとうございました。その際にお聞きしたことや、最近私が感じていることについてまとめてみました。私は品川区に来てまだ1年ほどで、区内のことをほとんど知りません。私たちの近くに河津桜が咲いている（林試の森公園、大井町駅近く）と聞き、大井町駅近くの河津桜を見てきました。満開時期が少し過ぎていましたが、きれいでした。こんなところにも小さな自然を感じる事ができることをうれしく思いました。



最近エコバッグがよく利用されており良い事だと思いますが、同じように雨の日の傘袋もできないでしょうか。家を出るときにビニール袋でも持って出ればよいのですから。

トイレのお話で恐縮ですが、トイレでよく見かけるメッセージです。以前は「きれいにお使いください」だったと思いますが、最近は「きれいにお使いいただきありがとうございます」となっています。お互いきれいに使いましょうという気持ちを伝える点で「心の環境美化」と言えるのではないでしょか。

平成22年3月5日

寿松木泰子（記者NO.080111）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月12日

旧タコ公園に新タコ完成

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月19日

「タコ公園」と呼ばれて親しまれている神明児童遊園に新しいタコが完成しました。

以前行った時は金網の中でしたが（写真下左／2月26日）、3月5日には公園がオープンし、子どもたちが楽しそうに滑っていました（写真下右／3月15日）。



この公園は以前は道路の向い側にあったのですが、道路整備と公園改修により今の位置に変わり、新しくできた親ダコと、移設された子ダコが子どもたちを楽しませてくれています。

整備された公園では子どもたちも安心して遊ぶことが出来るでしょう。

二葉図書館前にあった旧タコの説明も写真に収めておきました



撮影平成22年2月26日、3月15日

石毛紳公（記者NO.070202）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月19日

品川の花便り（雨水の頃）；心に残したい品川 旗の台～西中延

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月25日

品川には、荏原の中心であった筍等農耕の村が、京浜工業地帯の一員として、鉄道等により急速に発展した昭和の町があります。立春の頃から、過去に無い異常気象、昼間の気温が上らない、晴れの日がないといった日が続いています。雨の止んだ時間を選び、出かけてみました。

【旗の台5丁目】



赤く輝く寒椿に並んで、咲き始めですが、やや大きめの梅です。ブロック塀が苔生しています。低温、高温が続いているせいようです。広い地域で、街路樹でも見られました。梅雨を思わせませす。



ミモザと並んで杏子の花のような梅が見られました。



満開のミモザ、黄色の輝きが目を引きます。白い寒椿も、ふっくらとしていました。水分が多いのかもしれない。



盆栽の木を生垣に植えた感じの可愛い木に紅白の梅が咲いています。旗の台には、途中から、枝毎、紅白に分かれて咲く梅の古木がありましたが、その梅も引退、その後は、この可愛い木だけです。白い中に淡いピンクが見られたのですが、写真では感じ難いようです。



この時期、ロウバイが満開です。大寒の頃が見頃の花が、未だ残っている、つまり、大寒を感じる事が出来なかったようです。冬は、氷点下になる必要があることを物語っています。

【中延5丁目】



旗の台の坂を下り、荏原町へ。立会川に近い路地ではサクラソウが鉢に並んでいました。品川の至る所で見られる路地の春です。

近くの荏原町駅付近の立会川遊歩道は、シャイニングロードと呼ばれています。木陰で、木瓜がちらほら咲いています。



シャイニングロード唯一のサンシュユ、小さな黄色の花が開いていました。今年は枝が少なくなっていて、花数も少なく目立ちませんでした。

【旗の台中公園】



三間通り過ぎ、立会道路の延長、旗の台の道路公園です。

中ほどの脇にある旗の台中公園では、白モクレンが開き始めていて、ヒヨドリが集まっていました。人間には感じ取れないようですが、鳥たちは、閉じたガクヘンが緩み、花の香りが漂っているのを感じ取ったようです。文明の進化は、気温だけでなく、臭いに関しても、人間の感覚をなくさせているようです。

【西中延】



荏原町駅前付近に戻り北上、西中延に出ます。
雨水の前に、シナマンサクが満開になっていたマンションの庭では、枝垂れの白梅
が見ごろを迎えていました。
また、サンシュユも見頃になっていました。



荏原町から北に続く仲通りに出ると、例年の生垣に、マンサクが開花していまし
た。春の花の開花宣言です。



途中、東急池上線が下を通っています。その上に開かれた延山くすのき公園があり
ます。花壇の多くは、近隣の人たちにより手入れされていて、雨水の前に開花して
いたウンナンオウバイが黄色く目立っていましたが、濃いピンクの花が目を引きま
した。3月に見頃を迎える緋寒桜で、荏原神社では、2月に見頃を迎えるので、緋
寒桜と呼んでいます。開花時期の違いです。近年、各地の公園や街路樹として植え
られています。他、ネコヤナギも成長が続いていました。

平成22年3月1日

●撮影：内田雅弘(記者NO.060104)

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月25日

春が来た

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月30日

先日区役所へ行った折に、しながわ中央公園に立ち寄ってみました。

寒かった冬も終わり、暖かく感じる日が多くなり、春の花々が私たちに春の到来を告げているようでした。



スイセン



スイセン



マーガレット(ピンク)
ビオラ(白)



キンギョソウ(赤) ビオラ(白)

これらの花はガーデナーによってきれいに手入れされていますが、ボランティアも募集しています。



公園の隣にある運動場の入口近く（下神明駅側）にハイブリッド照明灯があります。

ハイブリッド照明灯とは、風力発電装置と太陽光発電装置を併せ持つ照明灯のことです。

この照明灯の優れたところは、雨の日でも風があれば風力発電が行われ、照明灯用電力の発電をします。また、晴れていれば太陽光発電により照明灯用電力の発電をすることです。

したがって、雨の日でも晴れの日でも原則、自らの照明に必要な電力を自分でまかなうように計画・施工されている優れモノといえます。

最近では環境に配慮した照明器具がよく見られますね。



平成22年3月15日
布川憲満（記者NO.060107）

カテゴリ：平成21年度

投稿日：2010年03月30日